

令和7年度

授業進度計画

(シラバス)

1年次

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校

看護学科

目 次

教育課程表	1
カリキュラム構造図	3
1年次	
教育心理学	4
教育学(教育原理・教育方法論)	5
論理的思考の基礎	6
情報モラル	7
情報科学概論	8
倫理学Ⅰ	9
法学概論	10
家族社会学	11
英語コミュニケーション	12
コミュニケーショントレーニングⅠ	13
人体の構造学Ⅰ	14
人体の構造学Ⅱ	15
人体の機能学Ⅰ	16
人体の機能学Ⅱ	17
臨床生化学	18
感染防御学	19
病理学	20
疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器)	21
基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史)	22
基礎看護学概論Ⅱ(看護倫理・理論)	23
基礎看護技術論Ⅰ(コミュニケーション・感染)	24
基礎看護技術論Ⅱ(バイタルサイン・看護記録)	25
基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動)	26
基礎看護方法論Ⅱ(清潔)	27
基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄)	28
臨床援助技術論Ⅰ(与薬)	29
臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別)	30
看護演習Ⅰ(基礎Ⅰ:技術・リフレクション)	31
在宅看護概論	32
成人看護学概論	33
老年看護学概論	34
小児看護学概論	35
臨地実習	
基礎看護学Ⅰ実習(対象理解)	36

教育内容		授業科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
		科目名						
基礎分野	科学的思考の基礎	教育心理学	1	30	30			
		教育学(教育原理・教育方法論)	1	30	30			
		論理的思考の基礎	1	20	20			
		看護物理学	1	15		15		
		情報モラル	1	15	15			
		情報科学概論	1	15	15			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
		小計	7	155	110	45		
	人間と生活・社会の理解	倫理学Ⅰ	1	15	15			
		倫理学Ⅱ	1	15				15
		法学概論	1	15	15			
		家族社会学	1	15	15			
		英語コミュニケーション	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	15			15	
人間理解の基礎	1	15			15			
小計	9	180	105	30	30	15		
計	16	335	215	75	30	15		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ(演習)	1	15		15		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
		臨床生化学	1	20	20			
		臨床栄養学	1	20		20		
		小計	7	175	140	35		
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器)	2	40	40			
		疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ(脳神経・運動・精神)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ(小児・腎・泌)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅴ(生殖器・周産期)	1	15		15		
	リハビリテーション論	1	15		15			
	小計	10	250	100	120	30		
	健康支援と社会保障制度	看護と法律(保助看法・関係法規)	1	30				30
		公衆衛生学	1	20		20		
		社会福祉・社会保障論	1	30		30		
		保健指導論(健康科学概論含む)	2	40			40	
		保健統計	1	20			20	
小計		6	140		50	60	30	
計	23	565	240	205	90	30		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史)	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ(看護倫理・理論)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅰ(コミュニケーション・感染)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅱ(バイタルサイン・看護記録)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント)	1	20		20		
		基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ(清潔)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ(与薬)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ(看護過程)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅴ(看護過程の実際)	1	15		15		
	看護演習Ⅰ(基礎Ⅰ:技術・リフレク)	1	15	15				
	看護演習Ⅱ(基礎Ⅱ:技術・リフレク)	1	15		15			
	小計	15	365	255	110			
	地域・在宅看護論	地域看護学	1	15			15	
在宅看護概論		1	15	15				
地域・在宅看護方法論Ⅰ(家族援助)		1	30		30			
地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)		1	30			30		
地域・在宅看護方法論Ⅲ(展開・演習)		1	30				30	
看護演習Ⅲ(在宅:技術・リフレク)		1	15				15	
小計	6	135	15	30	45	45		

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容	科目名						
成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
	成人看護方法論 I (呼吸・循環)	1	30		30		
	成人看護方法論 II (アレルギー・血液)	1	20		20		
	成人看護方法論 III (脳・代謝)	1	30		30		
	成人看護方法論 IV (消化器・生殖・胃がんOP看護過程)	1	30		30		
	看護演習IV (成老 I : 技術・リフレク)	1	15		15		
	看護演習 V (救急蘇生法)	1	15			15	
	看護演習VI (成老 II・III : 技術・リフレク)	1	15			15	
小計	8	185	30	125	30		
老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
	老年看護方法論 I (運動・腎)	1	15		15		
	老年看護方法論 II (生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	1	30			30	
	老年看護方法論 III (看護過程)	1	20			20	
小計	4	95	30	15	50		
小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
	小児看護方法論 I (発達段階別)	1	30		30		
	小児看護方法論 II (症状別看護)	1	30		30		
	小児看護方法論 III (看護過程)	1	15			15	
	看護演習VII (小児 : 技術・リフレク)	1	15			15	
	小計	5	120	30	60	30	
母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
	母性看護方法論 I (妊娠・分娩・新生児)	1	30		30		
	母性看護方法論 II (産褥・育児)	1	30			30	
	母性看護方法論 III (看護過程)	1	15			15	
	看護演習VIII (母性 : 技術・沐浴演習・リフレク)	1	15			15	
	小計	5	120		60	60	
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
	精神看護方法論 I (症状別看護)	1	30			30	
	精神看護方法論 II (生活)	1	30				30
	精神看護方法論 III (看護過程)	1	15				15
	看護演習IX (精神 : 技術・リフレ)	1	15				15
	小計	5	120		30	30	60
看護の統合と実践	看護管理論 I (医療安全)	1	15				15
	看護管理論 II (看護マネジメント)	1	15				15
	災害看護論 (トリアージ含む)	1	30				30
	国際看護論	1	15				15
	看護研究 I (基礎)	1	30			30	
	看護研究 II (実践・研究発表含む)	1	30				30
	看護の展望 (学会参加・看護観発表会含む)	1	30				30
	救急蘇生法 I (日赤救急法含む)	1	15		15		
	救急蘇生法 II (BLS研修含む)	1	30				30
	看護演習 X (生活 : 技術・リフレ)	1	20				20
	看護演習 XI (統合 : 技術・リフレ)	1	30				30
	総合看護セミナー I (総合看護過程 I)	1	30				30
	総合看護セミナー II (総合看護過程 II)	1	30				30
	総合看護セミナー III (卒業前演習)	1	20				20
小計	14	340		15	30	295	
臨地実習	基礎看護学 I 実習 (対象理解)	1	45	45			
	基礎看護学 II 実習 (日常生活援助)	2	90		90		
	地域看護学実習 (居場所・産業・行政)	1	45			45	
	地域・在宅看護論実習	2	90				90
	成人・老年看護学 I 実習 (看護過程展開)	2	90		90		
	成人・老年看護学 II 実習 (急性期・回復期)	2	90			90	
	成人・老年看護学 III 実習 (慢性期・終末期)	2	90			90	
	成人・老年看護学 IV 実習 (リハビリテーション・継続看護等)	2	90			90	
	小児看護学実習	2	60			60	
	母性看護学実習	2	60			60	
	精神看護学実習	2	90				90
	生活援助実習 (施設等)	2	90				90
	看護の統合と実践実習	2	90				90
	臨地実習 計	24	1020	45	180	435	360
	総合計	125	3400	860	905	830	805

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
教育心理学	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	大久保 智生(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 人格形成および発達に果たす教育の役割を理解し自他ともにその関わり方に教育的配慮ができる力を養う。コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.心理学の基礎的な位置づけを理解し説明できる。 2.生涯発達する人間の行動や心理のメカニズムについて理解しその関わり方に教育的配慮ができる。 3.生活者としての対象が抱えるさまざまな問題について理解し、コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。</p> <p>【実務経験】大久保智生:大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。 学生が学びやすい事例等を活用するとともに教授方法を工夫する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	授業の進め方について	
2	心理学とは	行動の科学としての心理学について	・科学、行動
3	記憶	記憶のメカニズムについて	・感覚記憶、短期記憶、長期記憶
4	知覚	外界の情報の受け取り方について	・知覚、感覚、刺激域
5	学習	持続的な行動の変容について	・条件づけ、モデリング
6	動機付け	人の行動の原因について	
7	発達	生涯発達について	・親子関係
8	パーソナリティ	人の性格とその理解の仕方について	・持性論、相互作用論
9	対人関係	他者との関係が行動に及ぼす影響について	・援助行動
10	ストレスと適応	ストレスへの対処の仕方について	・適応、コーピング
11	犯罪・非行	少年犯罪の凶悪化のウソについて	・少年犯罪の凶悪化
12	虐待	虐待について	・虐待、世代間連鎖
13	学力低下	学力低下と階層について	・階層、成績、学習意欲
14	メディアの影響	メディアの報道が作り出す言説について	・言説、メディア
15	まとめ	これまでの授業のまとめ	
	試験	上記終了後前期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・大久保智生著:実践をふりかえるための教育心理学 ナカニシヤ出版		科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
教育学 (教育原理・教育方法論)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30時間)	必須	竹内 正與(非常勤) 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護師を目指すあなたが、なぜ「教育(学)」について学ばなければならないのでしょうか。それは、看護師としてのあなたにとってだけでなく、例えば、指導者としてのあなたや親としてのあなた、納税者としてのあなた・・・にとって、「教育」が非常に身近な問題だからです。この授業では、教育の基本的な事項について学びます。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>①授業中に与えられた課題について、自分の意見を他者にわかるように表現することができる。</p> <p>②授業で取り上げたテーマのそれぞれについて、重要だと思ったこと等を、自分の経験等も交えながら、他者にわかるように表現することができる。</p> <p>【実務経験】竹内正與 : 大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。 学生が主体的に学べるよう、教育方法を工夫し授業を展開する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	授業の目的と概要	授業の目的・ねらい等について	「教育」について学ぶ意味
2	教育の源流	教育思想家の理論を学ぶ	教育理論を自分自身の教育実践 にどういかしていくのかを考える
3	大衆化社会と教育	大衆化社会の中での教育	大衆化社会の中での教育は 私たちにどのような影響を及ぼすのか
4	教育といじめ問題	いじめの構造と予防・対処法	いじめ問題を通じて職場での ハラスメントへの対処法を考える
5	人の発達と社会化①	各ライフステージの発達課題を考える	発達課題には個人差があることを確認する
6	人の発達と社会化②	「社会化」について	社会の中の自分を考える
7	学習の原理と学力	人間の学習のしくみ	学習の仕組みを効果的な指導につなげる
8	教授者主体の教育と 学習者主体の教育	2つの教育方法のメリットを考える	2つの教育方法を看護設計に 置き換えて考える
9	授業実践から 看護実践を考える	効果的な授業方法を考える	効果的な授業方法を看護実践に 置き換えて考える
10	教育の方法と評価	2つの学習タイプのメリットと評価法を考える	なぜ教育に評価が必要なのかを考える
11	動機付け理論から 考える①	動機付けの基本的理論を知る	内発的動機づけにいたる方法を考える
12	動機付け理論から 考える②	学習動機付けの理論を学ぶ	学習動機づけの視点から 目標達成に必要な要素を考える
13	コミュニケーションの 技法	信頼関係を築くコミュニケーション について考える	コミュニケーション力を伸ばすために 必要な視点を学ぶ
14	キャリア開発の視点	キャリア理論と看護師のキャリアアップ例を知る	キャリア理論を今後の自分自身の キャリア形成の参考とする
15	授業全体の振り返り	まとめ・試験	授業全体を振り返る
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストは使用しません。		1) 授業への主体的参加 20% 2) レポート 50%(毎授業の振り返りレポート+課題レポート) 3) 最終試験 30%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
論理的思考の基礎	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
10 回	1単位 (20時間)	必須	(非常勤)西山 幸宏
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>論理的思考の基礎を身につけ、読む・書く・聞く・話す能力を養う。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物事に対し、論理的に考え、理解することができる。 2. 自分の意見を論理的に小論文で書くことができる。 3. 自分の考えを相手や目的に応じて、効果的に伝えることができる。 4. 話し手の考えを的確に理解し、自分の考えを持つことができる。 <p>【実務経験】西山 幸宏 :学生が自己の考えを文章構成のもと表現できるよう、演習をとり入れ授業を展開する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	論理的思考の必要性と重要性	論理的思考の定義 論理的思考の重要性	論理的に伝える必要性 作文・論文との相違点
2	論理的思考の基礎	論理的思考の要素	思考力の要素 (抽象化、対比関係、因果関係) 接続詞(順接、逆説、対比等)
3	論理的な文章 I	論理的文章の基礎	段落、文章構成構成メモ (三部構成、四部構成) 4行作文
4	論理的な文章 II	文章構成の基礎1	序論・本論・結論 段落の展開の方法
5	論理的な文章 III	文章構成の基礎2	4部構成の論文の基礎 (因果関係、意見提示、展開、結論)
6	論理的な文章 IV	確認テスト	*評価の対象
7	小論文を書く I	文章構成を考える	構成メモの作成 序論・本論・結論の明確化 原稿用紙の使い方
8	小論文を書く II	序論・本論・結論を書く	序論、本論、結論の明確化
	小論文を書く III	序論・本論・結論を書く	本論の内容
	小論文を書く IV	序論・本論・結論を書く	内容・表現の見直し
9	小論文を書く V	序論・本論・結論を書く	説得力のある文章 原稿用紙の正しい使いかた
	小論文を書く VI	推敲し、清書する	*評価の対象
10	スピーチ I スピーチ II スピーチ III	スピーチの基本 スピーチの工夫をする スピーチをする・聞く	話す・聞く能力 効果的な話し方 (声量・聞く・目線等)
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・「看護学生のためのレポート・論文の書き方」高谷修 (金芳堂) ・「頭のいい人だけが解ける論理的思考問題」(ダイヤモンド社) ・NHK高校講座「論理国語」 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 文章を書く基礎:30% 2) 論理的思考問題:10% 3) 小論文を書く:60% <p>*学習態度を考慮する</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
情報モラル	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	林 敏浩 (非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>情報の収集・精査や発信、医療や福祉を学ぶものとしての個人情報の取り扱いや情報セキュリティについて学び、情報社会の中で適正な活動を行うための基礎となる考え方と態度と、日々変化していく情報技術に対応できる学習能力を身につけることができる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.情報社会に参画するための態度と姿勢について説明できる。 2.情報化社会におけるIT(情報技術)の変化に対応できるための情報活用技術とインターネットの基本が説明できる。 3.情報技術の発展に応じた情報の入手方法と利用方法について説明できる。 4.倫理観を持って情報を取り扱うことができる。 <p>【実務経験】林 敏浩:大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。 学生が主体的に学べるよう、教育方法を工夫し授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	情報化社会における問題について	1) ネット依存	<ul style="list-style-type: none"> ・自他、社会への影響を考える ・情報社会での行動に責任を持つ ・情報を正しく安全に活用できる ・健康とのかかわりについても考える
2		2) ネット被害 3) SNS等のトラブル 4) 情報セキュリティ 5) 情報社会における情報の特性 (1)情報量と情報の速さ (2)情報の複製の容易さ (3)情報の可塑性 (4)情報の双方向性	
3	情報活用能力とは	1) 情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人的な基礎的な能力	ネットワーク上のルール、マナーを守る意味 情報には自他の権利があることを考える
4		(1)情報活用の実践力	
5		(2)情報の科学的な理解 (3)情報社会に参画する態度	
6	各場面での情報モラル	情報の収集・判断・処理・発信	情報を活用する各場面での情報モラルについて考察
7	情報技術とインターネットの基本	1) インターネットの仕組み 2) セキュリティとコンピュータウイルス 3) スマートフォン、タブレット等の安全対策	インターネットの利点と欠点 パスワード、SNS
8	まとめ	情報を倫理観を持って取り扱う そのために必要な判断力と心構えについて	よりよいコミュニケーションと人と人との関係づくりのための情報活用
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストは使用しません。		1)レポート100% 出席状況も含む	

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
情報科学概論	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	田井 麻友美(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>コンピュータとネットワークはさまざまな場面で必要不可欠なものになってきている。医療や看護分野における情報化に対応するため、コンピュータとネットワークの基本概念と原理について学び、情報科学の基礎的な知識と技能を習得する。</p> <p>情報活用の理論を学び、情報社会への対応および看護に応用できる能力を身につける。</p> <p>情報と医療の関わりについて学ぶ。医療・患者情報に関する倫理と情報セキュリティについて学ぶ。</p> <p>次々と出てくる新しいモノやサービスを取捨選択し、これらに振り回されずに活用する感覚と能力(情報活用能力:メディアリテラシー)を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場などに利用される電子カルテやオーダーリングシステムなどの特徴を説明できる。 2. 情報モラルを身につけ、日常生活において、SNSなどのインターネット利用を適切に対処できる。 3. iPadのアップデートを自ら行うことができる。アプリからAirPrintを利用してレポートなどを出力することができる。 <p>【実務経験】田井麻友美:PCインストラクターとして豊富な経験(学校での教授含む)を有し、情報処理・管理・モラルに精通し教授活動を実践している。知識・技術ならびに情報管理について主体的に学べるよう授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	コンピュータの歴史	1)情報科学を何故学ぶか 2)コンピュータの歴史 3)情報の基礎 4)フローチャート作成支援	情報・データ・ハードウェア・ソフトウェア 中央処理装置・主記憶装置 真空管・トランジスタ・集積回路(IC) マイクロプロセッサ(LSI)
2	コンピュータシステムの構成	1)コンピュータシステムの構成要素 2)コンピュータの概要	AppStor・DropBox iPadからの出力方法 文書作成アプリ Writer 表計算アプリ Spreadsheet
3	情報と看護	1)医療現場におけるコンピュータの利用 2)病院システム 3)医療の情報化	
4	情報モラル	1)ソーシャルメディアの定義 2)ルール・マナーの遵守 3)法律を守る責任 4)セキュリティ	コンピュータ実習室の利用の方法 学生用サーバー・プリントアウトについて DropBox
5	コンピューターとネットワーク	1)インターネットでできること 2)クラウドサービス 3)ネットワークのしくみ	オーダーシステム・電子カルテシステム
6	iPadにて文書作成	1)ビジネス文書の作成 2)表のあるビジネス文書	
7	iPadにて表計算	1)四則計算 2)関数 3)グラフ	
8	学生用サーバー	PC実習室の学生用サーバーの設定 PCでのDropBoxログイン	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
プリント		1)科目終了時の最終試験の評価 : 60% 2)提出物 30% 3)出席10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
倫理学 I	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	佐藤 慶太(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 倫理学上の主要な学説を理解し、医療従事者として身につけるべき倫理規範を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.倫理学における主要学説について、説明することができる。 2.医療従事者として身につけるべき倫理規範について説明することができる。 3.倫理的な問題を話し合うにあたり、自分の考えをほかの人にわかりやすく伝えることができる。 4. 倫理的な問題を話し合うにあたり、自分の考えの根拠を的確に示すことができる。</p> <p>【実務経験】佐藤慶太:大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動を行っている。 学生の倫理観を醸成できるよう教育方法を工夫し授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	倫理学とは何か	オリエンテーション 「倫理学」はどのような学問か	「倫理学」の基本的な意味をつかむ 意見をグループ内で発表する練習をする
2	倫理学と文化的相違	倫理的規範は文化ごとに異なるのかどうか 医療の現場では、どんなルールが必要か	倫理的規範と文化の関係について学ぶ 医療倫理の四原則を学ぶ
3	科学の発達と倫理学	科学の進歩はどのような問題を引き起こすか	科学の進歩がひきおこす問題を、「出生前診断」の事例に基づいて学ぶ
4	功利主義	善悪の基準は動機か、結果か 多数決にはどんな問題が潜んでいるか	功利主義の基本的な枠組を理解する 功利主義に含まれる問題について理解する
5	義務論	結果に基づいた善悪の判断にどんな問題があるか 代理出産にはどのような問題があるか	義務論の基本的な枠組を理解する 「代理出産」の問題について考える
6	正義論	「平等」はどこまで実現されるべきか	正義論の基本的な枠組を理解する 能力主義と平等主義の対立について考える
7	徳倫理学	「思いやり」は倫理を考える上で必要か	「愛」や「友情」が倫理学でどのように扱われるか、事例に即して学ぶ
8	まとめ	これまでに学んだことを振り返る	これまでに学んだ内容を頭の中で整理する
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
教科書は使用しません。 毎回プリントを配布します。		1)科目終了時の最終試験の評価:60% 2)授業中の活動(グループワークなど)の評価:40%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 法学概論 (行政活動を中心に)	学科/学年 看護学科/1年次	年度/時期 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	辻上 佳輝(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

将来医療関係の職に就く人たちにとって、法律はとてども馴染みが薄いものでしょう。しかし、近年の医療事故の増加などで分かるように、医療看護の世界にも法的な考え方は必須といえる。本講義では、まず法律の基本的な知識を学び、その後医療過誤判例を読むことで、将来必要とされる法律に関する知識の最低限を身につけることを目的とする。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

- 1 基本的な法律語彙を理解し、おおむね使えるようになる
- 2 代表的な医療過誤を理解し、法的な思考法になじむ

【実務経験】辻上佳輝:大学にて本科目に関する内容に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
法律に関する基礎的知識ならびに看護に関する法令を判例等を用いて学べるよう授業を展開する。

【準備学習】

前回の授業内容を復習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	ガイダンス・法学の基礎①	条文と基本発想	各授業において、適宜伝えます。
2	法学の基礎②	条文と解釈・法律用語	
3	民法の基礎①	契約	
4	民法の基礎②	不法行為	
5	医事法学①	医療者の資格	
6	医事法学②	診療契約・応召義務	
7	医事法学③	医療水準論	
8	医事法学④	説明義務・転移勧告義務	
試験		上記終了後、期末試験(課題レポート)	

[使用テキスト]

・適宜資料を配布

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験・課題レポート:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
家族社会学	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (15 時間)	必須	日高 幸亮(非常勤) (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>本科目は現代社会における家族の特性、および役割について学ぶとともに、現代家族の抱える問題について知り、その対策について主体的に考えることを目的としている。家族の多様性について理解することは、看護職として仕事をする上で重要である。授業は、講義だけでなく、「グループ学習」「グループ討議」により展開する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における「家族」の時代的变化について説明できる。 2. 現在社会の家族をめぐる諸問題について理解し、その対策を説明できる。 3. 医療における家族支援のあり方について、自分なりの視点を持つことができる。 <p>【実務経験】日高幸亮:臨床心理士、スクールカウンセラーの経験等にて本科目に精通している。 基礎的知識の習得ができるよう演習を用いて授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	ガイダンス 「家族」とは	1)家族社会学の学習内容と進め方 2)家族の定義	家族について学ぶことの意義について理解する
2	家族の歴史的变化	1)家族の近代化 2)家族の多様化	「家族」の歴史的变化を学習し、多様化した家族のあり方について理解する
3	結婚	1)配偶者選択と結婚 2)多様化する結婚のかたち	結婚に対する価値観の多様化と未婚率の増加について理解する
4	夫婦関係	1)夫婦の役割 2)夫婦の個別化	性的役割分業という意識の変遷について知り、今後の夫婦関係のあり方について考える
5	親子関係	1)子育て 2)3歳児神話	女性のライフコースの変化と出産・子育てとの関連について考える
6	高齢者と家族	1)高齢者と家族との関係 2)高齢者介護	高齢化社会の中で、高齢者のおかれた状況と家族関係について学ぶ
7	家族が抱える問題と支援	1)離婚と家族 2)DV、ひきこもり	現代家族が抱える問題とその支援対策について学ぶ
8	医療における家族支援	1)ジェノグラムの書き方 2)家族教室、家族支援	家族関係が多様化する中で、看護職としてどのような家族支援が必要か検討
[使用テキスト] 特になし		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
[参考図書] 適宜提示する		1)最終試験評価:60% 2)毎時の小レポートと小テスト:40%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
英語コミュニケーション	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	ティム・マティソン (非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 読解力と語学力の基礎を身につけ、国際化への関心をもつ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.自分の意思を英語で伝えられる。 2.初級レベルの医学関係の英単語・表現が分かる。</p> <p>【実務経験】ティム・マティソン:実務経験有 初級レベルの日常英語や医学英語を理解できるよう、学生の興味を引き出せる授業を工夫する</p> <p>【準備学習】前回の授業の復習をして授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	自分の意思、好みを伝える 子音①	・自己表現:受け取る、断る、選択する ・「L」と「R」の正しい発音の仕方
2	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	入国手続き 子音②	・入国審査官の質問と答え方 ・「F」、「V」、「B」、「P」の正しい発音の仕方
3	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	ホテルの予約 子音③	・部屋の有無、宿泊費の尋ね方など ・「S」、「SH」、「TH」の正しい発音の仕方
4	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	道案内 母音①	・道順を尋ね、理解する ・「A」、「E」、「O」の正しい発音の仕方
5	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	許可を求める — 言葉遣い 母音②	・やるべきこととやってはいけないことの尋ね方 ・「O」、「EE」、「AR・ER」の正しい発音の仕方
6	A. 一般英会話 B. 医療英会話	海外で病気になったら 患者に尋ねる①	・病名、身体の各部分の名称、状態の説明の仕方 ・個人情報、身体の状態についての尋ね方
7	A. 一般英会話 B. 医療英会話	約束を作る 患者に尋ねる②	・招待の仕方、受ける・断る方法、予定の変更の仕方 ・病歴、家族についての尋ね方
8	A. 一般英会話 B. 医療英会話	食事を注文する 病歴について尋ねる	・料理の説明を求める、注文する方法 ・病歴、特に重病についての尋ね方
9	A. 一般英会話 B. 医療英会話	自己紹介 睡眠について	・自分や家族に関する質問の答え方 ・睡眠の習慣についての尋ね方
10	A. 一般英会話 B. 医療英会話	一日のスケジュールを確認する 食生活	・予定の説明のし方と、変えた場合の謝り方 ・食生活についての尋ね方
11	A. 一般英会話 B. 医療英会話	買い物 健康と生活習慣	・服などの値段、支払い方法についての尋ね方 ・日々の生活についての尋ね方
12	A. 一般英会話 B. 医療英会話	郵便局のサービスを利用する 痛みについて尋ねる	・切手の買い方、小包発送の依頼の仕方 ・痛みについての詳しい尋ね方、説明の仕方
13	A. 一般英会話 B. 医療英会話	落とし物 インフルエンザの症候	・忘れ物の特徴の説明の仕方 ・インフルエンザに伴う病気についての尋ね方
14	A. 一般英会話 B. 医療英会話	お別れの言葉 — お礼を言う 健康診断	・別れの挨拶の仕方 ・各検査名とそれに関わる単語を覚える
15	まとめ		
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスティーンのやさしい看護英会話.医学書院 ・T.マティソン.「Medical English Series」 ・必要資料はプリントで配布 		1)科目終了時の最終試験の評価 :90% 2)授業参加状況(遅刻・早退も含む) :10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
コミュニケーション トレーニングⅠ	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	副島慶子(非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 日常生活や、看護の現場で必要不可欠なコミュニケーションについて学ぶ。 聴く、話すなどの個人スキルだけでなくチームワークを展開するための相補的かつ包括的なコミュニケーションについて、数々の実践ワークを通じて、身をもって理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 学生生活や看護の現場でのコミュニケーションの意義を理解する。 2. コミュニケーションに大事な共感、受容、傾聴、そして表現のスキルを習得する。 3. チーム内でのコミュニケーションの重要性を認識し、そのための行動を取ることができる。 4. 以上のことを、学生生活や看護師としての活動に活かそうと、心がけるようになる。</p> <p>【実務経験】副島慶子:大学などで、コミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	序論	コミュニケーションとは？	
2	観察すること	見ているようで見ていない自分を知る	・未熟さを認めること
3		見る意識を持つ	・気づくこと
4		個人の尊重	人の「違い」を理解する
5	聴くこと	他者を受け入れる	・正直さ ・柔軟性
6		カラダ全体で聴く	・そこにいること
7		より多くの情報を聴く	・「心ある」聴きかた
8	想像力	自分を見つめる	・ひらめき
9		想いを「視覚化」する	・具体化すること
10		他者の状況や物事の流れを予測する	・わかろうとすること
11	信頼関係	これからを考える	・イメージの整理
12		信頼とは何か？	・状況を楽しむ ・安心感
13		チームワーク	・相手を感じる ・自分を信じる
14	まとめ	抱える環境づくり	・リーダーシップ・チア&プッシュ
15		ディスカッション	・成長を感じること
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 授業評価 :70% 2) 授業毎と最後のレポート評価:30%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
人体の構造学 I	看護学科/1年次	令和 7 年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1 単 位 (30時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。</p> <p>看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造を医療に携わる共通言語である解剖用語を用いて説明できる。 2. 人体の諸器官の形態を肉眼解剖学の知識を用いて説明できる。 3. 人体の構造と器官の位置を系統的に学び、病理学、疾病治療学の基礎とする。 <p>【実務経験】太田健一: 大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の構造について知識習得できるよう、授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	人体の基本単位 細胞・組織・器官	1)細胞と細胞膜の構造	平行して開講している「人体の機能学」と関連づけて学習すること。また看護実践に必要な人体の構造・機能や疾病との係わり合いの中で、生化学、病理学を含めた総合的な学習を心がけること。 ・細胞の構成要素 ・上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 ・人体の部位の名称、身体の方角と位置 ・骨の構造と結合 ・頭蓋・脊柱の構成 ・上肢を構成する骨と関節 ・下肢を構成する骨と関節 ・関節の運動と筋肉の起始停止 ・上肢の屈筋と伸筋 ・下肢の屈筋と伸筋 ※解剖見学実習も含む ・鼻腔および副鼻腔の構造 ・咽頭・喉頭の構造 ・気管・肺の形状、構造、位置 ・胸膜の構造・縦隔の位置 ・心臓の構造、刺激伝導系、心臓の弁・心臓の血管 ・動脈、静脈、毛細血管 ・大動脈弓、胸・腹部大動脈・大脳動脈輪 ・上・下大静脈、頭頸部の静脈、上・下肢の静脈、門脈系 ・リンパ管の構造・分布とリンパ液の流れ ・胎児の血液循環、静脈管、動脈管
2	人体の構造	2)組織の構造 1)人体の特徴	
3	体の支持と運動 骨格系	2)人体の形成, 人体の体位と区分 1)骨の連結 関節の構造	
4	"	2)体幹の骨格 頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤	
5	"	3)上肢の骨格	
6	"	4) 下肢の骨格	
7	筋系	1)骨格筋の構造 体幹の筋肉、上肢の筋	
8	"	2) 下肢の筋	
9	呼吸器の構造	1)鼻腔、副鼻腔	
10	"	2)咽頭、気管、気管支	
11	"	3)肺、胸膜、縦隔	
12	循環器系の構造	1)循環器系の構造	
13	"	2)心臓の構造	
14	"	3)血管の構造、肺循環 4)全身の動脈	
15	"	5)全身の静脈 6)リンパ系 7)胎児循環	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版 [参考図書] ・加藤尚武: 現代倫理学入門、講談社 ※解剖見学に向けて倫理的態度を養います。		1)科目終了時の最終試験の評価: 100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の構造学Ⅱ	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。</p> <p>看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人体の構造を医療に携わる共通言語である解剖用語を用いて説明できる。 2.人体の諸器官の形態を肉眼解剖学の知識を用いて説明できる。 3.人体の構造と器官の位置を系統的に学び、病理学、疾病治療学の基礎とする。 <p>【実務経験】太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の構造について知識習得できるよう、授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	栄養の消化と吸収 消化器系	1)消化器の構造、口腔、咽頭、食道	平行して開講している「人体の機能学」と関連づけて学習すること。また看護実践に必要な人体の構造・機能や疾病との係わり合いの中で、生化学、病理学を含めた総合的な学習を心がけること。 ・消化器の形状、構造、位置 ・腎臓、尿管、膀胱、尿道の形状、構成、位置 ・ニューロンとシナプス ・脳の形状と構造 ・大脳皮質の機能領域、脊髄の構造 ・下行性伝導路(錐体路、錐体外路) ・脳神経の名称と神経支配 【レポート】 「脳神経の走行と神経支配」 ・交感神経、副交感神経 ・内耳、中耳の構造 ・眼球の構造と眼筋 ・舌の構造 ・皮膚の構造 ・精巣、精路、前立腺 ・卵管、子宮、骨盤腔の構造 ・受精、胎児と胎盤
2	"	2)胃、小腸、大腸	
3	"	3)肝臓、膵臓、腹膜	
4	体液の調節と尿の生成 泌尿器系	1)腎臓	
5	"	2)尿管、膀胱、尿道	
6	情報の受容と処理 中枢神経系	1)神経細胞と支持細胞	
7	"	2)脊髄、脳①	
8	"	3)脳②	
9	"	4)伝導路	
10	"	1)脳脊髄神経と脳神経①	
11	感覚器系	2)脳脊髄神経と脳神経② 自律神経	
12	"	1)視覚器,平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	
13	生殖器系	2)味覚器	
14	"	3)皮膚の構造、血管、神経	
15	発生	1)男性生殖器	
	"	2)女性生殖器	
		受精と胎児の発生	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の機能学 I	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。</p> <p>看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1. 人体の諸器官の機能を医療に携わる共通用語である解剖用語を用いて説明できる。 2. 人体の生命活動を解剖学、機能学の知識をもち説明できる。 3. 対象の健康・疾病・障害について看護判断の根拠として説明できる。</p> <p>【実務経験】太田健一: 大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の機能について知識習得ができるよう授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	機能から見た人体	1) 生命体維持システム 2) 運動・調節システム	・人体の構造学と関連付けて学習する
2	"	3) 体液とホメオスタシス	・内部環境と外部環境
3	血液のはたらき	1) 血液の組成と機能	・血漿 血清 血餅
4	"	2) 赤血球	・ヘモグロビン エリスロポエチン
5	"	3) 白血球 血小板	・顆粒球 リンパ球 単球
6	"	4) 血漿タンパク質	・免疫グロブリン
7	"	5) 血液凝固と線維素溶解	・出血時間 凝固時間
8	"	6) 血液型	・輸血 HLA
9	体の支持と運動	1) 筋の収縮	※解剖見学実習も含む
10	内臓機能の調節	1) 内分泌系による調節	・ホルモン
11	"	2) 内分泌腺と内分泌細胞	
12	"	3) 視床下部-下垂体	
13	"	4) 甲状腺と副甲状腺	
14	"	5) 膵臓	
15	"	6) 副腎 性腺	
16	"	7) ホルモンによる調節の実際	・糖代謝 カルシウム代謝
17	呼吸のはたらき	1) 内呼吸と外呼吸	・気道・肺胞の機能
18	"	2) 呼吸器と呼吸運動	・呼吸のメカニズム
19	"	3) 呼吸気量	・肺活量
20	"	4) ガス交換とガスの運搬	
21	"	5) 肺の循環と血流	・肺循環
22	"	6) 呼吸運動の調節	
23	"	7) 呼吸器系の病態生理	・換気障害 拡散障害
24	血液の循環とその調節	1) 心臓の拍出機能	・興奮の伝播
25	"	2) 心臓の興奮とその伝播	
26	"	3) 心電図	・心電図の導出
27	"	4) 心臓の収縮	・心拍出量
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版		1) 科目終了時の最終試験の評価: 100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
人体の機能学Ⅱ	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1 単 位 (30 時 間)	必 須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。</p> <p>看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.人体の諸器官の機能を解剖用語を用いて説明できる。 2.人体の生命活動を構造学、機能学の知識を持ち説明できる。 3.対象の健康・疾病・障害について看護判断の根拠として説明できる。</p> <p>【実務経験】太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の機能について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	血液循環の調節	1) 血圧 血液の循環 2) 血圧・血流量の調節	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造学と関連づけて学習する ・血圧の調節機構 ・血管収縮物質 血管拡張物質 ・胸管 右リンパ本幹 乳び槽 ・嚥下の過程
2	"	3) 微小循環 循環系の病態生理 4) リンパとリンパ管	
3	栄養の消化と吸収	1) 上部消化管の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・尿生成のメカニズム ・近位尿細管 遠位尿細管 集合管 ・排尿の機序 ・レニン アンギオテンシン アルドステロン ・水の出納 脱水 酸塩基平衡 ・アシドーシスとアルカローシス
4	"	2) 腹部消化管の機能 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の機能	
5	体液の調節と尿の生成	1) 腎臓の機能 糸球体と尿細管の機能	
6	"	2) クリアランスと糸球体濾過量	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロン ・脊髄反射 ・脳波と睡眠 記憶 ・脳幹・小脳・間脳の機能 ・大脳の機能 体性運動野 視覚野 運動性言語野 感覚性言語野
7	"	3) 腎臓から分泌される生理活性物質 4) 体液の調節	
8	内蔵機能の調節	1) 自律神経の機能	
9	情報の受容と処理	1) 神経系の機能 脊髄と脳 2) 脊髄神経と脳神経	
10	"	3) 脳の高次機能 4) 視覚・聴覚・平衡覚	
11	"	5) 味覚と嗅覚 疼痛	
12	外部環境からの防御	1) 生体の防御機構 非特異的防御機構	<ul style="list-style-type: none"> ・サイトカイン マクロファージ 好中球 ・B細胞 T細胞 免疫グロブリン ・熱の産生と放散 ・体温調節中枢 発熱 ・生殖機能
13	"	2) 免疫	
14	"	1) 体温とその調節	
15	生殖・発生と老化のしくみ	1) 成長と老化	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版		1) 科目終了時の最終試験の評価: 100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
臨床生化学	看護学科 / 1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位 (20時間)	必須	吉田 裕美(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

ヒトの生命現象および病態は、遺伝子情報や生体内物質の変化と密接にかかわっている。生命の維持のために必要な生体内で起こる反応を理解できるよう、遺伝子情報や生体内物質の変化を説明する生化学の基礎知識を修得することをねらいとする。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 人体を構成・維持する物質について説明できる。
2. 人体の生命活動を維持・調節する代謝について説明できる。
3. 人体の生命現象の基盤である遺伝子情報について説明できる。
4. 臨床的に重要な酵素や生体に必須である物質について、生理的意義、病態との関連を説明できる。

【実務経験】吉田裕美: 大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が生化学について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題にて学習を深める

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	巻末資料	生化学を学ぶために知っておきたい化学の基礎知識	化学の基礎知識
2	生命の維持に必要な 栄養素の構造と性質	1)細胞 細胞の構造と機能	生体を構成する各物質の構造、性質 ・細胞や細胞膜の構造と機能
3		2)糖質 糖質の種類 糖質の構造と性質	・糖質の構造と性質
3		3)脂質 脂質の種類と役割	・脂質の種類・構造と性質
3		4)アミノ酸とタンパク質 タンパク質の構造と分類	・タンパク質の構造、分類、役割
3		5)核酸とヌクレオチド 塩基 DNAとRNAの構造	・核酸の構造
3		6)ビタミン ビタミンの種類と生理作用	・ビタミンの機能
4	酵素	酵素 酵素の役割と性質 酵素反応とその阻害	・酵素の機能と特徴
4	代謝総論	代謝とは 代謝とその制御	生体を構成する物質の代謝過程
5	さまざまな代謝	1)糖質代謝 糖質の消化と吸収 グルコースの主な代謝系 糖新生	・糖質代謝過程
6		2)脂質代謝 脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解と生合成 ケトン体の生成、コレステロールの生合成	・脂質代謝過程
7		3)タンパク質とアミノ酸の代謝 タンパク質の消化と吸収 アミノ酸の利用、合成	・タンパク質(アミノ酸)代謝過程
8		4)核酸・ヌクレオチドの代謝 ヌクレオチドの合成と分解	・ヌクレオチドの合成・分解
9	エネルギー代謝の 統合と制御	1)臓器間の代謝のつながり 2)代謝異常と疾患	・エネルギー代謝の制御
10	遺伝情報	1)遺伝情報の複製、転写、翻訳 2)遺伝子の変化、遺伝子診断・遺伝子治療	
	先天性代謝異常	先天性代謝異常	・病気と遺伝子の関連

[使用テキスト]

・宮澤恵二 編：ナーシンググラフィカ
人体の構造と機能②臨床生化学、メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1) 科目終了時の最終試験:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
感染防御学	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30時間)	必須	下河 誠司(非常勤) 平田美由紀他(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

臨床で問題となる微生物の特徴及び感染症について学び、その治療と感染防御の知識を習得する。医療処置や治療に伴い発生する、医療関連感染の関連因子を公衆衛生学に関連付けて学び、安全と感染防御に基づいた看護技術が実践できることをねらいとする。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 感染症を引き起こす起因菌の特徴と疫学、診断、治療、予防法について記述できる。
2. 医療を施すことで発生する感染症の疫学と起因菌及びその診断、治療、予防法について記述できる。
3. 耐性菌の発生機序について理解し、その予防対策を記述できる。
4. 医療従事者の職業感染について理解し、予防策の実践ができる。

[実務経験] 下河誠司: 病院において感染管理認定看護師として実務にあたり精通している。
感染管理についての基礎的知識・技術を習得できるよう、症例を活用し授業を展開する。

[準備学習]

授業の復習、テキストによる予習を行い授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	感染管理学	1) 医療関連感染の予防と管理の歴史と変遷 2) 人間の社会生活と感染症 【1~4,15平田】	・ 感染症の歴史と現代社会における感染症の課題について考えることができる ・ 感染症発症の三大要因
2	職業感染管理	1) 職業感染管理とは 2) 職業感染予防と管理 3) 職業感染対策(結核・ウイルス・針刺し等)	・ 針刺し事故 ・ 菌交代制
3	感染防止対策	1) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 2) 感染経路別予防策	・ 基本的な考え方 「清潔」「不潔」「汚染」
4	感染防止技術	1) 感染予防策とアドヒアランス向上のための取り組み 医療器具関連感染予防策(洗浄、消毒、滅菌) 部門別感染予防 2) 緊急事態時における感染予防対策	・ 血流感染、尿路感染、人工呼吸器関連肺炎など ・ パンデミックや災害等の緊急事態時対応
5	病院・施設での感染管理	1) なぜ病院・施設で感染管理を必要とするのか 2) 感染管理認定看護師の役割と機能 3) 感染管理認定看護師の活動の実際 【特別講義】	・ 看護職を目指すものとして 職業感染予防について日頃から意識できる ・ 感染管理指導と相談の実際
6	医療機関における感染防止対策	医療機関における感染防止対策の実際 ～感染管理認定看護師から～ 【特別講義】	・ 施設での取り組みの実際
7	洗浄・消毒・滅菌	1) 洗浄・消毒・滅菌の原理と実際 【7~14下河】	
8	法律による感染対策	1) 感染症法、新型インフルエンザ等特別措置法	★理解度確認小テスト
9	〃	学校保健法、食品衛生法など	・ 消毒滅菌、法律
10	細菌感染症	1) 細菌の形態・構造と分類	
	〃	2) 細菌の生活現象・遺伝・変異・病原性	
	〃	3) 細菌感染症の検査・診断、治療と予防	
	〃	4) 主な病原細菌と疾患	
11	ウイルス感染症	1) ウイルスの病原性、検査・診断、治療と予防 2) 主なウイルスと疾患	★理解度確認小テスト ・ 細菌、ウイルス感染症
12	真菌・寄生虫感染症	1) 病原性、検査・診断、治療と疾患	
13	まとめ		★特別講義受講後のレポート作成
14	〃		感染予防について看護職者としての
15	レポート作成	上記終了後 期末試験	自身の考えを述べる調べ学習とグループ学習

[使用テキスト]

藤本秀士編: わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価: 100%
- 2) グループワークと発表、修了試験あり

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
病理学	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1 単位 (30時間)	必須	山川 けいこ(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 病気の起こるメカニズムおよび生体の形態学、組織学、機能的変化の特徴を学ぶ。健康を維持するための自然治癒力、ホメオスタシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 病気の起こるメカニズムおよび生体の形態学、組織学、機能的変化の特徴を述べるができる。 2. 健康を維持するための自然治癒力、ホメオスタシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を述べるができる。</p> <p>【実務経験】山川けいこ:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が病理学について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	病理学総論	1) 看護と病理学	<ul style="list-style-type: none"> ・病理学とは、病理診断の実際 ・細胞の適応現象と細胞死 ・血栓・塞栓・梗塞、うっ血とは ・炎症の過程と分類 ・アレルギー、膠原病、移植免疫 ・感染症とは、宿主の防御機構 ・代表的な病原体と感染症 ・各代謝障害の原因と特徴 ・先天異常の分類とその原因 ・腫瘍(良性・悪性)の定義と組織学的特徴 ・腫瘍の発生機序と発がんの原因 ・老化現象と死の定義
2	〃	2) 病気の原因、細胞・組織の傷害と修復	
3	〃	3) 循環障害	
4	〃	4) 炎症と免疫	
5	〃	5) 感染症	
6	〃	6) 代謝障害、先天異常と遺伝子異常	
7	〃	7) 腫瘍	
		8) 老化と死 総論まとめ	
	試験	総論授業終了後、中間試験	
8	病理学各論	1) 循環器系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・心奇形と虚血性心疾患 ・血球の成熟と疾患 ・リンパ節の構造と疾患 ・肺の炎症、換気障害と腫瘍性病変 ・食道、胃の炎症性疾患と腫瘍性病変 ・炎症性腸疾患、大腸癌 ・ウイルス性肝炎と肝癌 ・腎炎とネフローゼ症候群 ・前立腺癌、子宮癌、乳癌 ・下垂体、甲状腺、副腎における疾患 ・脳の循環障害、代表的な神経・筋疾患 ・骨折と代謝性骨疾患、骨腫瘍 ・主な関節疾患 ・眼・耳・皮膚における代表的な疾患
9	〃	2) 血液・造血器系疾患	
10	〃	3) 呼吸器系疾患	
11	〃	4) 消化器系疾患	
12	〃	〃	
13	〃	5) 腎・泌尿器・生殖器系、乳腺疾患	
14	〃	6) 内分泌系、脳・神経・筋肉系疾患	
15	〃	7) 骨・関節系、感覚器系疾患 各論まとめ	
	試験	各論授業終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院		1) 中間試験の評価:50% 2) 科目終了時の期末試験の評価:50%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
疾病治療学 I (呼吸・循環・消化器)	看護学科 / 1年次	令和 7 年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
20回	1 単位 (40 時間)	必須	岡部昭延(非常勤)実務経験有 吉川 圭(非常勤)実務経験有 山川俊紀(非常勤)実務経験有 平田美由紀/徳竹律子
<p>[授業の目的・ねらい] 科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(呼吸器・循環器、消化器)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。</p> <p>[実務経験]岡部昭延: 大学病院をはじめ医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 学生が呼吸器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践す 吉川圭: 総合病院医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 学生が循環器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践す 山川俊紀: 総合病院医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 学生が消化器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践す</p> <p>[準備学習] 授業の復習、予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	呼吸器疾患	1)呼吸器の構造と機能 【担当 岡部】	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸困難、胸痛、チアノーゼ、 ・呼吸の異常、 ・COPD,肺がん、肺炎、気管支喘息、 ・結核など
2	〃	2)呼吸器疾患の症状	
3	〃	3)呼吸器疾患の診断・治療	
4	〃	4)呼吸器の主要疾患	
5	〃	5)呼吸器疾患 事例を通して学ぶ	
6	循環器疾患	1)循環器の構造と機能 【担当 吉川】	<ul style="list-style-type: none"> ・心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞 ・高血圧、弁膜症、
7	〃	2)循環器疾患の症状	
8	〃	3)循環器疾患の検査・治療	
9	〃	4)循環器の主要な疾患について	
10	〃	5)循環器疾患の事例を通して学ぶ	
11	消化器疾患	1)消化器の構造と機能 【担当 山川】	<ul style="list-style-type: none"> ・食道がん、胃がん、大腸がん、 ・潰瘍性大腸炎、クローン病、 ・肝疾患(肝がん・肝硬変・肝炎)
12	〃	2)消化器疾患の症状	
13	〃	3)消化器疾患の診断・治療	
14	〃	4)消化器の主要な疾患について	
15	〃	5)消化器疾患の事例を通して学ぶ	
16	演習	1)解剖・生理・病態 【担当 平田、徳竹】	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業や演習に参加する ・学習の仕方を学び理解したことを わかりやすく説明できる ・グループで協力してまとめる
17	〃	2)治療・検査・看護を系統立てて学ぶ。	
18	〃	3)基本的なからだのしくみについての疑問を 調べ理解する	
19	〃		
20	グループワークと発表		
試験		上記終了後、科目ごとに期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
田中 美智子他:健康の回復と看護 ナーシング・グラフィカ呼吸機能障害／循環機能障害、メディカ出版 明石 恵子 他:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護② 栄養代謝障害		1)授業時間数を鑑み総合的に評価する。 2)演習の評価はグループワークや発表会への参加状況も考慮 課題提出結果と自己評価も加味する	
[参考図書]			
・酒井建雄他編:系統看護学講座 専門基礎①解剖生理学 医学書院			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
基礎看護学概論 I (概念・歴史)	看護学科 / 1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	奈良 育代 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

本科目は、看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学において最初に学習する専門科目であり、看護学全体の基本的内容を含む。さらに、看護に関する過去(歴史)と現在および未来の見通しを捉え、看護学の本質を学ぶ科目である。また、看護学の豊かさや奥深さを実感し、看護学への関心が高まると同時に各専門領域の看護学への学習意欲が高められることをねらいとする。具体的には、歴史的に看護が果たして来た役割や機能、看護とは何か、看護の対象の理解、看護職と看護活動の場の理解等、看護学の基本となる共通した考え方、専門職としての役割と責任及び対象の理解と看護活動の概要を学ぶ。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 看護の対象と目的について説明できる。
2. 看護の機能・役割と看護活動の場について説明できる。
3. 看護の歴史的背景と現在の動向について説明できる。
4. 自分の目指す看護師像を自分の言葉で表現できる。

【実務経験】奈良:看護師として5年以上の実務経験

臨床における看護実践場面を教材として看護の本質を学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	看護を考える	事例から必要な援助を考えてみよう みんなで考えてみよう	看護ってなにか
3 4	看護とは	1)看護の定義と役割 2)実践科学としての看護 3)看護における倫理の必要性	・看護の定義 ・エビデンス ・看護者の倫理綱領
5 6	看護の変遷 "	1)看護の変遷 2)現代社会における看護のあり方 3)これからの看護の課題と展望	・近代以前の看護から現代の看護の変 ・ナイチンゲール ・看護に対する社会の要望
7 8 9	看護の対象 人間と環境	1)人間とは 2)統合体としての人間 3)環境とは	・人間とは ・健康障害とその影響 ・環境とは
10 11	健康と看護	1)健康とは、健康障害とは 2)ライフサイクルと健康	・WHO健康の定義、 ・発達・発達の概念、発達課題
12	看護における法的側面	1)法 2)看護実践の職業的および法的規則 3)医療事故における法的責任	・法 ・保健師助産師看護師法 ・法的責任、看護記録の位置づけ
13 14	看護職と看護活動 そしてチーム医療	1)看護職について(統計含む) 2)保健・医療・福祉の概念 3)サービス提供の場 4)保健・医療・福祉チーム	・就業看護職等 ・保健医療福祉におけるチーム活動 ・医療施設における看護活動他 ・チーム医療、継続看護と看護の役割 ・地域包括ケアシステム
15	まとめ	15回授業のまとめと知識の確認 ※適宜知識確認実施	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・志岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①
看護学概論,メディカ出版
・池西静江他:看護学生スタディガイド,照林社

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験の評価:100%※授業・学修取組態度含む
*主体的に授業・演習に参加し学修に取り組む

授 業 進 度 計 画

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態																																																
基礎看護学概論Ⅱ (看護倫理・理論)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習																																																
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																
10回	1単位(20時間)	必須	榊原智子(実務経験有)																																																
<p>[授業の目的・ねらい] 基礎看護学概論Ⅰでの看護の概念の学びをもとに、看護理論・看護倫理について理解し、専門職として看護のあり方を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護実践に役立つ看護理論について学習し、看護とは何かを科学的根拠から学ぶ必要性を説明できる。 看護倫理に関する基礎知識と倫理的意思決定について理解し、専門職としての態度を表現することができる。 「看護覚え書」とおして看護について考える。 <p>【実務経験】榊原智子:看護師として5年以上の実務経験 臨床における看護実践場면을教材として学べるよう教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト・事前配布のレジメ等による予習を行い授業に臨む</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 30%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護倫理</td> <td>1)看護倫理とは</td> <td>・社会規範 ・道徳的規範</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>2)倫理の歴史的経緯と看護倫理 患者の権利とインフォームドコンセント</td> <td>・患者の尊厳・平等</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>3)医療専門職の倫理規定 国際看護師協会の取り組み 我が国の看護倫理への取り組み</td> <td>・倫理綱領 インフォームドコンセント ・ジュネーブ宣言 ・ヘルシンキ宣言</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>看護理論と看護実践</td> <td>4)看護者の倫理綱領 事例演習</td> <td>・日本看護協会倫理綱領 ・人間の尊厳 ・権利擁護 自己決定権 守秘義務</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>1)看護理論とは何か (1)大理論・中範囲理論・小理論 (2)メタパラダイムとは</td> <td>・看護の使命、目的 ・倫理的ジレンマ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>2)各理論家について (1)マズローによる欲求の段階構造 (2)オレム セルフケア理論 (3)バージニアA.ヘンダーソン (4)事例演習</td> <td>・大看護理論・中範囲理論・小理論 ・ニード論・発達理論 ・メタパラダイム ・治療的セルフケア・デマンド ・セルフケア能力・</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「看護覚え書」から 看護を理解する</td> <td>演習:「看護覚え書」とおして看護を考える</td> <td>・普遍的、発達のセルフケア要件 ・マズローによる欲求の段階構造 ・常在条件・病理的状态 ・14の基本的項目</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>・看護とは</td> <td>・各自で、「看護覚え書」を読み 看護とは</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>・看護師の役割</td> <td>看護師の役割についてレポートに まとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>まとめ</td> <td>1)各自でまとめる 2)グループでまとめる 3)成果発表</td> <td>・レポートをもとに、グループでまとめる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>10回授業のまとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	看護倫理	1)看護倫理とは	・社会規範 ・道徳的規範	2	〃	2)倫理の歴史的経緯と看護倫理 患者の権利とインフォームドコンセント	・患者の尊厳・平等	3	〃	3)医療専門職の倫理規定 国際看護師協会の取り組み 我が国の看護倫理への取り組み	・倫理綱領 インフォームドコンセント ・ジュネーブ宣言 ・ヘルシンキ宣言	4	看護理論と看護実践	4)看護者の倫理綱領 事例演習	・日本看護協会倫理綱領 ・人間の尊厳 ・権利擁護 自己決定権 守秘義務	5	〃	1)看護理論とは何か (1)大理論・中範囲理論・小理論 (2)メタパラダイムとは	・看護の使命、目的 ・倫理的ジレンマ	6	〃	2)各理論家について (1)マズローによる欲求の段階構造 (2)オレム セルフケア理論 (3)バージニアA.ヘンダーソン (4)事例演習	・大看護理論・中範囲理論・小理論 ・ニード論・発達理論 ・メタパラダイム ・治療的セルフケア・デマンド ・セルフケア能力・	7	「看護覚え書」から 看護を理解する	演習:「看護覚え書」とおして看護を考える	・普遍的、発達のセルフケア要件 ・マズローによる欲求の段階構造 ・常在条件・病理的状态 ・14の基本的項目	8	〃	・看護とは	・各自で、「看護覚え書」を読み 看護とは	9	〃	・看護師の役割	看護師の役割についてレポートに まとめる	10	まとめ	1)各自でまとめる 2)グループでまとめる 3)成果発表	・レポートをもとに、グループでまとめる		試験	10回授業のまとめ	
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																
1	看護倫理	1)看護倫理とは	・社会規範 ・道徳的規範																																																
2	〃	2)倫理の歴史的経緯と看護倫理 患者の権利とインフォームドコンセント	・患者の尊厳・平等																																																
3	〃	3)医療専門職の倫理規定 国際看護師協会の取り組み 我が国の看護倫理への取り組み	・倫理綱領 インフォームドコンセント ・ジュネーブ宣言 ・ヘルシンキ宣言																																																
4	看護理論と看護実践	4)看護者の倫理綱領 事例演習	・日本看護協会倫理綱領 ・人間の尊厳 ・権利擁護 自己決定権 守秘義務																																																
5	〃	1)看護理論とは何か (1)大理論・中範囲理論・小理論 (2)メタパラダイムとは	・看護の使命、目的 ・倫理的ジレンマ																																																
6	〃	2)各理論家について (1)マズローによる欲求の段階構造 (2)オレム セルフケア理論 (3)バージニアA.ヘンダーソン (4)事例演習	・大看護理論・中範囲理論・小理論 ・ニード論・発達理論 ・メタパラダイム ・治療的セルフケア・デマンド ・セルフケア能力・																																																
7	「看護覚え書」から 看護を理解する	演習:「看護覚え書」とおして看護を考える	・普遍的、発達のセルフケア要件 ・マズローによる欲求の段階構造 ・常在条件・病理的状态 ・14の基本的項目																																																
8	〃	・看護とは	・各自で、「看護覚え書」を読み 看護とは																																																
9	〃	・看護師の役割	看護師の役割についてレポートに まとめる																																																
10	まとめ	1)各自でまとめる 2)グループでまとめる 3)成果発表	・レポートをもとに、グループでまとめる																																																
	試験	10回授業のまとめ																																																	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ・志岐康子他:ナースング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論,メディカ出版 ・小林美雪 他:ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 ・ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの 		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 出席状況、授業態度、提出物を考慮する																																																	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護技術論Ⅰ (コミュニケーション・感染)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	南原由理子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

看護師が提供するさまざまな看護技術は、疾患による身体的な苦しみを少しでも軽減し精神的なストレスを緩和し、社会的な孤立から救い上げ、安寧や安楽をもたらすものである。看護技術の定義は「看護の対象である人間への働きかけであり、その人との関係の中で実施されるものであり、両者の相互作用の中に存在する。」と言われている。

その人にとって最も良いケアを提供するために知識・技術・態度を学んでもらいたいと考える。

また、「感染防止」は、対象の健康と安全を守る上で重要な技術であり、日常生活の援助、診療の補助業務において技術の基本となるものである。また抵抗力の低下した対象にとって感染は重篤な症状を引き起こす。医療施設等において感染対策は重要な課題であり、組織的に推進している。『人間関係の構築』と『感染予防』は看護実践において土台となる重要な技術である。臨床で活用できるレベルまで系統立てて理解し実施できることをねらいとする。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

- 1.看護におけるコミュニケーションの意義を理解し効果的なコミュニケーションについて説明できる
- 2.標準予防策について専門用語を用いて説明できる。
- 3.感染予防の基本である手洗いと手指消毒を正しく実施できる。

【実務経験】南原:看護師としてともに5年以上の実務経験

臨床における看護実践場面を教材として学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護技術とは	1)看護技術の構成要素 2)これから学ぶ看護技術とは	知識・技術・態度 コンテキストとアート
2	コミュニケーションに関する基礎知識	1)コミュニケーションの基本原理 2)コミュニケーションの種類とその概要	言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション
3	看護における面接	1)障害に応じたコミュニケーション	コミュニケーション技術とは 面接技法
4	感染防止対策の基本	1)感染防止の基礎知識 2)スタンダードプリコーション(標準予防策) 3)感染経路別予防対策	・感染の連鎖 ・スタンダードプリコーション ・接触感染、飛沫感染、空気感染
5	感染症予防のプロセス	1)感染経路別予防対策 2)洗浄・消毒・滅菌 3)滅菌物の取り扱い	
6	感染防止の技術	1)手洗い 手指消毒 演習①	・日常的手洗い ・衛生的手洗い ・手指消毒
7	感染症予防のプロセス	1)消毒薬品について 2)無菌操作について	・消毒法、滅菌法、滅菌物の管理
8	感染防止の技術	1)滅菌手袋の着脱 演習②	
9	技術試験	滅菌手袋の着脱	
10	感染防止の技術まとめ		
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ基礎看護学
③基礎看護技術 メディカ出版
・竹尾恵子:看護技術プラクティス、改訂3版、学研
・藤本秀司:わかる!身につく!病原体・感染・免疫
改訂2版 南山堂

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 2)最終試験受験資格:技術試験に合格している者
*授業参加状況・学習態度・提出物の提出状況も考慮する

授 業+B1:F49 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
基礎看護技術論Ⅱ (バイタルサイン・看護記録)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
10回	1単位(20時間)	必須	中西文香(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護展開の基盤となる看護技術の特徴や基本原則を理解し、個への適応の判断ができる思考の基礎を学ぶ。また対象となる人の健康状態を系統的に情報収集して、査定するための基本となる看護技術「バイタルサイン」「記録」について学ぶ。ここでの学習が全ての看護技術の基盤となり、個への看護実践につながることをねらいとする。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 生命をもつ人を対象に実践される看護技術の特徴について説明できる。
2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援、個への適応について説明できる。
3. バイタルサインの意義と体温・脈拍・呼吸・血圧の意義、メカニズム、影響因子、測定方法について説明できる。
4. 診療情報としての看護記録の意義、留意点について説明できる。

[実務経験] 中西文香:看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面の教材化、正確な技術習得ができるよう工夫し授業を展開する

[準備学習]

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護技術の構成	1) 看護技術とは 2) 看護技術の特性と基本原則 3) 看護ケアの要素	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスとアート ・科学的根拠に基づいた看護(EBN) ・看護の3H *理解度確認テスト① *理解度確認テスト② ・法的位置づけ
2	バイタルサイン	1) バイタルサインの意義	
3	"	2) 呼吸 メカニズムと影響因子 3) 脈拍 メカニズムと影響因子 測定方法	
4	"	4) 体温 メカニズムと影響因子 測定方法	
5	"	5) 血圧 メカニズムと影響因子 測定方法 触診法と聴診法	
6	血圧測定の実際	血圧計の構造・名称 測定方法 触診法と聴診法 ★援助計画の作成	
7	バイタルサインの実際	1) バイタルサイン観察の実際	
8	"	演習: 体温、脈拍、呼吸、SPO ₂ 、血圧 全身の動脈の触知、記録	
9	記録と報告	1) 看護記録の意義 2) 記載時の留意点	
10	技術試験	血圧測定の実験	
	試験	上記終了後 期末試験	

[使用テキスト]

- ・志自岐康子他: ナーシング・グラフィカ. 基礎看護学
- ・松尾ミヨ子: ナーシング・グラフィカ. 基礎看護学②.
- ・竹尾恵子: 看護技術プラクティス. 学研

[参考文献]

- ・高橋照子他: 看護学原論. 南江堂

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価: 100%
- 単位認定を受けるためには、技術試験に合格することが必要
* 授業参加状況・学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 基礎看護方法論Ⅰ (環境・活動)	学科/学年 看護学科/1年次	年度/時期 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	平田美由紀(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護展開の基礎となる技術の原理・原則を理解し、対象に必要な日常生活援助の「環境」「活動と休息」を提供するための知識、及び、基本的技術を臨床で活用できるレベルとして学ぶ。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 看護の対象となる人の生活環境を整えるための基本的技術の原理・原則を説明できる。
2. 看護の対象となる人と看護の実践者双方の安全、安楽、かつ効率的な姿勢や動作(ボディメカニクス)について基本的考え方を説明できる。
3. 人間の自然な動きを理解し、日常生活に障害のある対象への自立を支援する基本技術を習得する。
4. 日常生活における活動と休息のニーズを充足するための基本技術を習得する。

【実務経験】平田美由紀:看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	快適な環境をつくる技術	1)環境の意義と環境整備	・環境・人間・健康との関連
2	”	2)室温と湿度、プライバシー保護	・病床環境のアセスメント
3	”	3)騒音 採光と照明 4)病室の環境調整 環境整備の実際 ★援助計画の作成	・実習室の構造、使用方法の理解 ・病床環境の整備
4	”	5)病床とベッド	
5	”	6)ベッドメイキング ★援助計画の作成	
6	”	7)ベッドメイキングの実際 演習:クローズドベッド	
7	”	演習:オープンベッド ●技術試験:クローズドベッドの作成	
8	活動・運動を支援する技術	1)人間における活動とは	
9	”	2)活動とは	・体位の種類と身体への影響
10	”	3)運動とは 4)活動制限が人間に及ぼす影響とは	・人間の自然な動き ・さまざまな場面における体位変換の援助
11	”	5)体位変換 側臥位 水平移動 座位	
12	”	6)移動・移乗 7)体位変換の実際 演習:側臥位 水平移動 ★援助計画の作成	・ボディメカニクスの原則に基づいた技術
13	”	8)移動・移乗の実際 演習:車椅子移乗と移送 車椅子、輸送車、歩行援助	
14	臥床患者のシーツ交換	1)臥床患者のシーツ交換 演習:臥床患者のシーツ交換★援助計画の作成	
15	睡眠・休息を促す技術	1)休息の意義 2)睡眠とその援助 3)休息への援助	・サーカディアンリズム ・休息・睡眠に影響する要因のアセスメント
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術
メディカ出版
・F.ナイチンゲール,薄井坦子他訳:看護覚え書き,現代社
・竹尾恵子:看護技術プラクティス 第4版、学研

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 2)最終試験受験資格:技術試験に合格している者
*授業参加状況・学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
基礎看護方法論Ⅱ (清潔)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	平田美由紀(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護展開の基本となる清潔援助技術の根拠を人体の構造と機能から理解する。そして、対象の個別性をふまえた清潔援助を実施するための基本的技術・観察力・判断力を演習を通して学ぶ。

看護は清潔援助をはじめ看護技術を通して、対象の自然治癒力を高めるように働きかける。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において対象に必要な看護技術の基本を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解し、実施できることをねらいとする。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

- 1.健康障害時の衣生活について、専門用語を用いて説明できる。
- 2.健康障害時の清潔援助について、皮膚の構造と機能を理解し、専門用語を用いて援助方法を説明できる。
- 3.清潔援助のアセスメントを行い、根拠に基づいた基本的な看護技術を実施できる。

【実務経験】平田美由紀:看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト・事前配布のレジメ等による予習を行い授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	清潔援助の基礎知識	1)清潔の意義	・清潔の生理的意義・心理的社会的意義 ・皮膚・粘膜のメカニズム
2	〃	2)清潔援助とその影響	
3	〃	3)清潔援助の基礎知識	
3	衣生活の援助	1)衣生活援助の基礎知識	・衣生活の生理的意義・心理的社会的意義 ・病衣の条件 ・寝衣交換 ・個別性を考えた援助とは ・安全、安楽、自立を踏まえた援助計画
4	〃	2)日常生活と衣生活行動	
5	〃	3)健康障害時の衣生活のアセスメントと援助方法	
6	〃	4)病衣の選び方、寝衣交換	
7	〃	5)寝衣交換の実際 ★援助計画の作成 演習:臥床患者の寝衣交換	
6	健康障害時の清潔援助	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 入浴・シャワー浴・部分浴	・清潔行動とその影響 ・援助を行うためのアセスメント ・援助の目的 ・個別性を考えた援助とは ・プライバシーの保持 ・安全、安楽、自立を踏まえた援助
7	〃	2)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 洗髪・口腔ケア・整容	
8	〃	3)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 全身清拭・陰部洗浄	
9	〃	4)清潔援助の実際 演習:手浴・足浴 ★援助計画の作成	
10	〃	5)清潔援助の実際 演習:洗髪 ★援助計画の作成	
11	〃	6)清潔援助の実際 演習:全身清拭 ★援助計画の作成	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	〃	●技術試験:全身清拭	
	試験	演習終了後 期末試験	

[使用テキスト]

- ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術
メディカ出版
- ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 第4版、学研

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時最終試験評価:100%

最終単位認定:単位認定試験と技術試験とともに合格している者
*授業参加状況・学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
基礎看護方法論Ⅲ (食事・排泄)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	中西 文香 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護展開の基礎となる技術の原理・原則を理解し、対象に必要な日常生活援助の「食事」「排泄」を提供するために必要な知識と技術を習得し、習得した看護技術を科学的に説明し、実施できるよう本科目において「食事」「排泄」に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事に対する基本的欲求を理解し、対象に応じた食事援助の必要性・方法を原理・原則に基づいて説明できる。 2. 排泄に対する基本的欲求を理解し、対象に応じた排泄援助の必要性・方法を原理・原則に基づいて説明できる。 3. 基本的な食事援助・排泄援助を実施できる。 <p>【実務経験】中西文香:看護師として5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	食事と栄養	1)食の意義 2)食欲のメカニズム	・食べることの意義 ・食事のプロセス
2	摂食嚥下	1)摂食嚥下 2)食事援助のポイント	・嚥下障害のメカニズム
3	食事・栄養に関する基礎知識	1)実習に向けて 2)病院の食事 3)口腔ケア	・安全安楽の視点
4	経口摂取の援助	1)経口摂取の援助	・安全な経口摂取の援助
5	食事援助の実際	演習1) 食事介助と口腔ケア 食後の観察	・食事介助 ・口腔ケア
6			
7	非経口的栄養援助	1)消化吸収のメカニズム 2)非経口摂取の援助	・消化・吸収 ・経鼻経管栄養法、中心静脈栄養法
8	排泄の意義	1)排泄の意義 2)排尿のメカニズム 3)排便のメカニズム	・排泄の意義 ・排尿・排便のメカニズム ・排尿・排便を促す基礎知識
9	排泄アセスメントと援助	1)排泄の正常値とアセスメント 2)排泄の援助方法 3)排泄用具の選択	・排泄のアセスメント ・排泄援助を受ける患者の気持ち ・安楽で排泄しやすい体位
10	排尿・排便障害の種類	1)排泄行動を阻害する活動・運動上の要因 2)自然排尿・排便を阻害する要因 3)排泄援助のポイント	・排尿障害・排便障害 ・尿器・便器の種類と挿入の仕方
11	排尿・排便の援助方法	1)床上排泄の注意点 2)床上排泄の適応 3)おむつ交換・尿器・便器	・羞恥心・安全安楽
12	床上排泄の援助方法の実際	演習2) 便器・尿器の当て方 環境調整・プライバシーの配慮	・安全・安楽な排泄の体位 ・羞恥心への配慮
13			
14	演習の振り返り 排泄経路の変更 排尿困難時の対応	1)排泄援助の振り返り 2)ストーマ造設患者の看護 3)排尿困難時の対応	・1次の導尿・持続導尿 ・ストーマ
15	排便困難時の対応	1)排便困難時の対応	・グリセリン浣腸・摘便
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・松尾ミヨ子他編:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ③基礎看護技術Ⅱ、メデिका出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス.学研		科目終了時の最終試験の評価: 100 % 出席状況、授業態度、提出物を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床援助技術論 I (与薬)	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	山下美紀(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>既習の知識を活用し、薬物療法を受ける対象のニーズを理解し、安全で効果的な与薬を行うために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正確・安全な与薬法を行うための基礎知識が説明できる。 2. 薬物療法における看護の役割が説明できる。 3. 正確な知識にもとづいた、安全かつ苦痛の少ない与薬の基本技術が習得できる。 <p>【実務経験】山下美紀:看護師・助産師としてともに5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	与薬の基礎知識	1)与薬とは 2)与薬における法的根拠 薬物表示 薬剤の体内動態	<ul style="list-style-type: none"> ・体内動態と吸収時間 ・保助看法 医療法 ・看護師の役割 ・6R 3回の確認 ・特徴の理解 ・注射部位選定のアセスメント ・無菌操作
2	各種与薬の援助方法	1)看護師の役割 2)正しい与薬 薬の管理 3)経口与薬 4)直腸内与薬 点眼 吸入 経皮的与薬	
3	”		
4	注射による与薬法	1)注射法の基礎知識 注射方法と種類 2)薬液の準備(アンプル バイアル) 3)皮内注射	
5	”		
6	”	4)皮下注射	
7	”	5)薬液準備の実際 演習:薬液の準備 アンプルからの吸い上げ	
8	”	6)皮下注射の実際 演習:皮下注射	
9	”	★援助計画の作成 7)筋肉内注射	
10	静脈内注射	1)静脈内注射の基礎知識	
11	技術試験	1)薬剤の準備・皮下注射	
12	点滴静脈内注射	1)点滴静脈内注射の基礎知識	
13	”	2)点滴中の看護 ★援助計画の作成	
14	与薬における安全	1)注射業務と事故防止 針刺し防止策について	
15	”	まとめ	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ基礎看護学③ 基礎看護技術.メディカ ・竹尾恵子:看護技術プラクティス.学研 ・古川裕之:ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち② 臨床薬理学.メディカ 		<ol style="list-style-type: none"> 1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況:(遅刻・早退・授業態度を考慮する)を加味する 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床援助技術論Ⅲ (経過別・症状別)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	吉田展子/林晶子 塩山秀子/徳竹律子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>健康障害を持つ対象を理解し、対象の状態に応じた看護の考え方と看護援助を理解することを目的とする。看護の対象を健康上のニーズを持つ生活者という視点から捉え、対象の成長・発達段階における特徴および各段階における健康課題・問題と主要症状や疾病の経過に応じた看護の基本を学ぶことをねらいとする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.疾患の経過に基づく対象のニーズを理解し、援助方法を説明できる。 2.各症状の根拠を病態生理から説明できる。 3.疾病の症状に基づいて対象のニーズを理解し、援助方法を説明できる。 <p>【実務経験】吉田・林・塩山・徳竹:看護師としてともに5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識の習得ができるよう授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	対象の理解	1) 発達段階と健康上のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・常に生活者の視点を考えて対象理解ができる ・各症状を根拠に基づいて理解できる ・症状に応じた対象への適用方法を理解できる
2	経過別看護	1) 急性期にある対象のニーズと看護	
3	〃	2) リハビリテーション期にある対象のニーズと看護	
4	〃	3) 慢性期にある対象のニーズと看護	
5	〃	4) 終末期にある対象のニーズと看護	
6	症状別看護	1) 発熱のある患者への看護	
7	〃	2) 痛みのある患者への看護	
8	〃	3) 呼吸困難のある患者への看護	
9	〃	4) 悪心・嘔吐のある患者への看護	
10	〃	5) 便秘のある患者への看護	
11	〃	6) 浮腫のある患者への看護	
12	〃	7) 嚥下障害のある患者への看護	
13	〃	8) 意識障害のある患者への看護	
14	〃	9) 片麻痺のある患者への看護	
15	〃	10) まとめ	
	試験	上記授業終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・任和子: ナーシンググラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論, メディカ出版. ・林正健二: ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学, メディカ出版. 		1) 科目終了時の最終試験の評価: 100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護演習 I (基礎 I:技術・リフレクション)	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	中西 文香(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 1年次に学習してきた「知識」・「技術」を統合し看護を实践する科目である。看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここではその基盤となる観察技術や情報収集から必要な日常生活援助を見出し、実施評価できることをねらいとする。また初めての臨床実習である「基礎看護学 I 実習」において効果的に看護を展開できる内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. バイタルサインの観察結果から事例をアセスメントし、日常生活援助計画の立案ができる 2. 援助計画に基づいて援助を実施し、安全・安楽の視点から目標達成状況を評価できる 3. 自己の基本技術習得レベルを知り、自己の課題を明確にすることができる 4. 技術試験の合格を通して、前向きに基礎看護学 I 実習に臨むことができる</p> <p>【実務経験】中西 文香:看護師としてともに5年以上の実務経験 これまでの学修の学びを統合し、基本的援助技術を習得し基礎看護学 I 実習に臨めるよう授業展開する</p> <p>【準備学習】 既習学習の復習ならびに予習(課題)を行い授業(講義・演習)に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の手引き、基礎看護学 I 実習手引き、看護倫理 ・対象者に応じた援助方法の工夫 ・経過記録、フローシート記入
2	〃	2) 実習オリエンテーション	
3	バイタルサイン演習	3) 援助計画の立案	
4	〃	目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化 4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正 5) 対象事例に適した援助が実施できる	
5	単位認定技術試験	1) 技術試験 バイタルサインの観察と解釈・判断	
6	リフレクション	基礎看護学 I 実習の振り返り	
7	リフレクション	同上	
8	基礎看護学 I 実習 リフレクション発表会	基礎看護学 I 実習 リフレクション発表会	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学概論、方法論、臨床援助技術論で使用したテキスト及び配付した資料など ・プラクティス 学研 		<ul style="list-style-type: none"> 1) 最終技術試験の評価 100% 2) 技術試験に合格した者が以後の実習に参加することができる 3) 技術試験は演習の全時間を履修したものが望むことができる 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
在宅看護概論	看護学科1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15時間)	必須	佐藤 洋子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 在宅看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、在宅看護の概念と対象、活動の場、地域社会と生活に根差した活動方法の特徴について学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.在宅看護の歴史、社会的背景から在宅看護の特性と看護者の役割について説明できる。 2.在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を説明できる。 3.在宅ケア・在宅看護の制度とシステムから関連職種との役割と連携の必要性を説明できる。</p> <p>【実務経験】佐藤洋子:保健師として5年以上の実務経験。 保健師として地域での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う。 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域・在宅看護の概念	1.地域と生活 2.地域・在宅看護の背景 3.人口構造の変化、国民の価値観の変容 疾病構造の変化、地域格差	<ul style="list-style-type: none"> ・国民生活基礎調査、生活者の視点 ・ICF(国際生活機能分類) ・社会的背景と国民の価値観の変容 ・地域医療構想
2	在宅看護	1.命と生活を看る訪問看護サービス(DVD) レポート作成・提出	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康に関する意識調査 ・訪問看護ステーション
3	QOL	1.希望は必ず見つかる がん看護専門看護師 田村恵子氏 グループディスカッション実施・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・QOL
4	政策と事例	1.地域包括ケアシステム 地域・在宅看護活動 「暮らしの保健室」「高齢者居場所づくり」 「コミュニティナース」など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム 自助・互助・共助・公助 ・地域包括支援センター ・一次予防・二次予防・三次予防 ・インフォーマルな資源・フォーマルな資源 ・社会資源と関連職種との連携
5	在宅での食事	1.食べる楽しみが希望を生み出す 訪問管理栄養士 中村育子氏 グループディスカッション実施・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅は食事が楽しみ ・誤嚥性肺炎 ・多職種連携と地域連携
6	終末期のがん看護	1.笑顔で人生の最後を(47分) 在宅ホスピス医のパイオニア 川口厚 グループディスカッション実施・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・エンド・オブ・ライフ・ケア
7	地域で支える社会資	1.その人らしさを見つめて(40分) 認知症ケアのプロたち グループディスカッション実施・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能型居宅介護(看多機)
8	在宅看護の変遷	1.訪問看護の変遷 2.在宅看護の役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自立、自律支援 ・病状、病態の予測と予防
試験			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・櫻井尚子他:ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 ・厚生統計協会編、国民衛生の動向 ・渡辺裕子他:地域・在宅看護論, 日本看護協会出版会 ・山田雅子他:地域・在宅看護の実践, 医学書院 		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
成人看護学概論	看護学科 / 1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	鎌田寿子 奈良育代(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

本科目は、ライフサイクルにおける成人に焦点を当て成人の理解と基本的な看護について学ぶ。成人期は生活習慣や加齢に伴って健康問題をきたしやすく、いったん健康が障害されると周辺の人々にも影響が及ぶ。一方、成人期は生産性に優れているが、健康上の問題に対する取り組み方は個々の価値観や考え方による。このような成人期の特徴を踏まえ、成人をとりまく社会環境や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能などから、さらに発達課題の視点から、成人期にある人とその家族について看護の基本的な方法を学ぶ。また、成人看護実践で活用される基本となる諸理論の基礎的考え方について学び、対象を総合的・全人的にとらえる方法を学ぶ。それにより、後続する2年次の基礎看護学Ⅱ実習、成人看護方法論、老年看護方法論、さらに成人・老年看護学実習の基礎となる。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. ライフサイクルにおける成人の位置づけについて説明できる。
2. 成人期にみられる健康障害について、成人の特徴・生活行動と関連づけて説明できる。
3. 成人への看護に有用な理論にはどのようなものがあるか説明できる。
4. 授業を通して自分自身の生活と健康について振り返り、より良い生活の実践について考える機会となる。

[実務経験] 鎌田寿子・奈良育代: 看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面等を教材とし、成人期の対象理解、看護のあり方を学べるよう教育方法を工夫する

[準備学習]

テキストによる予習ならびに授業の復習を行い主体的に授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	成人の特徴	1. 成人の定義と特徴	成人の定義、成人の成長発達と各期の特徴 エリクソン、ハヴィグースト、レビンソン 成長発達のアセスメントポイント 健康問題(課題)と意思決定 アドバンス・ケア・プランニング
2		(1) 成人の定義 (2) 成人各期の成長発達 (3) 成人役割(家族・社会) (4) 成人各期の健康問題と意思決定支援 (5) 身体機能の特徴	
3	成人の生活と健康	1. 成人の生活の理解 (1) 生活とは (2) 成人の生活の理解	生活を営むとは、生活と健康との関係 多様な健康観
4		2. 健康と健康観の多様性 (1) 健康観の動向 (2) 健康観の多様性と保健行動	
5	成人期にみられる健康障害 (演習・発表含む)	1. 生活習慣に関連する健康障害 (1) 生活習慣病の要因	生活習慣と生活習慣病 成人各期の健康問題と衛生動態 ・人口 ・各期の有訴率・受療率 ・各期の死因・死亡数(率) ・自殺死亡率 ・メンタルヘルス ワークライフバランス
6		(2) 健康問題の現状と対策	
7		2. ワークライフバランスと健康障害 (1) 職業と健康 (2) 生活ストレスと健康障害 (3) 活動の効果とメンタルヘルス	
8	健康を考える (発表含む)	1. 自分自身の健康を活動・食・睡眠から考える ・健康を生活から評価する ・健康を考えたお弁当	健康の定義 更年期障害
9		1. 更年期と更年期障害とは 2. 更年期と心身の健康障害 ・原因と症状 ・予防と治療	
10	更年期にみられる健康障害		
11	まとめ①	授業1～10 まとめとポイント ※進度により10回目の授業内容の続きもある	
12	セルフケア理論の基礎 (セルフケア不足理論)	1. セルフケアとは 2. オレムのセルフケア理論 (1) 三つの理論構成 (2) セルフケア理論 (3) セルフケア不足理論 (4) 看護システム理論	セルフケア能力、自助と自己決定 セルフケア要件(普遍的・発達の・健康逸脱) セルフケア・エージェンシー、治療的セルフケア・デマンド 全代償・部分代償・支持システム、パターナリズム エリクソン発達理論、発達の・状況的危機、予期的指導 行動変容、モデリング、結果予期と効果予期 自己効力を高める4つの情報源 自己概念と自尊感情
13		1. 危機とは 2. 危機の特徴 3. 危機介入	
14	自己効力理論の基礎	1. 自己効力とは 2. 行動変容の鍵 3. 自己効力を高める4つの情報源	
15	まとめ①	授業11～13 まとめとポイント	
	試験	以上終了後、期末試験	

[使用テキスト]

1) 安酸史子他: ナーシンググラフィカ成人看護学①成人看護学概論, メディカ出版, 2023.
参考図書: ナーシンググラフィカ成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得, 成人看護学③セルフマネジメント

[単位認定の方法及び基準] (試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価(記述試験): 100%
- 2) 学習課題への取り組み・授業参加状況を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
老年看護学概論	看護学科 / 1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	桑原 真弓(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本科目は老年看護学のイントロダクションにあたり 1.高齢者とその家族と共に一人の生活者としてとらえることができる 2.生理的老化が個人にもたらす影響を理解することができる 3.高齢化社会の保健医療福祉の変遷と今後の課題を理解することができる などを授業の目的としており、これらより看護者の役割を考える。授業方法としては座学だけでなく、グループ学習により、主体的に学ぶ。常日頃より高齢者に関する社会問題、介護問題に関心を持ち、新聞や雑誌などで正確に理解しておくなど、学生自ら課題を見つけ、学び、考える姿勢を身につける。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.高齢者の個別性を理解し、生活の視点からとらえて説明できる。 2.高齢者を身体的、精神的、社会的に広く多面的に理解し、説明できる。 3.高齢者の倫理的問題を理解でき、ケアを支える制度及び自立を支援する制度の活用方法を説明できる。</p> <p>【実務経験】桑原真弓:看護師として5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面等を教材とし、老年期の対象理解、看護のあり方を学べるよう教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	老年期の理解	1)加齢と老化	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学概念と自己のもつ老年に対するイメージを照らし合わせる ・多種多様な個人とその家族を全人的にとらえる ・発達課題(ハヴィガースト、エリクソン) ・生活史を通じて高齢者理解を深める
2	〃	2)ライフサイクルと老年期	
		3)高齢者の多様性	
3	高齢者の健康に関する指標	1)高齢者人口の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する統計的特徴
4	〃	2)我が国の人口高齢化の特徴とその影響 3)高齢者生活の現状	
5	加齢に伴う変化	1)身体機能の生理的変化	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による機能の変化 ・高齢者と家族の機能 ・高齢者体験を通して加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について考察する
6	〃	2)心理・精神機能の変化	
7	〃	3)社会的機能の変化	
8	〃	4)高齢者体験 ※用具を装着し高齢者を体験する	
9	老年看護の概念	1)老年看護の基本的姿勢 2)老年看護実践の視点 3)老年看護に期待される役割	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のための国連原則 ・高齢者の健康の保持増進 ・関連職種とのチームアプローチ
10	老年看護の倫理	1)高齢者の権利保障	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指示 など ・高齢者虐待における我が国の特徴
11	〃	2)インフォームドコンセントと自己決定の支援 3)高齢者の身体拘束 4)高齢者虐待	
12	高齢者の保健・医療・福祉制度の動向	1)高齢者を支える制度 2)高齢者を支える社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度 など ・施設サービス・在宅サービスにおける看護
13	〃	3)地域包括ケア	
14	高齢者の生活を支える看護	1)高齢者の生活アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活アセスメント(CGA等) ・コミュニケーション、歩行・移動等
15	〃	2)加齢による変化の特徴を踏まえた援助	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・堀内ふき他:ナーシンググラフィカ 老年看護学① ・高齢者の健康と障害、MCメディカ出版 ・国民衛生の動向、財)厚生統計協会 		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護学概論	看護学科/1年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	塩山 秀子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 小児の特性を学び、現代社会に生きる子どもやその家族の問題を、医療・福祉・社会環境の視点から理解を深めるとともに、倫理的判断能力を養い、子どもの権利を守るという視点から小児看護の役割と課題について理解することをねらいとする。</p> <p>[科目終了時の達成課題(行動目標)] 1.小児看護の歴史的な変遷を振り返り、小児看護の歩みを理解するとともに、小児の特性、小児看護の概念を記述できる。 2.社会の動向や小児保健医療の動向を理解し、小児看護の役割、他職種との連携の必要性について記述できる。 3.子どもの成長発達的一般原則及び基礎となる理論と成長発達を説明できる。</p> <p>【実務経験】塩山秀子:看護師として5年以上の実務経験 臨床での小児看護実践経験、学生の幼少期での体験の想起を促す等教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	小児看護の概念	1)小児と環境	<p>【レポート】 ・「小児の入院が家族に及ぼす影響」の動画を視聴し、レポートを書く</p> <p>【グループワーク】1 ・イラストを見て子どもに説明しよう</p> <p>【調べ学習】 ・少子化に関する統計 ・小児に関する統計全般</p> <p>【グループワーク】2 エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 ボウルビィのアタッチメント理論など</p> <p>【グループワーク】3 実例を通して発育・発達の評価をしよう</p> <p>※各講義にからめ国試問題を出題し、1年生から国試問題に触れ慣れていく</p>
2	”	2)小児看護の特徴と役割	
3	”	3)小児看護における倫理	
4	小児と社会	1)小児保健をめぐる法律と政策	
5	”	2)小児を取り巻く医療の変遷と課題	
6	”	3)小児の保健統計	
7	”	4)現代社会と小児の問題	
8	”	5)小児の予防接種	
9	”	6)学校保健の動向	
10	”	7)小児看護で用いられる理論	
11	”	8)理論の発表会	
12	小児の成長と発達	1)子供の成長・発達の原則と影響因子	
13	”	2)心理社会的発達	
14	”	3)身体発育の評価と心理社会的発達の評価	
15	”	4)まとめと国試対策	
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・中野綾美他:ナーシング・グラフィカ 小児看護学 ①小児の発達と看護、メディカ出版 ・厚生統計協会編 国民衛生の動向(最新版) ・看護学生スタディガイド 		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況・学習態度・提出物の期限と内容も考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護学Ⅰ実習 (対象理解)	看護学科/1年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	1単位(45時間)	必須	中西文香 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 健康障害を持つ対象を理解し、看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度を習得する。</p> <p>[実習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の現在の状態が説明できる。 2. 対象の健康状態に配慮したコミュニケーションを図ることができる。 3. 指導者・教員とコミュニケーションを図ることができる。 4. 看護の基本技術(共通基本技術)が正確に実施できる。 5. 原理・原則に基づいた日常生活援助が指導者・教員・グループメンバーと共に実施できる。 6. 看護学生としての基本的態度(知識・技術・態度の統合)がとれる。 <p>【実務経験】中西文香他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習に行く前に、実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読し、事前学習に取り組む。</p>			
<p>[授業の内容]</p> <p style="text-align: center;">＜実習展開＞</p> <p style="text-align: center;">※詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設職員よりオリエンテーションを受け、施設を見学する。 2. 安全面に配慮した、施設、フロアの構造を知る。 3. 施設職員や看護師と行動を共にし、援助の実際を見学実習する。 4. コミュニケーションが可能で、日常生活援助の必要な利用者を受け持つ。 5. 利用者とのコミュニケーションから情報を得て、必要とする日常生活援助について考える。 6. コミュニケーションや観察から、利用者の生活や発達段階を考える。 7. 学生としての基本的態度をとる。 8. 実習前に基本技術の演習を行う。 9. 記録を通し、思考過程を振り返る。 10. 実習終了時に実習の学びを共有する。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・基礎看護学概論、方法論、臨床援助技術論で使用したテキスト及び配付した資料など ・プラクティス, 学研.		1)実習評価表に示す基準に基づいて評価する 方法:実習状況、実習記録、レポート、出席状況から行う	

令和7年度

授業進度計画

令和7年4月1日発行

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校

令和7年度

授業進度計画

(シラバス)

2年次

学校法人 穴吹学園 穴吹医療大学校

看護学科

目 次

教育課程表	1
カリキュラム構造図	3
2年次	
看護物理学	4
コンピュータ情報処理演習	5
コミュニケーショントレーニングⅡ	6
人体の構造学Ⅲ(演習)	7
臨床栄養学	8
疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液)	9
疾病治療学Ⅲ(脳神経・運動・精神)	10
疾病治療学Ⅳ(小児・腎・泌・放射線)	11
疾病治療学Ⅴ(生殖器・周産期)	12
リハビリテーション論	13
公衆衛生学	14
社会福祉・社会保障論	15
基礎看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント)	16
臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療)	17
臨床援助技術論Ⅳ(看護過程)	18
臨床援助技術論Ⅴ(看護過程の実際)	19
看護演習Ⅱ(基礎Ⅱ:技術・リフレクション)	20
地域・在宅看護方法論Ⅰ(家族援助)	21
成人看護方法論Ⅰ(呼吸・循環)	22
成人看護方法論Ⅱ(血液・アレルギー)	23
成人看護方法論Ⅲ(脳・代謝)	24
成人看護方法論Ⅳ(消化器・生殖・胃がんOP看護過程:周手術期含む)	25
看護演習Ⅳ(成老Ⅰ:技術・リフレクション)	26
老年看護方法論Ⅰ(運動・腎)	27
小児看護方法論Ⅰ(発達段階別)	28
小児看護方法論Ⅱ(症状別看護)	29
母性看護学概論	30
母性看護方法論Ⅰ(妊娠・分娩・新生児)	31
精神看護学概論	32
救急蘇生法Ⅰ(日赤救急法含む)	33
臨地実習	
基礎看護学Ⅱ実習(日常生活援助)	34
成人・老年看護学Ⅰ実習(看護過程展開)	35

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年	
教育内容	科目名							
基礎分野	科学的思考の基礎	教育心理学	1	30	30			
		教育学(教育原理・教育方法論)	1	30	30			
		論理的思考の基礎	1	20	20			
		看護物理学	1	15		15		
		情報モラル	1	15	15			
		情報科学概論	1	15	15			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
	小計	7	155	110	45			
	人間と生活・社会の理解	倫理学Ⅰ	1	15	15			
		倫理学Ⅱ	1	15				15
		法学概論	1	15	15			
		家族社会学	1	15	15			
		英語コミュニケーション	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	15			15	
人間理解の基礎	1	15			15			
小計	9	180	105	30	30	15		
計	16	335	215	75	30	15		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ(演習)	1	15		15		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
		臨床生化学	1	20	20			
		臨床栄養学	1	20		20		
	小計	7	175	140	35			
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器)	2	40	40			
		疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ(脳神経・運動・精神)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ(小児・腎・泌)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅴ(生殖器・周産期)	1	15		15		
	リハビリテーション論	1	15		15			
	小計	10	250	100	120	30		
	健康支援と社会保障制度	看護と法律(保助看法・関係法規)	1	30				30
		公衆衛生学	1	20		20		
		社会福祉・社会保障論	1	30		30		
		保健指導論(健康科学概論含む)	2	40			40	
		保健統計	1	20			20	
小計	6	140		50	60	30		
計	23	565	240	205	90	30		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史)	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ(看護倫理・理論)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅰ(コミュニケーション・感染)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅱ(バイタルサイン・看護記録)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント)	1	20		20		
		基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ(清潔)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ(与薬)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ(看護過程)	1	30		30		
	臨床援助技術論Ⅴ(看護過程の実際)	1	15		15			
	看護演習Ⅰ(基礎Ⅰ:技術・リフレ)	1	15	15				
	看護演習Ⅱ(基礎Ⅱ:技術・リフレ)	1	15		15			
	小計	15	365	255	110			
地域・在宅看護論	地域看護学	1	15			15		
	在宅看護概論	1	15	15				
	地域・在宅看護方法論Ⅰ(家族援助)	1	30		30			
	地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	1	30			30		
	地域・在宅看護方法論Ⅲ(展開・演習)	1	30				30	
	看護演習Ⅲ(在宅:技術・リフレ)	1	15				15	
小計	6	135	15	30	45	45		

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容	科目名						
成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
	成人看護方法論 I (呼吸・循環)	1	30		30		
	成人看護方法論 II (アレルギー・血液)	1	20		20		
	成人看護方法論 III (脳・代謝)	1	30		30		
	成人看護方法論 IV (消化器・生殖・胃がんOP看護過程)	1	30		30		
	看護演習IV (成老 I : 技術・リフレク)	1	15		15		
	看護演習 V (救急蘇生法)	1	15			15	
	看護演習VI (成老 II・III : 技術・リフレク)	1	15			15	
小計	8	185	30	125	30		
老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
	老年看護方法論 I (運動・腎)	1	15		15		
	老年看護方法論 II (生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	1	30			30	
	老年看護方法論 III (看護過程)	1	20			20	
小計	4	95	30	15	50		
小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
	小児看護方法論 I (発達段階別)	1	30		30		
	小児看護方法論 II (症状別看護)	1	30		30		
	小児看護方法論 III (看護過程)	1	15			15	
	看護演習VII (小児 : 技術・リフレク)	1	15			15	
	小計	5	120	30	60	30	
母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
	母性看護方法論 I (妊娠・分娩・新生児)	1	30		30		
	母性看護方法論 II (産褥・育児)	1	30			30	
	母性看護方法論 III (看護過程)	1	15			15	
	看護演習VIII (母性 : 技術・沐浴演習・リフレク)	1	15			15	
	小計	5	120		60	60	
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
	精神看護方法論 I (症状別看護)	1	30			30	
	精神看護方法論 II (生活)	1	30				30
	精神看護方法論 III (看護過程)	1	15				15
	看護演習IX (精神 : 技術・リフレ)	1	15				15
	小計	5	120		30	30	60
看護の統合と実践	看護管理論 I (医療安全)	1	15				15
	看護管理論 II (看護マネジメント)	1	15				15
	災害看護論 (トリアージ含む)	1	30				30
	国際看護論	1	15				15
	看護研究 I (基礎)	1	30			30	
	看護研究 II (実践・研究発表含む)	1	30				30
	看護の展望 (学会参加・看護観発表会含む)	1	30				30
	救急蘇生法 I (日赤救急法含む)	1	15		15		
	救急蘇生法 II (BLS研修含む)	1	30				30
	看護演習 X (生活 : 技術・リフレ)	1	20				20
	看護演習 XI (統合 : 技術・リフレ)	1	30				30
	総合看護セミナー I (総合看護過程 I)	1	30				30
	総合看護セミナー II (総合看護過程 II)	1	30				30
	総合看護セミナー III (卒業前演習)	1	20				20
小計	14	340		15	30	295	
臨地実習	基礎看護学 I 実習 (対象理解)	1	45	45			
	基礎看護学 II 実習 (日常生活援助)	2	90		90		
	地域看護学実習 (居場所・産業・行政)	1	45			45	
	地域・在宅看護論実習	2	90				90
	成人・老年看護学 I 実習 (看護過程展開)	2	90		90		
	成人・老年看護学 II 実習 (急性期・回復期)	2	90			90	
	成人・老年看護学 III 実習 (慢性期・終末期)	2	90			90	
	成人・老年看護学 IV 実習 (リハビリテーション・継続看護等)	2	90			90	
	小児看護学実習	2	60			60	
	母性看護学実習	2	60			60	
	精神看護学実習	2	90				90
	生活援助実習 (施設等)	2	90				90
	看護の統合と実践実習	2	90				90
	臨地実習 計	24	1020	45	180	435	360
	総合計	125	3400	860	905	830	805

カリキュラム構造図

教 育 理 念

教 育 目 標

看護の統合と実践		看護管理論Ⅰ・Ⅱ、災害看護論、国際看護論、看護研究Ⅰ・Ⅱ 看護の展望、救急蘇生法Ⅰ・Ⅱ、看護演習Ⅴ・Ⅹ・Ⅺ 総合看護セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ
		臨地実習：生活援助実習、看護の統合と実践実習
精神看護学	精神看護学Ⅸ 精神看護学Ⅷ 精神看護学Ⅵ 精神看護学Ⅴ 精神看護学Ⅳ 精神看護学Ⅲ 精神看護学Ⅱ 精神看護学Ⅰ	小児看護学Ⅶ 小児看護学Ⅵ 小児看護学Ⅴ 小児看護学Ⅳ 小児看護学Ⅲ 小児看護学Ⅱ 小児看護学Ⅰ
	成人看護学 成人看護学Ⅳ 成人看護学Ⅲ 成人看護学Ⅱ 成人看護学Ⅰ	老年看護学Ⅵ 老年看護学Ⅴ 老年看護学Ⅳ 老年看護学Ⅲ 老年看護学Ⅱ 老年看護学Ⅰ
		母性看護学Ⅷ 母性看護学Ⅵ 母性看護学Ⅴ 母性看護学Ⅳ 母性看護学Ⅲ 母性看護学Ⅱ 母性看護学Ⅰ
		成人・老年看護学Ⅰ～Ⅳ実習
専門分野 地域・在宅看護論	臨地実習：地域・在宅看護論実習	在宅療養支援、地域包括支援
	臨地実習：地域看護学実習	地域(コミュニティ)・行政・学校保健・産業保健、地域での看護の実
	看護演習Ⅲ	看護技術演習、看護リフレクション
	地域・在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	家族援助、在宅療養に必要な技術、看護展開
	在宅看護概論	概念、機能と役割、対象、活動の場、活動方法
	地域看護学	地域(コミュニティ)・生活の理解
基礎看護学	臨地実習：基礎看護学Ⅰ実習	対象理解
	臨地実習：基礎看護学Ⅱ実習	日常生活援助
	看護演習Ⅰ・Ⅱ	看護技術演習、看護リフレクション
	臨床援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	看護技術(与薬、検査・治療、経過別・症状別、看護過程、看護過程の実際)
	基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	看護技術(環境・活動、清潔、食事・排泄)
	基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	看護技術(コミュニケーション・感染、バイタルサイン・看護記録、フィジカルアセスメント)
基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ	概念、歴史、看護倫理、看護理論	
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	看護と法律、公衆衛生学、社会福祉・社会保障論、保健指導論 保健統計
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学、病理学、臨床薬理学 疾病治療学Ⅰ～Ⅴ、リハビリテーション論
	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ～Ⅲ、人体の機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床生化学、臨床栄養学
基礎分野	人間と生活・社会の理解	倫理学Ⅰ・Ⅱ、法学概論、家族社会学、英語コミュニケーション コミュニケーショントレーニングⅠ～Ⅲ、人間理解の基礎
	科学的思考の基盤	教育心理学、教育学(教育原理・教育方法論)、論理的思考の基礎、 看護物理学、情報モラル、情報科学概論、コンピュータ情報処理演習

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護物理学	看護学科/2年次	令和7年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15時間)	必須	松本 正義(非常勤)

[授業の目的・ねらい]

物理とは「物の道理」であり、物理学とは自然現象を支配する法則を明らかにし体系化したものである。脳の構造や遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。私たちが身を置いている医療・看護・介護の場面は物理であふれていると言っても過言ではない。そこで、この科目では、人の健康レベルを判断する際の根拠となる物理現象に関する基礎的原理・原則を学んでもらいたい。

[科目終了時の達成課題(行動目標)]

- 1.剛体の力学について学び、力のモーメント、てこの原理、ボディメカニクスを理解する。
- 2.圧力とは何かを学び、ヒトの内部で起きる圧変動が与える影響を理解する。
- 3.音、光、熱に関する基礎知識を学び、医療・看護用具に使われている物理原則を理解する。

[実務経験]臨床工学士の資格を有している

臨床工学士の実践を教材とし、学生がイメージしやすいよう授業を展開する

授業内容の復習ならびに次の授業内容を予習し授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	重いものを持つためにはどうしたらよいか	力のモーメント てこの原理の人体中での応用 筋肉の張力と関節にはたらく力 腰にかかる力	力のモーメント(トルク) 支点・力点・作用点、てこの原理 僧帽筋・腓腹筋・上腕二頭筋の各張力 第5腰椎及び脊柱起立筋に働く張力
2	看護ボディメカニクスの物理	ベッド上の患者の上体を起こす方法 小さな力でも大きな効果 看護ボディメカニクスの物理的重点事項	支持面(基底面)、慣性の法則 ボディメカニクス 運動の法則
3	身近な圧力	圧力とは何か 気圧が変わったら人間はどうなるか 入浴とベッドの圧力効果	圧迫応力、引張り応力、ずれ応力 圧力 (kg重/cm ² , mmHg, cmH ₂ O, Pa) フックの法則、パスカルの原理
4	呼吸器と吸引の物理	呼吸運動のメカニズム 吸引(胸腔ドレナージ)の原理 胃洗浄・真空採血管	ボイルの法則、陽圧と陰圧と平圧 チェスト・ドレーン・バッグの原理 ベルヌーイの定理、サイフォンの原理
5	点滴静脈内注射の物理	点滴静脈内注射のセッティングの違い 流量の調節 輸液バッグの高さ	ポンピング・プライミング、コアリング ポアズイユの法則、点滴所要時間 ブラウン運動(ランダムウォーク)
6	循環器の物理	ポンプとしての心臓 血液循環と血圧 血圧測定メカニズム	心臓の刺激電動系のしくみ 平均血圧、脈圧、オームの法則、粘性 コトコフ、オンロメトリック法、血圧と重力
7	感覚器の物理	感覚の大きさ 聴覚の感受性、聴覚の大きさ、音の高さ 感覚は変化に敏感で時間とともに弱まる 視覚の機能 視覚の感受性	閾値、ウエーバー・フェヒナーの法則 音の大きさ(dB)、音の高さ(Hz) 連続音、断続音(AM・FM変化)、ドップラー効果、暗・明順応、杆体・錐体細胞、プルキンエ現象
8	体温制御の物理	身体各部の温度と熱流モデル 体温調節のための機能 体温異常のメカニズム	代謝率、熱伝達率 不感蒸散、シュテファン・ボルツマンの法則 発熱、うつ熱、悪寒、青ざめ、シバリング
	試験	上記終了後、期末試験	

[参考・引用テキスト]

1)佐藤和良:看護学生のための物理学(第6版),医学書院. 2)基礎分野物理学系統看護学講座,医学書院)3)ベッドサイドを科学する看護に生かす物理学,Gakken

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験)100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
コンピュータ情報処理演習	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	田井 麻友美(非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>コンピュータによる情報処理の実技を学び、看護に活用できる技術を身につける。 ワードプロソフトを用いてレポートや研究論文が作成できる。 表計算ソフトを用いて表の集計やグラフによる視覚的表現、数量データ・計数データを分析・推測・検定する。 検索や電子メールなどインターネット技術を活用する。 プレゼンテーションソフトを用いて効果的なプレゼンテーションを行う技能を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワードプロソフト(Word)を使って、業務に必要な基本的な資料作成ができる。 2. インターネットや電子カルテシステムを活用して必要な情報を取得するために必要な技術を習得する。 3. 統計ソフト(Excel)の基本的な操作ができ、基本統計量を算出できる。 4. プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を中心に、使用方法をマスターし効果的なプレゼンテーションができる。 <p>【実務経験】田井麻友美:PCインストラクターとして豊富な経験(学校での教授含む)を有し、情報処理技能に精通し教授活動を実践している。知識・技術ならびに情報管理について主体的に学べるよう授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	パソコンを用いた演習(OS)	1) Windows Vistaの基本操作	・Windows Vistaの基本操作 パソコン設備の利用の仕方
2	パソコンを用いた演習(ワープロ)	1) Wordの基本操作	・Wordの基本操作
3	〃	2) 文字の入力 3) 文書の作成	・文章、グラフ・表による表現
4	〃	4) レポートの作成方法	・レポート作成に利用
5	パソコンを用いた演習(エクセル)	1) Excelの基本操作	・Excelの基本操作
6	〃	2) 数式・関数の入力	・表の作成と表計算機能の活用 ・関数を利用した効果的な表計算の活用
7	〃	3) グラフ表現	・効果的なグラフの作成
8	〃	4) 統計・解析	・量的データ・質的データの相違、集計方法の実際
9	パソコンを用いた演習(インターネット)	1) インターネットを使った情報検索	・Yahoo・Googleで情報の検索 ・専門の文献検索・メールの活用
10	パソコンを用いた演習(ワープロ)	1) PowerPointの概要と基本操作 2) PowerPointの応用操作	・PowerPointの基本操作
11	パソコンを用いた演習(看護研究)	1) 看護研究(テーマ選定)	・「100の指標からみた香川(医療・福祉)」より研究テーマを選定する
12	〃	2) 看護研究(計画書の制作)	・テーマに基づいて調査データを分析し、仮説を立てる
13	〃	3) 看護研究(情報収集・分析)	・調査データの図・表の作成
14	〃	4) 看護研究(パワーポイントの制作①)	・全体構成および発表原稿の制作
15	プレゼンテーション試験	4) 看護研究(パワーポイントの制作②) 5) プレゼンテーション 上記終了後、期末試験	・設定したテーマに基づき発表する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・よくわかるMicrosoft Word2010&Microsoft Excel1210&Microsoft Power Po2520 ・必要資料はプリントで配布		1) 科目終了時の発表評価 : 60% 2) 提出物評価 : 30% 3) 出席 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度	授業形態
コミュニケーション トレーニングⅡ	看護学科 / 2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1 単位 (30 時間)	必須	南原由理子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]
 コミュニケーションは看護職に求められる重要な能力であり、その重要性を認識し、コミュニケーション能力を学び、成人・老年看護学実習時に自己評価・他者評価(指導者・教員)により自己のコミュニケーション能力を自己分析する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

- 1) 現時点での学生個々のコミュニケーション・スタイルを診断し気づきを得ることができる。
- 2) 考え方を学ぶだけでなくディスカッションやロールプレイでスキルを身につけることができる。
- 3) 学習した考え方やスキルを使って、臨地実習での問題を解決するシミュレーションを行い、自己理解と自信を深めることができる。

【準備学習】

1年次の授業内容を復習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	コミュニケーションの 自己評価	1) コミュニケーションの自己評価シートの記入	コミュニケーションを学ぶ目的 自己のスキルの不足に気付く 傾聴・共感・協働・コンセンサス コミュニケーション技術 非認知能力
2	臨地実習にむけて 必要なコミュニケーション	1) 臨地実習におけるコミュニケーション コミュニケーションの必要性	
3	〃	2) コミュニケーションに必要な能力	
4	〃	3) 基礎Ⅱ実習にむけての準備	
5	〃	・あいさつとマナー ・連絡、報告、相談	
6	〃	・シャドーイングやカンファレンス ・言葉づかい(丁寧語、謙譲語、尊敬語)	
7	〃	4) 事例を用いての検討とGW発表	
8	〃	・謝り方がわからない ・会話が続かない ・いったん引き受けたたのみを断りたい	
9	成人・老年看護学Ⅰ実習 にむけての課題と目標設定	5) 基礎看護Ⅱ実習にむけてのまとめ	★確認テスト
10	〃	1) 看護コミュニケーションとは 看護ケア行動を成立させる要素	★確認テスト 自己評価、看護師評価、教員評価 を得て、次回の領域実習に向けて 改善ポイントを3点考える (課題の評価対象)
11	〃	2) 信頼関係を築くためのコミュニケーションとは	
12	〃	3) 看護の場面を振り返る ロールプレイ演習	
13	〃	発表会	
14	〃	発表会	
15	〃	まとめ	
15	臨地実習後の振り返り	1) 臨地実習でのコミュニケーション評価 (360度評価)	
試験		14回目終了後、期末試験	

[使用テキスト]

看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力の教育プログラム開発分科会編: 専門学校生に求められるコミュニケーション力育成テキスト
 中村裕美編: ナーシンググラフィカ基礎看護学②19巻
 基礎看護技術Ⅰ

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験): 100%
- 2) 授業への参加状況、GWでの積極的な行動も評価
- 3) レポート提出や課題提出状況なども評価

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態	
人体の構造学Ⅲ	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
8回	1単位(15時間)	必須	中西 文香(実務経験有) 太田 健一(非常勤)	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>既習の人体の機能学・構造学の知識を解剖実習により統合し、人体への理解を深め科学的看護の基盤にすることをねらいとする。またご献体を通して人間の尊厳を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人体の構造を系統的(脳・神経・感覚器・骨・運動器・呼吸器・循環器・消化器・腎泌尿器・生殖器)を目視し、主要な器官・臓器について解剖学用語を用いて説明できる。 2.理解した構造を人体として統合し、フィジカルアセスメントや看護ケア上の根拠として活用できる。 3.看護の対象となる人間の尊厳と医療人としての自覚を深め、ご献体に対して謙虚な態度をとることができる。 <p>【実務経験】太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 解剖見学実習をとおして学生が人体の構造について知識習得できるよう支援。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、解剖見学事前課題にて学習を深める。</p>				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	献体について 授業のOR	1)解剖学とは 2)献体について	講義と調べ学習	
2	調べ学習	1) 調べ学習 系統別に分けて調べ学習 発表資料作成	調べ学習	
3	学生講義	1) 発表、意見交換	調べ学習、および学生講義は、見学実習に向けての課題学習として、学内にて取り組む。 科目試験あり	
4	学生講義	・循環器 ・消化器 ・呼吸器 ・感覚器 ・腎泌尿器 ・骨運動器 ・脳外科 ・血液免疫 ・代謝		
5	解剖実習についての心構え	1) 人間の尊厳と医療人としての自覚		
6	解剖実習についてオリエンテーション(1年生と合同)	1) 人間の尊厳と医療人としての自覚 2) 手引きの説明とグループ学習 3) 医の倫理の読み合わせと確認		
7	解剖見学実習	1) 循環器・呼吸器	見学実習において午後からの実習は、1年生への指導を行う	
8	解剖見学実習	2) 骨格と筋肉系 3) 脳の構造 4) 生殖器系の構造 5) 消化器系の構造 6) 腎・泌尿器系の構造		
	人体の構造のまとめ	1) 人間の尊厳と医療人としての自覚 レポート作成し提出		解剖体について理解 ご献体に対する謙虚な態度
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研		1)人体の構造Ⅲ授業(グループ発表・授業態度等) 50% 2)解剖見学実習(出欠席・レポート等) 50%		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床栄養学	看護学科/ 2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位 (20時間)	必須	北岡陸男(非常勤) 金子悦世(非常勤)

[授業の目的・ねらい]

健康の保持増進を踏まえた食生活の基本を理解するとともに、医療チームにおける看護師として必要な臨床栄養学のエビデンスから実践までの知識を身につける

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 基本であるバランスのとれた食生活について説明できる
2. 栄養素、適正栄養量など栄養学の基本について説明できる
3. 各疾患に応じた食事療法について説明できる
4. 医療チームにおける看護と臨床栄養学の関連を説明できる

【実務経験】北岡陸男、金子悦世:総合病院にて管理栄養士としての実務経験有。

管理栄養士としての実務を教材とし、学生がイメージしやすいように授業を展開する。

【準備学習】前回の授業内容を復習して授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	臨床栄養学の基礎知識	1)栄養とは・・・栄養と栄養素、栄養素の分類 2)病院の食事について	・栄養と栄養素の種類と性質 ・病院給食の概要
	〃	1)栄養とは・・・栄養素の分類	・栄養素の役割と臨床的意義 ・身近な栄養表示を知る
2	臨床栄養学の基礎知識	1)栄養アセスメント 演習: BMI、皮下脂肪厚	・栄養アセスメントの判定方法と判定基準 BMI, TSF, AMC, AMA
	食品成分と食事摂取基準	1)食品成分とエネルギー 1)食事摂取基準	・食品の成分とエネルギー消費量 ・食品の分類 ・日本人の食事摂取基準2020の活用
3	日常生活と栄養	1)食文化 2)運動と栄養 3)栄養表示について	・日本型食生活の長所と課題 ・運動時の栄養の役割
4	日常生活と栄養	1)人生各期における健康生活と栄養 (乳幼児期、学童期、青年期)	・各年代の特徴と望ましい食生活
5	〃	1)人生各期における健康生活と栄養 (成人期、妊娠・授乳期、高齢期)	・各年代の特徴と望ましい食生活
6	療養生活と栄養	1)治療による回復を促すための食事と栄養管理 2)栄養成分別のコントロール食 1)嚥下障害のある人のための食事 2)経口摂取できない患者のための栄養管理	・検査食、術後食、化学療法者食 ・成分別栄養管理 ・学会分類2013 ・経管栄養法・中心静脈栄養法
7	疾患別の食事療法	1)消化器系疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 胃潰瘍、潰瘍性大腸炎、肝硬変ほか
	〃	1)内分泌・代謝疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 糖尿病ほか
8	〃	1)循環器系疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 高血圧症ほか
	〃	1)腎疾患の食事療法	・各疾患の食事療法 CKDほか
9	食事指導の実際	1)健康増進のための食事指導 2)食習慣改善のための食事指導	・食生活指針 ・望ましい支援の方法
10	まとめ		

[使用テキスト]

・關戸恵子 編:ナーシンググラフィカ 疾病のなりたち④
「臨床栄養学」 MCメディカ出版
・「新食品成分表」東京法令出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 疾病治療学Ⅱ (内分泌・免疫・血液)	学科/学年 看護学科/2年次	年度 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	井垣俊郎/猪尾昌之/田岡輝久 (非常勤)実務経験有

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(内分泌・免疫・アレルギー・血液・造血器疾患)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

- 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。
- 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。
- 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。

【実務経験】井垣俊郎・猪尾昌之・田岡輝久:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。

内分泌疾患・免疫疾患・血液疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し教授する。

【準備学習】

前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	内分泌・代謝系疾患	1) 内分泌機能・内分泌器官 【担当:井垣】	・内分泌・代謝系疾患について具体的事例を通して学ぶ
2	〃	2) 内分泌・代謝系疾患の症状 血糖異常 肥満 やせ	
3	〃	3) 内分泌・代謝系疾患の診断・検査 血液検査 ホルモン定量 負荷試験	
4	〃	4) 内分泌・代謝系疾患 糖尿病 クッシング症候群 甲状腺がん	
5	〃	5) 内分泌・代謝系疾患の治療	
6	免疫・アレルギー系疾患	1) 免疫・アレルギー系の病態生理 【担当:猪尾】	★理解度確認テスト ・免疫・アレルギー疾患について具体的事例を通して学ぶ
7	〃	喘息 アレルギー 免疫	
8	〃	2) 免疫・アレルギー系疾患の症状 痛み 発熱 皮疹 臓器症状	
9	〃	3) 免疫・アレルギー系疾患の診断・検査	
10	〃	4) 免疫・アレルギー系疾患 自己免疫疾患(SLE 関節リウマチ) 膠原病	
11	血液・造血器疾患	1) 血液・造血器の病態生理 【担当:田岡】	・血液・造血器疾患について具体的事例を通して学ぶ
12	〃	2) 血液・造血器疾患の症状	
13	〃	3) 血液・造血器疾患の診断・検査	
14	〃	4) 血液・造血器疾患 急性白血病 悪性貧血 悪性リンパ腫	
15	〃	5) 血液・造血器疾患の治療 手術療法 骨髄移植 幹細胞移植	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

- ・明石 恵子編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護②栄養代謝機能障害 メディカ出版
 - ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護③造血器障害/免疫機能障害 メディカ出版
 - ・矢野久子他 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版
 - ・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版
- [参考図書]**
- ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 授業時間数を鑑み、総合的に評価する。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
疾病治療学Ⅲ (脳神経・運動器・精神)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	岡部昭延 松下誠司 藤野宜久 (非常勤)実務経験有

[授業の目的・ねらい]
科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(脳神経・運動器・精神)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

- 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。
- 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。
- 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。

【実務経験】岡部昭延 松下誠司:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。

藤野宜久:精神病院に長年勤務しており、精神看護に精通している。

脳疾患・運動器疾患・精神疾患に基礎的知識習得ができるよう、事例等を用い授業を行う。

【準備学習】前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	脳神経疾患	1)保存的治療の適応 【担当:岡部】 ・脳脊髄循環障害	※過去の国家試験 ・脳血管系の循環障害
2	〃	・脳脊髄の感染症	・頭蓋内圧亢進症状に伴う疾患
3	〃	・脳・脊髄の変性疾患 ・脳・脊髄の機能的疾患	・神経変性、脱髄性の疾患 ・認知症
4	〃	2)外科的治療の適応 ・脳脊髄循環障害	・頭部の外傷
5	〃	・脳脊髄の感染性疾患	・二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患
6	〃	・脳の機能外科 ・脳・脊髄の腫瘍性疾患	★理解度確認テスト ・脳神経疾患の地域医療ネットワーク
7	運動器疾患	1)治療法の種類 【担当:松下】 保存的治療	※過去の国家試験 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患
8	〃	・薬物療法 ・牽引方法	
9	〃	・注射療法 ・装具・義肢	
10	〃	手術療法 ・腱 ・末梢神経の手術 ・脊椎・脊髄の手術	運動機能障害による残存機能と リハビリテーション
11	〃	2)主な運動器疾患 ・外傷・骨折・打撲・関節外傷 ・脊椎の疾患	活動や行動が制限されることにより発生する疾患
12	〃	・神経の外傷、筋・腱含む ・腫瘍 ・先天性疾患、代謝性骨疾患 ・リウマチ性疾患、四肢の疾患	★理解度確認テスト
13	精神疾患	1)精神症状と精神疾患 【担当:藤野】 ・精神疾患総論 ・精神作用物質による精神障害	精神症状の理解
14	〃	・統合失調症 ・気分障害 ・神経症性障害 ・心的外傷後ストレス障害(PTSD) ・人格障害 認知障害	主な精神疾患の病因・症状・診断・治療
15	〃	2)医学的検査と心理検査 3)精神科における治療の構造 4)嗜癖と依存	
	試験		

[使用テキスト]

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

・田村 綾子 編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護④ 疾病と治療 メディカ出版
メディカ出版

1)授業時間数を鑑み、総合的に評価する。

・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ
健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版

・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ
成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版

・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ
人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版

・出口 禎子 編:ナーシンググラフィカ 精神看護学
①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と
看護の基本

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
疾病治療学Ⅳ (小児・腎・泌尿器・放射線)	看護学科 / 2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	磯部健一 小橋嵩平 林田有史 山村憲一郎 (非常勤)実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(小児・腎泌尿器・放射線)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。</p> <p>[実務経験]磯部健一、小橋嵩平、林田有史:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 山村憲一郎:大学病院等において豊富な経験を有し、教育に精通する。 小児疾患、腎泌尿器、放射線治療について基礎的知識習得ができるよう、事例等を用い授業を行う。</p> <p>[準備学習] 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	先天異常と新生児	1)遺伝子・染色体の異常と形態異常 2)新生児の疾患 【担当:磯部】	* 主な疾患に関連させて皮膚・感覚器の疾患も学ぶ
2	消化器疾患	1)食道・胃・腸の疾患 2)胆道・肝・消化器関連疾患	・呼吸窮迫症候群 ・超低出生体重児(未熟児網膜症)
3	呼吸器疾患 循環器疾患	1)気道の疾患2)肺の疾患 1)小児の循環器疾患の特徴 2)先天性心疾患	・先天性食道閉鎖症・肥厚性幽門狭窄症 ・ヒルシュスプルング病
4	血液・腫瘍疾患 アレルギー・内分泌・	1)血液疾患 2)小児がん 1)アレルギー性疾患	・胆道閉鎖症・マイコプラズマ肺炎 ・ファロー四徴症・白血病
5	代謝疾患 神経・筋・腎尿路疾患	2)内分泌・代謝疾患 1)痙攣、意識障害を主症状とする発作性疾患	・神経芽細胞腫 ・川崎病(目・皮膚の症状と後遺症)
6	骨・関節疾患	2)外科的治療の対象になる小児神経疾患 3)腎疾患	・てんかん ・二分脊椎
7	骨・関節疾患、感染症	1)骨・関節疾患 2)細菌感染症・ウイルス感染症	・ネフローゼ症候群
8	精神領域の疾患	3)小児の精神疾患	・ベルテス病・自閉症など
9	腎・泌尿器疾患	1)腎疾患 【担当:小橋】 ・腎の先天性奇形	排泄機能障害
10	〃	・腎盂・尿管の先天性奇形、性分化異常	・腎・尿路の炎症
11	〃	・急性・慢性腎不全 ・代謝性疾患に伴う腎障害 ・腫瘍性疾患	・腎・尿路の腫瘍 ・腎・尿路の通過障害
12	〃	2)泌尿器疾患 【担当:林田】 ・膀胱の疾患 ・尿道の疾患	・体液の調節障害
13	〃	・陰茎・陰囊の疾患 ・精巣・精巣上体・精索の疾患	★理解度確認テスト
14	放射線診療	1)放射線の医学利用 【担当:山村】 ・放射線治療とは:主な疾患の放射線治療	・放射線の医学利用 ・主な疾患の放射線治療
15	〃	・放射線治療の効果と副作用 2)がんと放射線診療 ・放射線検査:MRI検査、核医学、血管造影 ・放射線化学療法	・MRI検査、核医学、血管造影 ★理解度確認テスト
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版 ・中村綾美 編:ナーシンググラフィカ 小児看護学③ ①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と 小児の疾患と看護 メディカ出版 [参考図書] ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版		1) 授業時間数を鑑み、総合的に評価する。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
疾病治療学Ⅴ (生殖器・周産期)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	川田 清彌(非常勤)実務経験有

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (到 達 目 標)]

1. 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過と異常の病理・要因について説明できる。
2. 正常経過、異常経過の診断法、検査、治療法を看護実践との関連で説明できる。
3. 女性生殖器疾患のメカニズム、病態、治療を説明できる。

【実務経験】川田清彌:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。

周産期・婦人科疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例等を用いて授業を行う。

【準備学習】

前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	婦人科	1. 生殖に関する生理 1) 生殖器の構造 2) 第二性徴 3) 性周期 4) 妊娠のメカニズム 2. リプロダクティブヘルス/ライツ 1) リプロダクティブヘルス/ライツ 2) セクシュアリティとジェンダー 3) ヒトの発生・性分化のメカニズム 4) 性分化疾患	リプロダクティブヘルス セクシュアリティ ジェンダー 性同一性、性的指向
2		3. 加齢とホルモンの変化 1) 更年期女性の特徴 2) 更年期女性の健康問題 3) 老年期女性の特徴 4) 老年期女性の健康問題	
3		4. 良性疾患と悪性疾患 1) 月経に関連する疾患 2) 性器の炎症・性感染症	
4		3) 子宮の疾患 4) 卵巣・卵管の疾患 5) 性分化疾患	
5	産科	1. 1) 妊娠の定義と妊婦の生理 2) 妊娠のメカニズム 3) 胎児の発育 4) 妊娠時の母体の変化 2. 1) ハイリスク妊娠の定義 2) ハイリスク妊婦の管理に必要な検査 3) 妊婦と胎児に見られる異常	<キーワード>・流産・早産・妊娠貧血・妊娠糖尿病・前置胎盤・常位置胎盤早期剥離・妊娠高血圧症候群・胎盤機能不全
6		3. 1) 分娩の定義と生理 2) 娩出力、産道、胎児、胎児付属物の異常	
7		4. 1) 産道・娩出力・娩出力・臍帯の異常 2) 分娩時裂傷 3) 児頭骨盤不均衡(CPD) 4) 胎児機能不全 5) 異常出血 6) 産科処置・手術	<キーワード>遷延分娩・骨盤位分娩・胎児付属物異常・産科手術・胎児仮死
8		5. 1) 産褥の定義と生理 6. 1) 産褥期の出血 2) 産褥感染症 3) 子宮復古不全 4) 産褥精神障害	<キーワード>子宮復古不全・外陰・膣内の血腫・産褥熱・尿路感染・乳腺炎・産褥血栓性静脈炎・産褥精神障害

[使用テキスト]

・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑥
内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害メディカ出版
・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ
人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版
・中込さと子編:ナーシング・グラフィカ 母性看護学①概
論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

① 授業時間数を鑑み、総合的に評価する。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
リハビリテーション論	看護学科/2年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	廣永 大祐(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>リハビリテーションの概念を理解し、対象が社会の一員として生き生きと生活するための関係職種や看護の役割を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1. リハビリテーションを展開していく基本的枠組みを述べることができる。</p> <p>2. 障害を抱える人に共通する特徴的な課題とそれに対する援助方法を述べることができる。</p> <p>3. 代表的な疾患について発症から維持期に至るまでの経過全体をとらえつつ、各段階におけるリハビリテーションのポイントについて述べるができる。</p> <p>【実務経験】廣永大祐:作業療法士として5年以上の実務経験。 臨床での経験を交えながら、学生が基本的な知識習得を図れるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	リハビリテーション 概論	1)リハビリテーションの定義と理念 2)障害者の実態と障害分類	
2	"	1)リハビリテーションにかかわる職種 2)リハビリテーションのチーム医療 3)障害に対する態度	
3	"	1)セルフケアへの援助 2)コミュニケーションと家族援助	
4	運動器の障害と リハビリテーション	1)総論 2)骨折 3)関節リウマチ	MMT 関節可動域訓練
5	演習	1)関節可動域のはかりかた 2)可動域訓練と等尺性運動	演習(MMT、関節可動域、等尺性運動)
6	中枢神経系の障害と リハビリテーション	1)脳血管障害 2)パーキンソン症候群 3)脊髄損傷	自助具の活用
7	呼吸・循環器系 の障害と リハビリテーション	1)慢性閉塞性肺疾患	体位ドレナージ 呼吸理学療法
8	"	1)虚血性心疾患	身体活動能力指数(SAS)
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・奥宮暁子:成人看護学⑥.リハビリテーション看護.メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	浅川 富美雪(非常勤)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>公衆衛生活動は、個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチとともに、社会・経済の変化や、地域社会の文化風俗・習慣とも密接に関連した、人々の行動や生活習慣に着目するという社会科学的面からのアプローチを必要とし、政策、計画、運動、管理、研究、評価、予測、協力、調整といった具体的活動につながっている。</p> <p>生活者の健康の保持・増進、及び健康で活力ある社会の実現を図るために、自然科学と社会科学の両面から立体的にアプローチする公衆衛生学的方法を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.健康社会実現にむけた総合的な保健医療福祉および環境のあり方について理解できる。</p> <p>2.生活者の様々な健康問題を公衆衛生学的な視点で考えることができる。</p> <p>【実務経験】浅川富美雪:大学にて本科目に関する研究活動、教授活動を行っている。 事例等を活用しながら学生の理解を促進できるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	公衆衛生の概念 健康と環境	1.公衆衛生の概念と歴史 2.健康とは 1.集団の特性と集団を扱う医学	公衆衛生の定義, 国の社会的責務 予防の概念, PHC, ヘルスプロモーション 集団検診, 記述疫学, 分析疫学, 臨床疫学
2	健康の指標	1.保健統計・健康指標	人口静・動態統計, 死亡率・年齢調整死亡率 出生率・合計特殊出生率, 平均寿命
3	感染症	1.感染症とその予防	感染症の成立要因, 感染症法・医師の届出 検疫法, 予防接種法
4	地域保健活動 危機管理	1.地域保健活動 2.医療サービスの供給体制 1.危機管理・災害医療	ヘルスサービスのシステム・保健所・保健センター 医療法・医療施設・保健医療計画, 医療費 医療安全支援センター, 災害医療センター
5	母子保健 学校保健	1.統計からみた我が国の母子保健 2.健やか親子21・子育てと家族 1.学校保健制度	母子保健法, 母子保健サービス 母子保健の新たな課題, 児童福祉法 リプロダクティブ・ヘルス/ライツとジェンダー 学校保健安全法, 学校保健活動
6	生活習慣病	1.生活習慣病の概念と予防 2.健康づくり施策 3.老人保健福祉	一次予防の推進, がんの動向と対策 健康日本21と健康増進法 高齢者医療確保法, 介護保険法
7	産業保健	1.健康に影響を与える労働環境 2.労働衛生管理(3管理)	労働基準法, 労働災害, 職業病, 母性保護 労働安全衛生法による健康診断・THP
8・9	環境保健 食品保健と栄養	1.生活環境の保全・典型7公害 2.廃棄物の処理 1.食品の安全・食品衛生管理・国民の栄養	環境基本法, 環境基準, 地球環境問題 循環型社会と3R, 感染性廃棄物 食品安全基本法, 食品衛生法, 食中毒
10	難病対策 精神保健福祉 これからの公衆衛生	1.難病対策要綱 2.入院医療中心から地域生活中心へ 1.社会の変貌と公衆衛生 2.社会経済の発展と公衆衛生 3.国際化社会における公衆衛生	難病法, 難病患者地域支援対策推進事業 精神保健福祉法, ノーマライゼーション
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・わかりやすい公衆衛生学. ヌーヴェルヒロカワ ・国民衛生の動向		1)科目終了時最終試験評価:80% 2)日常学習点:20%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
社会福祉・社会保障論	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	北川裕美子(非常勤) 実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 憲法25条を中心とした社会福祉・社会保障の理念・法制度・体系等を学習し、社会福祉・社会保障の概要を把握する。社会福祉援助技術の視点・方法を理解し、生活支援のあり方を理解する。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.社会福祉・社会保障制度の歴史的展開、各制度の概要が理解できるようになる。 2.社会福祉・社会保障を必要とする社会福祉援助技術のあり方、社会資源を活用した援助方法が理解できる。</p> <p>[実務経験]北川裕美子:大学にて本科目に関する研究活動、教授活動を行っている。 事例等を活用しながら学生の理解を促進できるよう授業を行う。</p> <p>[準備学習] 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生活と福祉	1)なぜ福祉を学ぶのか 2)生活基盤ライフスタイル 3)人間の集団としての働き	・社会福祉の特質 ・保健・医療・福祉の連携の必要性
2	〃	演習	・コミュニケーションのとり方・記録のとり方
3	社会保障の概念・歴史・制度体制	1)社会保障概念の形成 2)日本の社会保障の歴史的発展 3)社会保障の定義と範囲・分類 4)社会保障の目的	・価値観の多様性を理解する・社会保障の歴史的展開・社会保障の目的と種類 ・ライフサイクルと社会保障との関係
4	〃	5)社会保障の方法と財政 演習	・事例問題(児童・母子及び寡婦・生活
5	わが国の社会保険制度	1)社会保険の役割と制度の分類 2)医療保険制度	・社会保険制度の意義と種類 ・社会保険各制度の目的
6	〃	3)老人保健制度と公費負担医療制度 4)保健医療制度・医療提供体制 5)国民医療費と医療制度改革の課題 6)介護保険制度・年金保険制度 7)労働保険制度	・給付内容等の概要理解
7	〃	演習	・事例問題(障害者・高齢者)
8	社会福祉の歴史と	1)慈善事業から福祉国家まで	・社会福祉の歴史
9	援助技術	2)わが国の社会福祉の歴史 3)社会福祉援助技術	・社会福祉援助技術(直接援助技術, 間接援助技術, 関連援助技術)
10	〃	演習	
11	社会福祉の諸制度と施策	1)生活保護と施策 2)児童福祉と施策 3)身体障害児の福祉施策	・生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神障害者福祉法・老人福祉法・児童虐待防止法・高齢者虐待防止法・配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)
12	〃	4)障害者の福祉施策・知的障害者(児)の福祉施策 5)高齢者の福祉施策	
13	社会福祉行政のしくみ	1)社会福祉法 2)社会福祉及び介護福祉士法	・社会福祉実施体制・福祉専門職
14	社会保障・社会福祉改革の動向	1)少子高齢社会 2)社会福祉基礎構造改革	・地域福祉 ・少子高齢化と社会保障改革
15	まとめ		・福祉改革と社会福祉基礎構造改革
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・島田美喜編:ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障 メディカ出版		1)最終試験評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
基礎看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	榊原 智子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] ヘルスアセスメントの目的・意義を理解し、患者の健康状態を身体的・心理的・社会的側面から統合的にアセスメントをするための知識と基本的技術と身体的アセスメント(フィジカルアセスメント)をについて学び、フィジカルアセスメント技術の修得を図る。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1. 身体的情報を得るための基本的技術を用い、フィジカルアセスメントが実施できる。 2. 対象者の身体情報をもとに、健康レベルや正常・異常の判断ができる。</p> <p>【実務経験】榊原 智子:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での経験を教材化し、学生が基本的な知識・技術の習得を図れるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	身体的側面のアセスメント	身体的側面のアセスメント:アセスメントに臨む姿勢、フィジカルアセスメントの必要物品/問診・視診、触診・打診・聴診/バイタルサインの測定	フィジカルアセスメントに必要な物品の名称対象の応じた方法を考える
2	問診・視診・触診・打診・聴診の実践	問診・視診、触診・打診・聴診の実践【演習】 バイタルサインの測定【演習】	得られた情報から対象者の状態を判断できる
3	系統別のアセスメント	系統別のアセスメント①神経系のアセスメントの実践	神経系の名称、構造および機能 日常生活への影響
4	〃	系統別のアセスメント②心臓・血管系のアセスメントの実践	心タンポナーデ 浮腫 動脈硬化
5	〃		
6	〃	系統別のアセスメント④筋・骨格のアセスメントの実践	筋・骨格系の解剖生理 関節の可動域
7	〃		
8	〃	系統別のアセスメント③肺(呼吸器系)のアセスメントの実践	呼吸器系の構造と機能 気管支の分岐角 身体構造についての理解 身体の構造と機能との緻密な関係性 身体の状態を把握する能力
9	〃		
10	まとめ		
		上記授業終了後単位認定試験	
[使用テキスト] デジタルナーシング・グラフィカ2022, 3巻・病態生理学, 19巻・基礎看護技術 I, 株式会社メディカ出版		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 最終試験評価:100% 授業参加状況・学習態度を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
臨床援助技術論Ⅱ (検査・治療)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	山下 美紀(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 検査・治療を受ける対象のニーズに応じた看護援助技術の基本の理解を目的とする。演習を取り入れ対象の安全・安楽を考慮した各看護技術の習得をねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1. 検査の内容を理解し、検査を受ける対象に応じた援助方法を専門用語を用いて説明できる。 2. 治療・処置を受ける対象に応じた援助方法を専門用語を用いて説明できる。</p> <p>[実務経験] 山下美紀: 看護師として5年以上の実務経験。 臨床での経験を教材化し、学生が基本的な知識・技術の習得を図れるよう授業を行う。</p> <p>[準備学習] 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	検査に伴う看護技術	1) 検査の種類と検査に伴う看護	・検査場面における看護師の役割と介助のポイントがわかる ・各検査の目的・留意点
2		2) 検体検査 ・血液検査	
3		・尿、便、喀痰検査	
4		3) 生体検査 ・X線検査	
5		・CT検査、MRI検査 4) 生体モニタリング	
6	治療・処置に伴う看護技術	1) 酸素療法	・酸素療法の目的、種類、方法・注意事項 ・吸引の目的、方法・留意点
7		2) 吸引 演習1 酸素療法	
8		演習2 口腔・鼻腔内吸引	
9		3) 創傷の観察	・皮膚の構造機能、創傷の治癒過程 ・包帯法の目的、種類、方法・注意事項
10		4) 褥瘡の観察、褥瘡の予防 5) 包帯法・電法	
11		演習3 包帯法・三角巾/ 創傷処置(無菌操作)	・無菌操作にて創部の処置
12		演習4 冷電法・温電法	・電法の目的、種類、方法・注意事項
13		6) 一次的導尿・持続的導尿	・一次的導尿・持続的導尿の目的、方法・留意事項
14		演習5 一時的導尿・持続的導尿	
15		演習6 一時的導尿・持続的導尿 上記授業終了後単位認定試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・志自岐康子他 編: ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 基礎看護技術 メディカ出版 ・竹尾恵子: 看護技術プラクティス 改訂3版、学研		1) 最終試験評価: 100% 2) 授業参加状況(遅刻・早退を含む)加味する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
臨床援助技術論Ⅳ (看護過程)	看護学科/2年次	令和7年度	講義 演習 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	吉田 展子(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

本授業では看護過程の役割・意義および5つの構成要素について学び、看護の視点を明確にしていく。また、アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用い、紙上事例を展開することで看護過程の基本的な考え方を学ぶ。看護は実践の科学であり、アートである。エビデンスに基づいた思考過程と看護介入について考えられるよう、臨床援助技術論Ⅴで紙上事例を用いて看護過程を展開し学ぶ。
紙上事例演習を行うことで、思考の視点や思考の順序性および法則性を学ぶことができることをねらいとする。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また、看護過程を用いることの意義を説明できる。
2. 看護過程の各段階について基本的な考え方を説明できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程展開の実際を学ぶことができる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験。

学生が既習の知識を想起または調べ学習し、思考の技術の習得が図れるよう授業を行う。

【準備学習】

前回の授業の復習、次回の授業までの課題に取り組み授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護過程とは	1)看護過程の構成要素	・看護過程の5要素
2		2)構成要素の関係性	
		3)看護過程を用いることの利点	
3	看護過程展開の	1)看護過程と問題解決型思考(POS)	・問題解決型思考とは
4	基盤となる考え方	2)看護過程とクリティカルシンキング	
5		3)看護の視点と看護アセスメント	
6	ゴードンの機能的健康 パターンに基づく 看護過程	1)アセスメント過程①:情報の整理・解釈・総合	・健康的機能パターンによる情報収集 ・アセスメント過程 ・因果思考(原因結果) ・問題の検証 ・看護診断と看護問題、看護診断の種類 ・看護診断の記述(PRS方式)、問題の優先順位 ・RUMBAの法則、目標と診断指標の関係 ・計画と関連因子・危険因子の関係、O・T・Eプラン ・5W1H、安全・安楽・自立の視点 ・看護計画の実施、評価、修正の要点 ・看護記録の目的と意義、構成要素がわかる
7			
8		2)アセスメント過程②:関連図をもちいた問題の統合	
9		3)アセスメント過程③:情報の分析・統合・照合	
10		4)問題の明確化(看護診断と看護問題)	
11			
12		5)看護計画(看護目標(成果)・計画立案)	
13	6)計画の実施・評価・修正		
14	看護記録	1)看護記録	
15	まとめ	学習内容の確認	
	試験	上記終了後に科目終了試験	

[使用テキスト]

- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版
- ・松尾ミヨ子他:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学② ヘルスアセスメント, メディカ出版
- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③ 基礎看護技術, メディカ出版
- ・日本看護診断学会監修訳:NANDA-I 看護診断 定義と分類, 医学書院
- ・江川隆子:ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断[第4版]ヌーヴェルヒロカワ

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)1～5の内容について講義終了後に試験(筆記試験):40%
 - 2)6以降の内容について講義終了後に試験(筆記試験):60%
- *本科目に合格した学生は、成人・老年看護学Ⅰ実習に参加できる
- *主体的に授業・演習に参加して下さい

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
臨床援助技術論Ⅴ (看護過程の実際)	看護学科/2年次	令和7年度	講義 演習 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	吉田 展子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

本授業では臨床援助技術論Ⅳで学んだ、看護過程の役割・意義および5つの構成要素についてを理解したうえで、看護の視点でアセスメントし、看護問題の抽出までの思考過程を追う。アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用い、紙上事例を展開することで看護過程の基本的な考え方を学ぶ。

紙上事例演習を行うことで、思考の視点や思考の順序性および法則性を学ぶことができることをねらいとする。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また、看護過程を用いることの意義を説明できる。
2. 看護過程の各段階について基本的な考え方を説明できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程展開の実際を学ぶことができる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験。

学生が既習の知識を想起または調べ学習し、思考の技術の習得が図れるよう授業を行う。

【準備学習】

前回の授業の復習、次回の授業までの課題に取り組み授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント		
1	紙上事例を用いた 看護過程の実際	演習:個人ワークならびにグループワークにて 紙上事例を用いて看護過程を展開する	・紙上事例を用いてグループで討議することで 看護過程の実際を学ぶ		
5					
6				グループ発表 グループ発表および意見交換	紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・ 看護計画立案について学びを共有すると ともに疑問を解決する
7					
8				まとめ	学習内容の確認
	試験	上記終了後に科目終了試験			

[使用テキスト]

- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版
- ・松尾ミヨ子他:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学② ヘルスアセスメント, メディカ出版
- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③ 基礎看護技術, メディカ出版
- ・日本看護診断学会監修訳:NANDA-I 看護診断 定義と
分類、医学書院
- ・江川隆子:ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断[第4版]ヌーヴェルヒロカワ

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 内容1)～5)については科目終了時の最終試験の評価:100%
- 2) 課題レポートの提出、出席状況を考慮する

*主体的に授業・演習に参加して下さい

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 看護演習Ⅱ (基礎Ⅱ:技術・リフレクション)	学 科 / 学 年 看護学科/2年次	年 度 / 時 期 令和7年度	授 業 形 態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	平田 美由紀(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]
 リフレクション(Reflection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。
 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考え深める内容とする。

- [授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]
1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。
 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。
 3. 自己の看護観を言語化できる。

【実務経験】平田美由紀:看護師として5年以上の実務経験
 学生の臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する

【準備学習】
 リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的について再学習する。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	基礎看護学領域技術演習オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	
2	基礎看護学領域技術演習オリエンテーション	2) 模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出 ・食事・排泄・清潔・移動	・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する
3	基礎看護学領域技術演習	3) 援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	
4	基礎看護学領域技術演習	4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画	
5	授業ガイダンス	本科目のねらい、学習方法の説明	
6		1) 深めたい内容の明確化	・日常生活援助を通して自己の学びを振り返る
7	基礎看護学実習Ⅱ 振り返り演習	2) 演習 グループワーク・個人ワーク	
8	基礎看護学実習Ⅱ 振り返り演習	3) 基礎看護学実習Ⅱ振り返り発表会 「日常生活援助について」	
		〃	

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
・志自岐康子他 編:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 基礎看護技術 メディカ出版 ・藤野彰子:看護技術ベーシックス.医学芸術社 ・松尾ミヨ子他 編:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント メディカ出版	1) 基礎看護学Ⅱ実習前技術テスト評価50%、技術テストに合格した者が実習に参加できる 2) 基礎看護学Ⅱ実習の振り返り発表会における取組、発表の評価50% 3) 技術テストと基礎看護学Ⅱ実習リフレクション評価との合算にて100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
地域・在宅看護方法論Ⅰ (家族援助)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位(30時間)	必須	佐藤 洋子 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

在宅療養者のみでなく療養者と家族を1つの単位として捉えることの意義、家族の捉え方、家族看護に関する理論を学ぶ。在宅療養者・家族が自らの健康を主体的に解決していくために必要とされる家族看護の基本的な考え方と援助方法を理解し、療養者のみでなく家族をアセスメントできる視点を学ぶ。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 家族看護の概念及び、家族看護における看護者の役割を説明できる。
2. 家族看護に活用できる諸理論について説明できる。
3. 地域における家族看護上の留意点が説明できる。

【実務経験】佐藤洋子:保健師として5年以上の実務経験。

臨床での経験を交えながら、学生が基本的な知識習得を図れるよう授業を行う。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	家族看護の概念	1. 家族の理解 2. 地域看護の対象としての家族 3. 家族の機能①と②	・家族の定義・機能 ・現在のわが国の家族の特徴 ・必修クマ看護師国家試験
2	QOL	1. ユーチューバー「にゅーいん」	・QOL ・家族関係
3	暮らしの場	1. 暮らしの場で看護をするための心構え 2. セルフケアを支える対話・コミュニケーション	・ラポールの形成 ・本人・家族の力量と主体を引き出す
4	家族支援	1. 家族のアセスメントのポイント 2. 家族の支援	・家族のセルフケア機能について ・自立への過程と援助方法
5	家族看護のための 諸理論	1. 家族発達理論 2. 家族システム理論	・家族のライフサイクルと家族発達理論 ・エコマップとジェノグラム
10	〃	3. 家族ストレス対処理論	・ジェットコースターモデル、ABCXモデル 二重ABCXモデル
11	家族看護の実際と 看護職の役割	事例を用いて家族支援のあり方を考える	・個々の家庭に応じた技術の創造 ・評価の視点、方法、時期の理解
13			
14	家族介護者の健康	1. 介護負担 2. 家族介護者への支援	・様々な介護負担の要因 ・社会資源の活用とレスパイトケア
15	まとめ	上記学習内容の確認等	
	試験	上記終了科目終了試験	

[使用テキスト]

- ・櫻井尚子他: ナーシング・グラフィカ
在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版
- [参考図書]
- ・鈴木和子他編: 家族看護学—理論と実践、日本看護協会出版会
- ・木下由美子: Essentials 在宅看護学、医歯薬出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価: 100%
- 2) 授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
成人看護方法論Ⅰ (呼吸・循環)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1 単 位 (30 時 間)	必 須	朝比奈まこと(非常勤) 中西文香(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]
成人期にある対象の身体で起きている現象を理解し、呼吸機能障害、循環機能障害の患者の看護援助の基本理解を目的とする。特に急性期の看護援助の考え方や方法、成人とその家族のQOLを高める看護のあり方を学ぶ。

- [科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]
- 1.呼吸機能障害、循環機能障害がある対象とその家族を総合的に理解し説明できる。
 - 2.呼吸機能障害、循環機能障害がある対象の特性と問題、援助方法を説明できる。
 - 3.保健医療福祉の総合的な視点で健康レベルに応じた援助方法を説明できる。

【実務経験】朝比奈まこと:看護師として5年以上の実務経験。
中西文香:豊富な臨床経験でのエピソードを活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】
授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	循環器系に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 【担当:朝比奈】 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・生体維持機能障害
2	〃	2)主要症状に対する看護	・救命救急虚血性心疾患 ・胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難 ・チアノーゼ・失神
3	〃	3)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療、処置の目的と方法及び看護	・心電図・心臓カテーテル検査
4	〃	4)疾患をもつ患者の看護	・虚血性心疾患・心不全
5	〃	①急性期の患者の看護	・ペースメーカー・動脈瘤・ 周手術期
6	〃	②回復期の患者の看護	
7	〃	③慢性期・終末期の患者の看護	・リハビリテーション ・社会資源の活用
7	呼吸機能に障害のある患者の看護	1)解剖の復習 呼吸器症状と看護 【担当:中西】	・呼吸器症状と看護
8	〃	2)呼吸器科で行われる検査と看護	・検査と介助
9	〃	3)呼吸不全患者の病態と看護	・呼吸不全 ・肺水腫
10	〃	4)酸素化障害患者の病態と看護	・無気肺 ・COPD
11	〃	5)換気障害患者の病態と看護	・肺血栓塞栓症 ・肺炎
12	〃	6)肺循環障害患者の病態と看護	・結核 ・肺癌
13	〃	7)呼吸器感染症患者の病態と看護	・気管支喘息
14	〃	8)肺がん患者の病態と看護	
15	〃	9)気管支喘息患者の病態と看護	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使 用 テ キ ス ト]

- ・讃井 将満他 編:ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護
- ①呼吸器 メディカ出版
- ・野原 隆司他 編:ナーシング・グラフィカEX 疾患と看護
- ②循環器 メディカ出版

[単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準] (試 験 等 の 評 価 方 法)

- 1)最終試験評価:100%
- 授業態度、提出物、出欠席を含む

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
成人看護方法論Ⅱ (アレルギー・血液)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	橋本 照美(非常勤) 実務経験有

[授業の目的・ねらい]

近年医療の発展や薬物の開発により疾患を持つ人々とその家族を対象とした健康支援は病院内だけではなく外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患を持つ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高める看護のあり方について学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. 対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
2. 疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論を説明することができる。
3. 対象とその家族が病気や障害と共に生きていくために効果的な援助方法を説明できる。

【実務経験】橋本照美:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験、看護学校での教授活動経験をいかして、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	アレルギー、膠原病、感染症のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴	
	"	2)主要症状に対する看護	
2	"	3)疾患を持つ患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なアレルギー症状 ・悪化予防への指導 ・日常生活の指導 ・ストレスや生活環境因子 ★理解度確認小テスト
3	"	①急性期の患者の看護	
	"	②回復期の患者の看護	
4	"	③慢性期の患者の看護	
	"	④終末期の患者の看護	
5	血液・造血器系に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・易感染状態・・・感染の予防と早期対処
6	"	2)主要症状に対する看護	
7	"	3)疾患を持つ患者の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ボデーイメージの変化 ・全身の苦痛の緩和 ・患者と家族に対する心理的支援 ・輸血療法 ・化学療法時の看護・・・苦痛や副作用の予防 ★理解度確認小テスト
8	"	①急性期の患者の看護	
	"	②回復期の患者の看護	
9	"	③慢性期の患者の看護	
10	"	④終末期の患者の看護	
試験		上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・吉田澄恵他 編:ナーシング・グラフィカ 成人看護学②
健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版
・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ
成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版
・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ
成人看護学⑧ 緩和ケア メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価(記述試験):100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
成人看護方法論Ⅲ (脳・代謝)	看護学科/2年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1 単 位 (30 時 間)	必須	橋本 照美 他(非常勤) 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>在宅医療の推進によって、疾患をもつ人々とその家族を対象とした健康支援は外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患をもつ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高める継続看護のあり方を学ぶ。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。 2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。 3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。</p> <p>[実務経験]橋本照美:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験、看護学校での教授活動経験をいかして、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。</p> <p>[準備学習] 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
1 2 3 4 5 6	脳神経に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 【担当:橋本】 身体的・心理的・社会的特徴 2)主要症状に対する看護 3)疾患をもつ患者の看護 ①急性期の患者の看護 ②回復期の患者の看護 ③慢性期・終末期の患者の看護 4)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療、処置の目的と方法及び看護	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命 ・意識障害、運動麻痺 ・ボデーイメージの変化 ・排泄障害 ・高次機能障害 ・リハビリテーション、社会復帰 ・機能障害と社会への適応困難 ・継続看護、社会資源の活用 ・薬物療法、輸液療法
7 8 9 10 11	内分泌系に障害のある患者の看護	1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴 2)主要症状に対する看護 3)疾患をもつ患者の看護 4)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療・処置の目的と方法及び看護	内分泌機能の観察とアセスメント ・身体、精神、血液所見、ホルモン定量 代謝率の正常性 ・日常生活への影響 甲状腺切除時の生活指導 脳下垂体切除術時の生活指導 ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導
12 13	健康の危機的状態にある患者の看護 (外部講師)	【認定看護師:12～15回】 1)救急看護認定看護師による講義 ①生命の危機的状態に状態にある患者と家族への援助	救急看護認定看護師の役割・活動 生命の危機的状態と看護 救急・急性期看護、家族支援
14 15	糖尿病に罹患している患者の看護 (外部講師)	1)糖尿病認定看護師による講義 ①糖尿病に罹患している患者と家族への援助	糖尿病認定看護師の役割・活動 糖尿病患者の理解 健康管理、生活管理 家族への支援
試験		上記終了後 期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・田村 綾子 編:ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護④ 疾病と治療 メディカ出版 ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版 ・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 [参考図書] ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版		1) 最終試験評価:100% 2) 外部講師の講義については、課題レポートの提出	

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
成人看護方法論Ⅳ <small>(消化器・生殖・胃がんOP看護過程)</small>	看護学科/2年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1 単 位 (30 時 間)	必須	吉田展子 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>患者の身体に生じている現象、消化機能障害、生殖器機能障害を理解し、療養生活上の世話と終末期のQOLを高める援助方法を学ぶ。手術に伴う基本的な生活の変化と看護について、消化器(胃がん)の手術をうける患者の事例を用いて看護過程を展開する。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。 疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。 対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。 周手術期の看護を説明できる。 生命危機状態の患者の観察と看護を説明できる。 <p>【実務経験】吉田展子:看護師5年以上の実務経験。 臨床での看護事例を用いて、わかりやすい授業を工夫する。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
1	消化器疾患を学ぶための基礎知識	1.消化器の構造と機能 【1～8回:森】 2.消化器の異常でみられる症候と看護 3.消化器の検査と看護 4.消化器疾患の主な治療・処置と看護	消化機能の構造と機能の知識の確認 消化器疾患に伴う症状の観察点と看護 生検 ・ 造影検査 ・ 内視鏡検査 開腹術 ・ ドレナージ ・ 食事療法
2	"		
3	消化機能に障害のある患者の看護	5.口腔・歯科・頭頸部の疾患のある患者の看護 6.食道の疾患のある患者の看護のある患者の看護	舌癌・咽頭癌・喉頭癌の患者の看護 食道癌・食道静脈瘤・の患者の看護
4	"	7.胃・十二指腸疾患のある患者の看護	胃・十二指腸潰瘍・胃癌の患者の看護
5	"	8.小腸・大腸・肛門疾患のある患者の看護	潰瘍性大腸炎・大腸癌・腸管機能障害
6	"	9.肝臓の疾患のある患者の看護 10.胆道系の疾患のある患者の看護	肝炎・肝硬変・肝臓癌の患者の看護 胆石症・胆嚢癌の患者の看護
7	"	11.膵臓の疾患のある患者の看護 12.腹膜・腹壁・横隔膜の疾患のある患者の看護	膵炎・膵臓癌の患者の看護 腹膜炎・腹部外傷・急性腹症の患者の看護
8	乳房の疾患 生殖器系に障害のある患者の看護	乳房切除をうける患者の看護 性ホルモン障害の治療と看護 性・生殖機能障害の検査・治療と看護 前立腺摘出後の患者の看護	★理解度確認テスト ・ホルモン療法 ・ 放射線療法 ・化学療法
9	周手術期の看護過程	周手術期の看護と看護過程 【9～15回:吉田】 手術を受ける患者の看護	・紙上事例を用いてグループで討議する
10	紙上事例を用いた看護過程の実際 グループ発表	演習:個人ワークならびにグループワークにて紙上事例を用いて看護過程を展開する グループ発表および意見交換	紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・看護計画立案について学びを共有するとともに疑問を解決する
15	まとめ	学習内容の確認	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
林正 健二 編:ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 三原 弘 他編:ナーシンググラフィカEX疾患と看護③ 消化器 苛原 稔 他編:ナーシンググラフィカEX疾患と看護⑨ 女性生殖器		1)最終試験評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 看護演習Ⅳ (成人・老年Ⅰ:技術・リフレクション)	学 科 / 学 年 看護学科/2年次	年 度 / 時 期 令和7年度	授 業 形 態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	吉田 展子(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここでは成人・老年領域において基盤となる観察技術や情報収集から必要な日常生活援助を見出し、実施・評価できることをねらいとする。

リフレクション(Refraction)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。そこで、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深め、自己の行った看護を意味づけし、現時点における看護に対する考え深める内容とする。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。
2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。
3. 自己の看護観を言語化できる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験

学生の臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する

【準備学習】

リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的について再学習する。また成人・老年看護学Ⅰ実習後のリフレクションについては、必要に応じて中範囲理論や先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	成人・老年看護学領域技術演習オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	
2	成人・老年看護学領域技術演習	2) 模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントができる。 ・グループ内でディスカッションして学び共有する
3	〃	3) 援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	
4	〃	4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正	
5	成人・老年看護学実習Ⅰ 振り返り演習	1) 深めたい内容の明確化	
6	〃	2) 演習 グループワーク・個人ワーク	
7	〃	3) 〃	
8	〃	4) 成人・老年看護学実習Ⅰ 振り返り発表会	

[使用テキスト]

・志自岐康子他 編:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学④ 基礎看護技術 メディカ出版
・藤野彰子:看護技術ベーシックス.医学芸術社
・松尾ミヨ子他 編:ナーシング・グラフィカ
基礎看護学② ヘルスアセスメント メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 成人・老年看護学Ⅰ実習前技術テスト評価50%、技術テストに合格した者が実習に参加できる
- 2) 成人・老年看護学Ⅰ実習の振り返り発表会における取り組み、発表の評価50%
- 3) 技術テストと成人・老年看護学Ⅰ実習リフレクション評価との合算にて100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
老年看護方法論 I (運動・腎・感覚器)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8 回	1 単 位 (15時間)	必須	桑原 真弓(非常勤) 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>在宅医療の推進によって、疾患をもつ人々とその家族を対象とした健康支援は外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患をもつ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高められるような継続看護を</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。 2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。 3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。</p> <p>【実務経験】桑原真弓:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験や老年看護学概論での知識を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	感覚器系に障害がある患者の看護	1)疾患をもつ患者の看護 主要症状に対する看護 疾患の経過と看護	観察とアセスメント ・感覚器の構造と機能 ・老年期の特徴
2	〃	検査、治療に対する看護 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・視力検査、眼圧検査、眼底検査 ・点眼法 ・聴力検査、平衡機能検査 ・嗅覚検査、味覚検査、感覚検査 ・各感覚器機能障害の原因と程度 ・心身・日常生活への援助
3	運動器系に障害がある患者の看護	1)疾患をもつ患者の看護 主要症状に対する看護 疾患の経過と看護	観察とアセスメント ・運動器の構造と機能 ・老年期の特徴
4	〃	検査、治療に対する看護 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・X線検査、MRI、骨密度検査 ・日常生活動作の観察 ・心身・日常生活の影響 ・ボディイメージ、社会への適応 ・障害の受容と生活改善の援助
5	〃	身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	
6	腎・泌尿器系に障害がある患者の看護	1)疾患をもつ患者の看護 主要症状に対する看護 疾患の経過と看護	観察とアセスメント ・腎・泌尿器の構造と機能 ・老年期の特徴
7	〃	検査、治療に対する看護 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	・尿検査、腎機能検査、画像検査、生検 ・体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期 ・尿・排泄障害の程度と原因 ・透析療法 ・心身・日常生活への影響とコントロール ・ボディイメージ、社会への適応 ・障害の受容と生活改善の援助
8	〃	身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解	
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
石川ふみよ他 編:ナーシング・グラフィカ 運動機能障害 メディカ出版		1)科目終了時の最終試験評価(記述試験):100%	
・田村綾子他 編:ナーシング・グラフィカ 脳・神経機能障害/感覚機能障害 メディカ出版			
・林正健二他 編:ナーシング・グラフィカ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 メディカ出版			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
小児看護方法論 I (発達段階別)	看護学科/2年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	塩山 秀子(非常勤) (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

子どもの成長発達の特徴や生活に応じた、子どもと家族への支援、疾患に対する子どもの理解と説明やプレパレーション、診療・入院等が子どもと家族に与える影響、多様な状況にある子どもと家族への支援などを学ぶ。

[科 目 終 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

- 1.成長・発達・発育の概念と定義を説明できる。
- 2.成長発達の一般的原則や影響する要因について説明できる。
- 3.小児各期の子どもの身体的成長・機能的発達・心理社会的発達について説明できる。
- 4.小児各期の子どものセルフケアの発達と看護についてアセスメントできる。
- 5.子どもを育む家族を支援する看護援助についてアセスメントすることができる。

[実務経験]塩山秀子:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験を教材とし、学生が学びやすい工夫をする。

[準 備 学 習]

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	小児の成長・発達	1)小児看護と倫理的配慮	
2	"	2)成長・発達の一般的原則と影響する要因	
3	"	3)乳児期の形態的成長と機能的発達	
4	"	4)精神運動機能の発達	
5	小児の発達段階に応じた看護	1)乳児期の生活と援助	
6	"	2)幼児期の小児の生活と援助①	
7	"	幼児期の小児の生活と援助②	
8	"	3)学童期の小児の生活と援助	
9	"	4)思春期の小児の生活と援助	
10	小児看護の技術	1)医療現場でのコミュニケーション技術	
11	"	2)診療に伴う援助技術	・吸入と与薬 ・輸液の管理:動画
12	"	3)子どものプレパレーション①	[グループワーク] ・事例別にプレパレーションを考え、ツールを作成し、発表する。
13	"	プレパレーションツールの作成②	
14	"	プレパレーション発表③	
15	"	4)まとめと国試対策	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

- ・中村綾美 編:ナーシング・グラフィカ
小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版
- ・中村綾美 編:ナーシング・グラフィカ
小児看護学②小児看護技術 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験の評価 : 80%
プレパレーションの実施 : 20%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態																																																																							
小児看護方法論Ⅱ (症状別看護)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習																																																																							
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																																							
15回	1単位 (30 時間)	必須	徳竹 律子/吉田 展子 (実務経験有)																																																																							
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>小児に特有な疾患の病態生理・症状・経過・検査・治療・予後を理解し、経過に応じた生活行動の援助や症状緩和をめざした適切な看護および継続看護のあり方を学ぶ。</p> <p>[科目終了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.小児に多く見られる主な症状の特徴と観察の要点、基本的看護を説明できる。 2.小児に特有な疾患の病態生理、症状と治療について説明でき、適切な看護について記述できる。 3.疾病を持ちながら成長発達を続ける小児への支援と看護について、病院・外来・社会をとおした、継続看護を記述できる。</p> <p>【実務経験】徳竹・吉田:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 30%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小児にみられる主な 症状と看護</td> <td>1)呼吸困難のある児の看護</td> <td rowspan="9">主な症状を表す疾患を事例に学習する ・麻疹の症状と看護 ・急性胃腸炎の症状と看護 ・気管支喘息の症状と看護 ・ファロー四徴症の症状と看護 ・ネフローゼ症候群の症状と看護 ・熱性けいれんの看護 ・川崎病の看護 ・肥厚性幽門狭窄症の看護</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>2)チアノーゼのある児の看護</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>3)発熱のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>4)嘔吐・下痢のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>5)脱水症状のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>6)浮腫のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>7)けいれん・意識障害のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>8)発熱のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>9)発疹のある児の看護</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>健康障害の経過の 特徴と看護</td> <td>1)急性的経過をたどる健康問題・障害と看護</td> <td rowspan="4">・フィンクの危機モデルの活用 ・外来における家族と看護</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td style="text-align: center;">〃</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>2)慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>3)周手術期の健康障害の主な症状と看護</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>4)ターミナル期の健康障害の主な症状と看護</td> <td>・子どもを亡くした両親へのグリーフケア</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>健康障害を持つ小児の 生活と看護</td> <td>1)治療処置・検査を受ける小児と家族</td> <td rowspan="3">・用語の理解:プレパレーション、ディストラクション ・腰椎穿刺、骨髄穿刺、尿採取、便採取 輸液管理 ・陰圧室</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td style="text-align: center;">〃</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>〃</td> <td>2)感染防止の必要がある小児と家族</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>3)病気とともに生活している小児と家族<small>(在宅療養)</small></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>小児と家族に起こり やすい状況と看護</td> <td>1)被虐待が疑われる小児と家族</td> <td>★理解度確認小テスト(1～15回のうち3回)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記終了後、期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	小児にみられる主な 症状と看護	1)呼吸困難のある児の看護	主な症状を表す疾患を事例に学習する ・麻疹の症状と看護 ・急性胃腸炎の症状と看護 ・気管支喘息の症状と看護 ・ファロー四徴症の症状と看護 ・ネフローゼ症候群の症状と看護 ・熱性けいれんの看護 ・川崎病の看護 ・肥厚性幽門狭窄症の看護	2	〃	2)チアノーゼのある児の看護	3	〃	3)発熱のある児の看護	4	〃	4)嘔吐・下痢のある児の看護	5	〃	5)脱水症状のある児の看護	6	〃	6)浮腫のある児の看護	7	〃	7)けいれん・意識障害のある児の看護	8	〃	8)発熱のある児の看護	9	〃	9)発疹のある児の看護	6	健康障害の経過の 特徴と看護	1)急性的経過をたどる健康問題・障害と看護	・フィンクの危機モデルの活用 ・外来における家族と看護	7	〃	〃	8	〃	2)慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護	9	〃	3)周手術期の健康障害の主な症状と看護	10	〃	4)ターミナル期の健康障害の主な症状と看護	・子どもを亡くした両親へのグリーフケア	11	健康障害を持つ小児の 生活と看護	1)治療処置・検査を受ける小児と家族	・用語の理解:プレパレーション、ディストラクション ・腰椎穿刺、骨髄穿刺、尿採取、便採取 輸液管理 ・陰圧室	12	〃	〃	13	〃	2)感染防止の必要がある小児と家族	14	〃	3)病気とともに生活している小児と家族 <small>(在宅療養)</small>		15	小児と家族に起こり やすい状況と看護	1)被虐待が疑われる小児と家族	★理解度確認小テスト(1～15回のうち3回)		試験	上記終了後、期末試験	
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																																							
1	小児にみられる主な 症状と看護	1)呼吸困難のある児の看護	主な症状を表す疾患を事例に学習する ・麻疹の症状と看護 ・急性胃腸炎の症状と看護 ・気管支喘息の症状と看護 ・ファロー四徴症の症状と看護 ・ネフローゼ症候群の症状と看護 ・熱性けいれんの看護 ・川崎病の看護 ・肥厚性幽門狭窄症の看護																																																																							
2	〃	2)チアノーゼのある児の看護																																																																								
3	〃	3)発熱のある児の看護																																																																								
4	〃	4)嘔吐・下痢のある児の看護																																																																								
5	〃	5)脱水症状のある児の看護																																																																								
6	〃	6)浮腫のある児の看護																																																																								
7	〃	7)けいれん・意識障害のある児の看護																																																																								
8	〃	8)発熱のある児の看護																																																																								
9	〃	9)発疹のある児の看護																																																																								
6	健康障害の経過の 特徴と看護	1)急性的経過をたどる健康問題・障害と看護	・フィンクの危機モデルの活用 ・外来における家族と看護																																																																							
7	〃	〃																																																																								
8	〃	2)慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護																																																																								
9	〃	3)周手術期の健康障害の主な症状と看護																																																																								
10	〃	4)ターミナル期の健康障害の主な症状と看護	・子どもを亡くした両親へのグリーフケア																																																																							
11	健康障害を持つ小児の 生活と看護	1)治療処置・検査を受ける小児と家族	・用語の理解:プレパレーション、ディストラクション ・腰椎穿刺、骨髄穿刺、尿採取、便採取 輸液管理 ・陰圧室																																																																							
12	〃	〃																																																																								
13	〃	2)感染防止の必要がある小児と家族																																																																								
14	〃	3)病気とともに生活している小児と家族 <small>(在宅療養)</small>																																																																								
15	小児と家族に起こり やすい状況と看護	1)被虐待が疑われる小児と家族	★理解度確認小テスト(1～15回のうち3回)																																																																							
	試験	上記終了後、期末試験																																																																								
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																																								
・奈良間美保他:系統看護学講座専門 小児看護学概論、小児臨床看護総論、医学書院 ・中野綾美他:ナーシング・グラフィカ①小児の発達と 看護、メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100%																																																																								

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
母性看護学概論	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	高橋 美佐子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>本科目は母性看護学を学び始めるための出発点として、現代社会に生きる女性や家族がおかれている状況下でのセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの側面から女性のライフサイクル、母性の健康課題を概観し、看護者の役割について主体的に学ぶことを目的としている。また、授業方法として「グループ学習」、「グループ討議」も展開するので、事前学習をして興味・関心を持って主体的に学ぶことを期待する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間にとっての性・セクシュアリティの概念、および人権としてのリプロダクティブヘルスについて説明できる。 母性・父性観の変遷から親役割について理解し、役割移行期における看護の必要性を説明できる。 わが国および海外の母性看護の歩みを理解し、時代に求められる母性看護のあり方を述べることができる。 現代社会における女性を取り巻く環境と女性の健康とのかかわり、および対処方法を説明できる。 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的特徴、および起こりやすい健康障害を説明できる。 <p>【実務経験】高橋美佐子:助産師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	ガイダンス 母性看護の主要な概念	母性看護学の学習内容と進め方 母性とは 母子関係と家族発達 リプロダクティブヘルス/ライツ	現代女性のライフサイクル
2	母性看護における倫理・	母子保健統計	合計特殊出生率
3	法律施策	母性看護における法律 健やか親子21	母子保健法、労働基準法 戸籍法、母体保護法
4		★知識確認テスト	
5	性と生殖	セクシュアリティ	GnRH, LH, FSH
6		女性の生殖器	エストロゲン、プロゲステロン
7		月経周期	HCG
8	思春期・成熟期女性の	思春期女性の特徴、健康と看護	月経困難症、マンスリービクス
9	健康と看護	成熟期女性の特徴、健康と看護	子宮筋腫、子宮内膜症
10		★知識確認テスト	
11	妊孕性に関わる健康問題 と看護	性感染症 ドメスティック・バイオレンスと性暴力	
12	更年期・老年期女性の 健康と看護	更年期女性の特徴 健康問題と看護	更年期障害、 下部尿路機能障害 骨粗鬆症 脂質異常症 動脈硬化 更年期うつ
13		老年期女性の特徴 健康問題と看護	骨盤臓器脱 萎縮性膣炎
14	特殊なニーズをもつ 妊産婦と家族の支援		人工妊娠中絶、未婚女性の妊娠 外国人妊産婦
15	出生前診断・不妊症の看護	【15回目:不妊症看護認定看護師】 出生前診断、不妊症の看護について	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・横尾京子他 編:ナーシング・グラフィカ 母性看護①母性看護実践の基本 メディカ出版		1)最終試験評価:100%	
[参考図書]適宜提示する			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
母性看護方法論Ⅰ (妊娠・分娩・新生児)	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	高橋美佐子(非常勤) 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、正常な経過をたどる妊・産・褥婦の心身の変化を理解し基礎的看護実践能力を習得する。授業方法として演習を取り入れるので、臨場感をもって真摯に学ぶことを期待する。なお健康障害を持つ妊・産・褥婦の看護および看護過程の展開については「母性看護方法論Ⅱ」で学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1. 妊娠期・分娩期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。 2. 妊娠期・分娩期にある女性をゴードン適応看護モデルにより1次アセスメントができる。 3. 妊娠期・分娩期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。</p> <p>【実務経験】高橋美佐子:助産師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	母性の發揮を促す看護 妊娠期における看護	1) 遺伝相談, 不妊治療 2) 妊婦と胎児のアセスメント	不妊の定義 レオポルド触診法
2	"	3) 胎児発育の評価 4) 妊婦計測 5) 胎児心拍数	ネーゲレの概算法 子宮底長, 腹囲測定 胎児心拍図
3	"	6) 妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 7) 妊婦健康診査	
4	"	8) 妊娠中の栄養管理	体重増加
5	妊婦と家族の看護	1) 妊娠中の衣生活 2) 妊婦の勤労	妊娠高血圧症候群の予防 腹帯
6	"	3) 入院のための準備 4) 産痛緩和法	バースプラン 弛緩法, 呼吸法, 補助動作
7	分娩期における看護	1) 分娩進行から入院まで 2) 分娩第1期の心理	フリードマン曲線 リード理論
8	"	3) 基本的ニードのアセスメント	LDRシステム
9	"	4) 産婦と家族の看護 5) 安全・安楽な分娩	
10	"	6) 出産体験が肯定的になるための看護	出産体験の振り返り
11	分娩各期の看護	1) 自然かつ快適な分娩 2) 基本的ニードに関する看護	フリースタイル出産 水分, 栄養, 排泄, 怒責感
12	"	3) 分娩第1～4期の看護	胎盤娩出, 異常出血 母子相互作用
13	新生児期における看護	1) 新生児の健康状態のアセスメント 2) 全身の観察	
14	"	3) 新生児期に実施される検査 4) ビタミンKの投与 5) 医療事故・医療安全	母乳栄養成功の10カ条
15	分娩経過のアセスメントと看護	1) 妊娠中期の健診とスクリーニング 2) 分娩監視装置と胎児健康状態の評価 3) 破水の診断 4) 分娩の介助	
	試験	上記終了後、期末試験	【DVD視聴】
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・横尾 京子他: ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 母性看護学 ② 母性看護技術 メディカ出版.		1) 最終試験評価: 100% 2) 授業参加状況(遅刻・早退を含む)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
精神看護学概論	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	藤野裕介・宇都宮武(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>心の構造や働き、心の発達・健康及び心に影響をもたらす環境的要因について学習するとともに、看護師自身の自己活用が効果的に行われるために体験学習を通して自分自身への気づきを得る。また、精神看護の意義、目的、役割機能について精神に病を持つ人やその家族のみならず、全てのライフサイクルにある人を対象として理解し援助するために必要な基礎的知識を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.全てのライフサイクルにある対象の健康問題をメンタルヘルスの視点で考えることができる。 2.対象の発達課題及び危機とその援助について理解できる。</p> <p>【実務経験】藤野裕介,宇都宮武:看護師として5年以上の実務経験。 病院での看護実践経験を経験を教材として、学生が主体的に学修に取り組めるよう授業を工夫する。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	精神看護学で 伝えたいこと1	1)精神看護学とは 2)自己を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の精神障害に対するありのままの気持ちを知る ・日本の精神科医療の歴史と変遷から精神科医療、地域精神保健福祉活動の特徴と課題を学ぶ ・自我の構造 ・心の防衛機制 ・人間の成長と発達 ・発達理論(フロイト、エリクソン他) ・ストレスとストレス反応 ・ストレス対処行動(コーピング) ・成長発達過程における危機、状況の変化における危機を学ぶ ・サポートシステムなどの考え方に基づいて、危機の状況を把握する方法について理解を深める ・ライフサイクルと精神の健康についての危機とその援助を学ぶ ・家族のメンタルヘルス ・精神障害者を抱える家族への援助 ・看護師のストレス ・ストレスマネジメント
2	精神看護学で 伝えたいこと2	1)精神保健医療福祉の歴史と看護	
3	精神の健康と障害	1)地域精神保健福祉活動	
4	人間の心のしくみと 人格の発達 1	1)心の発達とは	
5	人間の心のしくみと 人格の発達 2	1)発達理論	
6	ストレスと対処行動		
7	危機状況と心の働き	1)危機とは 2)危機モデル・危機介入	
8	ライフサイクルと精神の 健康(危機と危機介入)	1)乳児期	
9	”	2)幼児期	
10	”	3)児童期	
11	”	4)思春期	
12	”	5)成人期	
13	”	6)老年期	
14	家族を支援する		
15	看護師の精神の健康	1)リエゾン精神看護、コンサルテーション	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・出口 禎子 編:ナーシンググラフィカ 精神看護学 ①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と看護の基本		1)最終試験評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
救急蘇生法 I	看護学科/2年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	榊原智子・吉田展子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>x 技術を実践できることは将来の医療者を目指すものとして大切なことである。そのために今までの看護基礎教育で学んだ構造学・機能学・看護技術などをもとに学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.生命に危険が伴う場合の手当てについて正しい知識を習得することが出来る 2.生命に危険が伴う場合の手当てについて正しい技術を習得することが出来る</p> <p>【実務経験】林、徳竹他:看護師として5年以上の実務経験。 これまでの看護実践経験を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い知識・技術を修得。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびにテキストによる予習を行う。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生命に危険が及ぶ 状況を理解できる	1)本授業のねらいと学習内容 1)心停止の早期認識 2)早期救命処置の開始	救命率の向上に必要なこと、心停止の 予防、心停止の早期認識、早期救命処 置の開始 救助者自身の安全の確保、状況の観察
2	一次救命処置の実際	1)心肺蘇生法、AED 2)AEDの使用	・心臓発作、脳卒中 ・気道異物、誤飲
3	”	3)医療機関へ搬送	
3	応急手当	1)外傷の手当 ・止血法、包帯法	・多量出血、咬創、熱傷
4	”	2)外傷外の手当て ・ショック体位、固定法など	・骨折、脱臼、肉離れ、アキレス腱断裂 ・熱中症、中毒、けいれん、腹痛
5	子どもの応急手当	1)子どもに起こりやすい事故	家の中、周囲の環境整備
6	”	2)子どもの気道異物の応急手当て ・背部叩打法、ハイムリック法	・気道異物、誤飲
7	”	3)子どもの水の事故と応急手当	・溺水
	医療機関へ引き継ぎ	1)連絡と搬送	
8	まとめ	1)上記内容の復習と演習	
	試験	赤十字救急基礎・救急員養成講習会講義時の 試験を受講する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
1) 授業時に提示します		赤十字救急法基礎・救急員養成講習会講義を受け演習に参加 しているものが試験に参加できる 赤十字救急法基礎・救急員養成講習会時の実技試験、筆記試 験:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
基礎看護学Ⅱ実習	看護学科/2年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	平田 美由紀他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 看護の対象である人間を生活者として全人的、個別的に捉え、疾患や障害、治療による生活への影響を看護上の問題としてとらえる視点を養う。健康回復のための個別性に応じた日常生活援助方法を看護過程の思考に基づいて立案、実践、評価できることをねらいとする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象のニーズを把握し看護過程の展開ができる。 2. 対象に応じた介入方法を選定し、日常生活援助が実施できる。 3. 基本的看護技術(標準予防策、ボディメカニクス、コミュニケーション、フィジカルアセスメント)を実施できる。 4. 看護学生として対象を尊重する態度がとれる。</p> <p>【実務経験】平田美由紀他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容] <実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <p>1.各グループごとに配置された実習病棟で臨床指導者、担当スタッフ、教員の指導のもとに看護ケアを実施する。 2.一名の患者を受け持ち、日常生活援助を中心とした看護過程を展開する。データベースをもとに情報収集から看護計画を立案し、それに基づいてケアを実施、評価を行う。 3.その他、基礎看護技術チェック項目等をもとに計画した技術の実践、検査等の見学実習を行う。</p>			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術 メディカ出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研 ・日本看護診断学会監訳:NANDA-I看護診断 定義と分類、医学書院		実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
成人・老年看護学 I 実習	看護学科/2年次	令和 7 年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 時 間 数	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必 須	吉田 展子 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>成人・老年看護学 I 実習では、成人期・老年期の特徴を踏まえ健康障害に応じた看護過程の展開方法を理解し、看護支援ができる。チームの一員として基礎的知識・技術・態度を養う。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の発達課題・健康障害を踏まえた看護過程を展開できる。 2. 対象とその家族の特性が説明できる。 3. 対象を生活者として捉え、病院から地域への継続について考えることができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 <p>【実務経験】吉田展子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む</p>			
<p>内容と計画</p> <p>実習病院において、検査・治療を受ける患者を受け持ち、以下の目標にそって、12日間の実習を行なう。 その間、受け持ち患者の健康レベルに応じて実習を行なう。 (詳細については、実習手引き参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場において、成人期・老年期の特徴を踏まえ健康障害に応じた看護過程の展開方法を理解し、基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・疾病治療学 I ～IV、成人看護学概論、成人看護方法論 I ～IV、で使用したテキスト ・臨床外科看護総論・各論のテキスト ・日本看護診断学会監訳:NANDA-I看護診断 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研 		<p>実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p>	

令和7年度
授業進度計画

令和7年4月1日発行

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校

令和7年度

授業進度計画

(シラバス)

3年次

学校法人 穴吹学園 穴吹医療大学校

看護学科

目 次

教育課程表	1
カリキュラム構造図	3
3年次	
コミュニケーショントレーニングⅢ	4
人間理解の基礎	5
臨床薬理学	6
保健指導論	7
保健統計	8
地域看護学	9
地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	10
看護演習Ⅴ(救急蘇生法)	11
老年看護方法論Ⅱ(生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	12
老年看護方法論Ⅲ(看護過程)	13
看護演習Ⅵ(成老Ⅱ・Ⅲ:技術演習・リフレクション)	14
小児看護方法論Ⅲ(看護過程)	15
看護演習Ⅶ(小児:技術演習・リフレクション)	16
母性看護方法論Ⅱ(産褥・育児)	17
母性看護方法論Ⅲ(看護過程)	18
看護演習Ⅷ(母性:技術演習・沐浴・リフレクション)	19
精神看護方法論Ⅰ(症状別看護)	20
看護研究Ⅰ(基礎)	21
臨地実習	
地域看護学実習(居場所・産業・行政)	22
成人・老年看護学Ⅱ実習(急性期・回復期)	23
成人・老年看護学Ⅲ実習(慢性期・終末期)	24
成人・老年看護学Ⅳ実習(リハビリテーション・継続看護等)	25
小児看護学実習	26
母性看護学実習	27

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年	
教育内容	科目名							
基礎分野	科学的思考の基礎	教育心理学	1	30	30			
		教育学(教育原理・教育方法論)	1	30	30			
		論理的思考の基礎	1	20	20			
		看護物理学	1	15		15		
		情報モラル	1	15	15			
		情報科学概論	1	15	15			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
	小計	7	155	110	45			
	人間と生活・社会の理解	倫理学Ⅰ	1	15	15			
		倫理学Ⅱ	1	15				15
		法学概論	1	15	15			
		家族社会学	1	15	15			
		英語コミュニケーション	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	15			15	
人間理解の基礎	1	15			15			
小計	9	180	105	30	30	15		
計	16	335	215	75	30	15		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ(演習)	1	15		15		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
		臨床生化学	1	20	20			
		臨床栄養学	1	20		20		
	小計	7	175	140	35			
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器)	2	40	40			
		疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ(脳神経・運動・精神)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ(小児・腎・泌)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅴ(生殖器・周産期)	1	15		15		
	リハビリテーション論	1	15		15			
	小計	10	250	100	120	30		
	健康支援と社会保障制度	看護と法律(保助看法・関係法規)	1	30				30
		公衆衛生学	1	20		20		
		社会福祉・社会保障論	1	30		30		
		保健指導論(健康科学概論含む)	2	40			40	
		保健統計	1	20			20	
小計	6	140		50	60	30		
計	23	565	240	205	90	30		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史)	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ(看護倫理・理論)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅰ(コミュニケーション・感染)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅱ(バイタルサイン・看護記録)	1	20	20			
		基礎看護技術論Ⅲ(フィジカルアセスメント)	1	20		20		
		基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ(清潔)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ(与薬)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ(看護過程)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅴ(看護過程の実際)	1	15		15		
	看護演習Ⅰ(基礎Ⅰ:技術・リフレ)	1	15	15				
	看護演習Ⅱ(基礎Ⅱ:技術・リフレ)	1	15		15			
	小計	15	365	255	110			
地域・在宅看護論	地域看護学	1	15			15		
	在宅看護概論	1	15	15				
	地域・在宅看護方法論Ⅰ(家族援助)	1	30		30			
	地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	1	30			30		
	地域・在宅看護方法論Ⅲ(展開・演習)	1	30				30	
	看護演習Ⅲ(在宅:技術・リフレ)	1	15				15	
小計	6	135	15	30	45	45		

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
教育内容	科目名						
成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
	成人看護方法論 I (呼吸・循環)	1	30		30		
	成人看護方法論 II (アレルギー・血液)	1	20		20		
	成人看護方法論 III (脳・代謝)	1	30		30		
	成人看護方法論 IV (消化器・生殖・胃がんOP看護過程)	1	30		30		
	看護演習IV (成老I:技術・リフレ)	1	15		15		
	看護演習V (救急蘇生法)	1	15			15	
	看護演習VI (成老II・III:技術・リフレ)	1	15			15	
小計	8	185	30	125	30		
老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
	老年看護方法論 I (運動・腎)	1	15		15		
	老年看護方法論 II (生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	1	30			30	
	老年看護方法論 III (看護過程)	1	20			20	
小計	4	95	30	15	50		
小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
	小児看護方法論 I (発達段階別)	1	30		30		
	小児看護方法論 II (症状別看護)	1	30		30		
	小児看護方法論 III (看護過程)	1	15			15	
	看護演習VII (小児:技術・リフレ)	1	15			15	
	小計	5	120	30	60	30	
母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
	母性看護方法論 I (妊娠・分娩・新生児)	1	30		30		
	母性看護方法論 II (産褥・育児)	1	30			30	
	母性看護方法論 III (看護過程)	1	15			15	
	看護演習VIII (母性:技術・沐浴演習・リフレ)	1	15			15	
	小計	5	120		60	60	
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
	精神看護方法論 I (症状別看護)	1	30			30	
	精神看護方法論 II (生活)	1	30				30
	精神看護方法論 III (看護過程)	1	15				15
	看護演習IX (精神:技術・リフレ)	1	15				15
	小計	5	120		30	30	60
看護の統合と実践	看護管理論 I (医療安全)	1	15				15
	看護管理論 II (看護マネジメント)	1	15				15
	災害看護論 (トリアージ含む)	1	30				30
	国際看護論	1	15				15
	看護研究 I (基礎)	1	30			30	
	看護研究 II (実践・研究発表含む)	1	30				30
	看護の展望(学会参加・看護観発表会含む)	1	30				30
	救急蘇生法 I (日赤救急法含む)	1	15		15		
	救急蘇生法 II (BLS研修含む)	1	30				30
	看護演習X (生活:技術・リフレ)	1	20				20
	看護演習XI (統合:技術・リフレ)	1	30				30
	総合看護セミナー I (総合看護過程 I)	1	30				30
	総合看護セミナー II (総合看護過程 II)	1	30				30
	総合看護セミナー III (卒業前演習)	1	20				20
小計	14	340		15	30	295	
臨地実習	基礎看護学 I 実習 (対象理解)	1	45	45			
	基礎看護学 II 実習 (日常生活援助)	2	90		90		
	地域看護学実習(居場所・産業・行政)	1	45			45	
	地域・在宅看護論実習	2	90				90
	成人・老年看護学 I 実習(看護過程展開)	2	90		90		
	成人・老年看護学 II 実習(急性期・回復期)	2	90			90	
	成人・老年看護学 III 実習(慢性期・終末期)	2	90			90	
	成人・老年看護学 IV 実習(リハビリテーション・継続看護等)	2	90			90	
	小児看護学実習	2	60			60	
	母性看護学実習	2	60			60	
	精神看護学実習	2	90				90
	生活援助実習(施設等)	2	90				90
	看護の統合と実践実習	2	90				90
	臨地実習 計	24	1020	45	180	435	360
	総合計	125	3400	860	905	830	805

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
コミュニケーション トレーニングⅢ	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (15 時間)	必須	濱田 睦 他
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 就職試験に向け自己分析し自己洞察を深めるとともに、社会人として対人サービスを行う上での基本的なマナーを身につける。また、新人看護師として自分の意見や感情をアサーティブに表現できる能力を身につける。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)] 1.自己分析により、自己洞察した内容を記述できる。 2.就職活動に必要な力を取得する。 3.社会人としての、対人関係に必要な基本的マナーを習得する。 4.新人看護師に必要なアサーティブなコミュニケーションの理解と技術を習得する。</p> <p>【準備学習】授業の復習、事前課題に取り組み授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	就職活動を知る	1 就職活動を始める前に「夢」を描こう 2 「働く」とはなにか	
2 3	就職基礎教育	1 ものの見方、考え方 2 文章の書き方と構成の仕方 3 話の聞き方 4 プレゼンテーションの基本と応用 5 ディスカッションの基本と応用	【就職部】
4	履歴書の書き方と伝え方	1 履歴書とは 2 履歴書の書き方と手順	
5	自己PR	1 自分を知る工夫 2 自己PR 3 学生時代に力を入れたこと	
6	面接基本	1 面接の礼儀作法 2 面接に向けての準備 3 面接時によく聞かれる質問	【就職部】
7	インターンシップ	1 インターンシップ、施設説明会 2 なぜ参加するのか 参加前の準備と参加後の対応	
8	建設的でさわやかに 対話する	1 3つの自己表現スタイル 2 アサーティブな対人関係を築く 3 アサーティブなコミュニケーションの進め方	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・令和7年度就職の手引き ・熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材 ～一生役立つスキルで就職に勝つ！		1)出席状況・授業参加態度・課題にて総合評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
人間理解の基礎	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位(15時間)	必須	林 晶子・中西 文香
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本授業は、様々な立場にある人の経験談や学生自らの体験をとおして、学生が自ら主体的に考える授業である。学生は、本授業をとおして様々な人の体験や、価値観に触れ、あらためて看護の対象である「人間」についての理解を深める。さらに、学生が自ら主体的に感性を磨くとともに、生きること、倫理観や専門職業人としての意識や責務、人により添う姿勢等を考え、自己成長を促進できる機会とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人」とはどのような存在なのかを考え、人に寄り添う姿勢について考える機会となる。 2. 社会人として、看護師として自己の社会的役割の認識と将来像を確立できる機会となる。 <p>【準備学習】次回の授業内容をふまえて関連する事項または課題について予習して臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	「人」どうい存在か	1. 本授業のねらいと学習内容、学習方法 学生間ディスカッション等	自由に自分の考えを述べる、 他者の考えを聞く、共感、意見交換
2	特別講義・外部研修等	下記内容等をテーマとして主体に学ぶ	
3		*出席した内容について課題レポート提出	
4		<テーマ>	
5		1. 看護の日記念講演に参加 2. 自分と他者の理解を深める 3. 患者・家族支援/疾病をもちながらよりよく生きる 4. 生きることや他者の人生観にふれるテーマ	看護の役割、看護への期待 自己理解、他者理解、多様性、共感 健康障害をもつ人の理解 生きるとは、生きがい
6	ボランティア参加	学内・学外の講演を聴講することや、ボランティアに参加することを通じて専門職業人として求められる人材として成長する機会とする	多様な人々の協働 つながり 自分との対峙
7			
8		※参加後はレポート提出	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
必要に応じて資料配付		<ol style="list-style-type: none"> 1)授業出席状況(出席・授業態度)を含めて、課題レポートにより総合的に評価 2)ボランティア活動3回は必修項目とする 3)特別講義を欠席した場合、他の講義や研修会を受講しレポートを提出する。 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床薬理学	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	小坂 信二/芳地 一(非常勤) (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

医学の進歩とともに、薬物の開発・研究がさかんに行われ新薬が誕生し、膨大な数の薬物が存在している。医療安全のより一層の確保を期する必要から、薬剤管理の面でも看護業務の拡大が進んでいる。そこで本科目では、基本的な薬物についてそれらの作用機序、薬物間の相互作用、薬物代謝、薬物取り扱いの基本的事項を学習し、患者が安全に安心して薬物治療を受けることができるよう看護実戦に必要なスキルを身につける。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 薬物が生体に及ぼす影響と薬理作用について説明できる。
2. 個々の薬物の基礎知識、薬物の安全性、有毒性について説明できる。
3. 各種疾患に対して使用される薬物の適用方法、化学療法、輸血療法について説明できる。
4. 与薬時の看護師の役割と注意事項を考えることができる。

[実務経験] 小坂信二 芳地一: 薬学部・医学部にて研究活動ならびに教育経験や薬剤師としての豊富な実務経験を有する薬物に関する基礎的な知識習得をめざし事例等活用して授業を展開する

[準備学習] 授業の復習と次回の授業内容についてテキストにて予習して臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	医薬品総論	1) 医薬品 2) 医薬品の作用原理とその影響 3) 医薬品の適正な使用に向けて	医薬品の分類、医薬品に関連する法律 薬物の投与経路と薬物動態、薬物有害反応 医薬品使用時の注意点、処方から投与、5R 発症過程と使用薬剤の機序
2	主な生活習慣病に使用する薬	1) 生活習慣病 2) 高血圧 3) 狭心症 4) 心筋梗塞 5) 不整脈 6) 心不全	服薬指導 インスリン自己注射の患者教育
3	がん・痛みに使用する薬	1) がんに使用する薬	抗がん薬の分類と作用、有害作用とその対策 WHO除痛ラダー、ペインスケール オピオイド鎮痛薬の特徴と有害作用
4		2) がん性疼痛に使用する薬 3) その他の痛みに使用する薬	
5	感染症に使用する薬	1) 細菌感染症 2) ウィルス感染症 3) 真菌感染症 4) 寄生虫感染症 5) 消毒薬 6) 予防接種薬	各感染症に用いられる治療薬の作用機序 薬物有害反応 消毒薬の適応と有害作用 予防接種の種類、副反応
6	脳・中枢神経系疾患で使用する薬	1) 中枢神経系の働きと薬	脳における神経伝導物質 各種薬剤の分類、薬理作用と有害反応
7		2) 抗てんかん薬 3) パーキンソン病治療薬 4) 向精神薬 5) アルツハイマー型認知症治療薬 6) 脳血管障害(急性期)の薬物治療	
8	救急救命時に使用する薬	1) 医薬品投与に関連する緊急状態	ショックを引き起こしやすい医薬品 ショック使用時の薬と作用・有害反応 加量投与、誤薬
9		2) ショックに対して使用する薬 3) 医薬品に関連した中毒に使用する薬 4) 救急カートに必要な薬 5) 麻酔に使用する薬 6) 輸液	
10	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬	1) 気管支喘息と薬物療法	全身麻酔薬、局所麻酔薬、麻酔補助薬 輸液の種類・投与時の注意点 薬剤の分類、薬理作用と有害反応 鎮咳薬、去痰薬 抗リウマチ薬・非ステロイド薬の作用と有害反応
11		2) 呼吸器疾患に使用する薬 3) 関節リウマチと薬物療法 4) 全身性エリトマトーデストと薬物療法	
12	消化器系疾患に使用する薬	1) 消化器系疾患に使用する薬の分類と特徴	哨戒機系疾患に使用する薬の分類 薬理作用と有害反応
13	その他の症状に使用する薬	臨床でよく遭遇する10疾患に使用する薬と服薬指導	各薬剤の作用機序と有害反応 服薬指導
14			
15			
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・古川 裕之他: ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち②
臨床薬理学
・必要に応じて資料提示

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験100%

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
保健指導論	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
20回	2単位(40時間)	必須	松原文子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 人々が自ら健康問題や課題に気づき保健行動がとれるよう支援するために、人々の保健行動の特性と効果的な介入方法、個人や集団における教育方法、組織化について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 保健指導の目的・特徴について説明できる。 保健指導に活用できる理論について、具体例を示して説明できる。 保健指導の展開過程と必要な技術について説明できる。 健康教育の目的・対象・教育を行う効果について説明できる。 健康教育の進め方や効果的な媒体づくりの説明ができる。 グループ育成、組織化にむけた支援について有効な理論・基礎的な考え方や技術を説明できる。 <p>【実務経験】松原文子:保健師として5年以上の実務経験。 地域における保健活動経験を教材として保健指導のための基礎的知識・技術の習得を支援する。</p> <p>【準備学習】授業の復習ならびに次回授業内容の予習(テキストによる)、課題に取り組む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	保健指導に活用できる理論	1) 保健行動理論	<ul style="list-style-type: none"> 健康信念モデル 自己効力感 変化のステージモデル 計画的行動理論 ストレスとコーピング ソーシャルサポート コントロール所在
2		2) 保健指導に活用できる理論	
3		〃	
4		〃	
5		〃	
6		〃	
7	日本の健康問題	1) 日本の健康問題の現状について	
8		〃	
9		〃	
10	保健指導の展開	1) 保健指導技術	
11		〃	
12		〃	
13	健康教育とは	1) 健康教育と看護師の役割	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育で取り上げる課題 企画と計画
14		2) 健康教育の実践	
15	健康教育の展開	3) 健康教育の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 周知方法 評価(効果効率の測定)
16		①計画化と準備	
17	〃	②教育実践の中のおさえ	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育(グループワーク)の実際 媒体(パンフレット・リーフレット パネル・スライド・ポスター)
18		③実施および評価	
19		4) 参加者体験型健康教室	
20		①企画	
	〃	②プログラムづくり	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・松本千明:医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎, 医歯薬出版株式会社 [参考文献] 国民衛生の動向		1)健康教育媒体づくり、発表、参加状況等: 70% 2)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験): 30%	

授 業 概 要 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
保健統計	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	菊本 暁人 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

社会のニーズを把握して、そのニーズに沿った支援を行うために、集団の健康現象と健康に影響する諸条件をとらえる疫学の基礎的理論と調査・分析・活用方法に必要な統計学の基本的な知識および看護活動の実際に必要な知識について学ぶ。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (到 達 目 標)]

1. 疫学概念、考え方、およびアプローチについて説明できる。
2. 疫学の意義と定義、多要因疾病観について説明できる。
3. 各種保健統計調査について説明できるとともに、統計結果の意味と現状と推移について述べる事ができる。
4. 統計学の基礎的な内容について説明できる。

【実務経験】 菊本 暁人:保健師として5年以上の実務経験。

疫学・保健統計の必要性、統計結果の意味と活用について、実際の統計結果を用いながらわかりやすく理解できるよう授業方法を工夫する。

【準備学習】 授業の復習ならびに次回授業内容の予習(テキストによる)、課題に取り組む。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	疫学概念と歴史	1)疫学概念 2)疫学の歴史	疫学の定義 看護における疫学の意義
2	疫学研究	1)疫学研究概念 2)疫学研究方法 ・標本抽出 ・記述研究 3)横断研究 生態学的研究 4)症例対照研究とコホート研究	看護研究と疫学 標本抽出法
3	〃	1)相対危険と寄与危険 2)オッズ比	
4	疾病頻度の指標	1)疾病指標概念 2)疾病指標	有病率 罹患率(累積罹患率) 致命率 死亡率 指標の相互関係
5	保健統計調査	1)保健統計調査	人口静態統計 人口動態統計
6	〃	〃	出生率 死亡率 死因統計 死産と乳幼児死亡 婚姻と離婚 平均寿命 その他の保健統計調査
7	スクリーニング	1)予防とスクリーニング	スクリーニング
8	疾患の疫学	1)おもな疾患の疫学	
9	統計学の基礎	1)疫学と統計学	データをまとめる意義
10	〃	2)データの見方 代表値・平均・散布度・標準偏差 平均値・中央値・最頻値・パーセンタイル値・相関 EXCEL統計処理	グラフの特徴
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・木下秀一著:基本からわかる看護疫学入門 第3版
医歯薬出版株式会社,2017.
・国民衛生の動向

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域看護学	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	松原 文子(非常勤)実務経験有

[授業の目的・ねらい]

人々の本来の生活の場である地域(コミュニティ)の意義、そこで主体的に生活して保健活動を行っている住民や住民の活動を支援している行政機関や保健福祉機関の活動を学ぶとともに、対象が生きがいを持ち健康な生活ができることを支援する看護職の役割と必要な能力について学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

1. 地域看護学の理念と目的並びに基本概念について説明できる。
2. 地域看護学の活動分野、対象、方法について特性を踏まえて説明できる。
3. 地域コミュニティを軸とした協働の町づくりの実際について説明ができる。
4. 健康や生活ができることを支援する看護職の役割と必要な能力について説明できる。

【実務経験】松原文子:保健師として5年以上の実務経験。

地域での看護実践経験を教材に学生がわかりやすよう授業を工夫する。

【準備学習】

授業の復習と次回の授業内容をテキストにて予習。必要に応じて調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域看護学の 成立の基盤	1) 地域看護学の歴史と定義 2) 地域看護学の理念と目的 3) 地域看護学の基本的概念	地域と人口集団を対象とした看護 地域を基盤にした看護 地域ヘルスケアシステム ヘルスプロモーションと1～3次予防
2	地域看護活動の構成	1) 活動の領域 ① 公衆衛生看護 ② 在宅看護	
3	地域の概要と環境の理解	2) 活動対象の特性 3) 社会での生活者としての個人の理解	
4	地域ヘルスケアシステム と社会資源	1) 自然・文化・社会	
5	住民活動を支援している 行政機関	1) 地域ヘルスケアシステム 2) 地域で活用できる社会資源について	
6	”	1) 住民活動を支援している行政機関や 保健福祉機関の活動	
7	地域に向けた看護活動	2) 住民を支援する看護職の役割と必要な能力	
8	地域コミュニティ	1) 慢性疾患を持ちながら地域で 生活している人への看護	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

適宜紹介

[参考テキスト]

- ・木下由美子編集代表:エッセンシャル地域看護学
第2版医歯薬出版会.
- ・国民衛生の動向

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
地域・在宅看護方法論Ⅱ(技術)	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	林 晶子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

在宅看護方法論Ⅱ(技術)では、在宅看護の実践に必要な看護援助の基本を学ぶ。在宅療養者とその家族のセルフケア能力を最大に生かし、個々の家庭の状況をふまえてその状況に応じた生活支援に必要な看護援助について学ぶ。具体的には、日々の生活に欠かすことのできない日常生活行動への援助技術について学ぶ。さらに、医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助技術について具体的に学ぶ。学習においては自ら主体的に学ぶことを期待する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 在宅療養者と家族の生活支援のための看護援助について理解できる。
2. 在宅で療養する意味を理解し、日常生活を中心とした在宅看護に必要な基礎的知識・技術が理解できる。
3. 医療依存度の高い在宅療養者と家族への看護に必要な基礎的知識・技術が理解できる。
4. 自ら主体的に、授業・課題に取り組むことができる。

【実務経験】林 晶子:看護師として5年以上の実務経験。

在宅・地域での看護実践経験の教材化、また、学生の能動的学習の促進が図れるよう工夫する。

【準備学習】

前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いた予習、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	訪問看護の概要・理念	1. 家庭訪問の意義と訪問時のマナー 1) 面接の方法・技術 2) 信頼関係の形成	・信頼関係の形成 ・看護師に必要とされる資質、マナー
2	家庭訪問の意義とマナー 主体的意思決定支援	2. 主体的意思決定の支援	・権利擁護とエンパワーメントの支援
3	在宅酸素療法を必要とする 療養者の援助	1. 在宅酸素療法の目的と適応 2. 在宅酸素供給装置の特徴 3. 療養者・家族への支援とQOL	・療養者・家族のセルフケア能力 ・発生しやすいトラブルと援助のポイント ・QOLの視点と支援
4	在宅人工呼吸療法を 必要とする療養者の援助	1. 侵襲的人工呼吸療法の概要と適応 2. 発生しやすいトラブルと援助 3. 療養者・家族の支援と社会資源	・アセスメントの視点と援助の方法 ・療養者・家族のセルフケア能力 ・発生しやすいトラブルと援助のポイント
5			
6	在宅における認知症高齢者の 看護	1. 認知症高齢者と家族に対する在宅看護 2. 認知症患者を支える社会制度	
7	在宅におけるエンドオブライフケア	1. 在宅におけるエンドオブライフケア 2. エンドオブライフケアを支える職種連携	
8	在宅におけるCAPD管理	1. 在宅におけるCAPD管理 2. CAPDの資料の管理	
9	在宅療養者の日常生活援助	1. 家庭における基本的な生活援助	・アセスメントの視点と援助の方法
10	〃	1) 住環境	・支援・教育のポイント
11	〃	2) 食生活 在宅経管栄養・中心静脈栄養	・家庭での工夫
12	〃	3) 排泄 膀胱留置カテーテル	・QOLの視点
13	〃	4) 清潔	・発生しやすいトラブル
14	〃	5) 移動・活動	・社会資源の活用
15	〃	6) 服薬管理 7) 感染予防	
	試験	グループワークを行い、発表ロールプレイ 上記終了後前期末試験	

[使用テキスト]

臺 有桂 編:ナーシンググラフィカ
地域療養を支えるケア
在宅療養を支える技術

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1) 科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
看護演習V (救急蘇生法)	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1 単 位 (15 時 間)	必須	山川 俊紀 (非常勤) 実務経験有
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>2000年にアメリカ心臓学会が発表した心肺蘇生に関するガイドラインを契機に、心肺蘇生に対する役割はますます高まってきている。さらに救急医療の高度化に伴い、致命的状況からの救命率も上昇してきている。救命後のQOL(quality of life)は、できるだけ早期に心肺機能を回復させ生体へのダメージを少なくできるかどうかで左右される。看護において心肺蘇生法とは、基本的な看護技術の一つであり、常に予測性、準備性、即応性を持った対応が求められる。多様な救急場面において速やかに行動できるように本科目では心肺蘇生について科学的根拠に基づいた基礎知識、技術の習得を目的とし演習を取り入れて実践力を育成する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シミュレーターを用いて、急変時のアセスメントとBLS(basic life support)が実践できる 2 救急処置に用いられる主要薬剤の適応、作用副作用が述べられる 3 緊急処置の必要性を代表的な心電図波形を判断できる <p>【実務経験】山川俊紀:医師ならびにDMATの一員として豊富な経験を有する。 実践経験を教材とし、また、科学的根拠もとづく技術の習得が図れるよう授業展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習と次回の授業内容について予習し授業に臨む。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	一次救命処置と二次救命処置(ACLS)	1)心肺蘇生法 2)気道確保・呼吸の補助・循環補助 3)チームの役割	一次救命処置と二次救命処置の違い
2	気道確保	1)オトガイ拳上 2)エアウェイ:経口・鼻腔 3)気管内挿管	心肺蘇生のABC DEF
3	換気と循環	1)バッグ・マスク人口呼吸 2)酸素投与方法 3)心臓マッサージ法	救急処置で使用する器具、薬品など
4	アルゴリズムの見方	1)心肺蘇生のアルゴリズム 頻脈のアルゴリズム、 電氣的除細動のアルゴリズム AEDのアルゴリズム	
5	外傷医療	1)避けられた外傷死亡とは 2)高エネルギー事故とは	
6	災害医療	1)災害とは 2)災害医療と救急医療の違い	
7	トリアージ	1)トリアージとは	
8	〃	2)トリアージの演習	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト] 講師より適宜配布		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 科目終了時の最終試験評価(筆記試験など):100% [授業参加状況(遅刻・早退を含む)]	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年看護方法論Ⅱ (生活支援・意思決定)	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	近藤幸子(実務経験有) 認定看護師
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本科目はさまざまな健康レベル、障害レベルにある老年期の個人と家族を対象としている。その問題は加齢による心身機能の変化のほか、疾病、治療、生活環境・習慣など多様な影響を受けるため幅広い。そこでこれらを十分に尊重し、「生活の質」を高め個別の可能性を最大に発揮できるような、老年期の看護援助のあり方を考える。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者に生じやすい心身の健康問題を身体の機能と生活機能の両面からとらえ、正確にヘルスアセスメントできる。 高齢者に生じやすい心身の健康問題に対し、個人と家族に看護援助、予防、指導、教育する方法を説明できる。 老年期特有の薬物作用や問題を理解し、安全に薬物療法できる援助方法を述べる事ができる。 高齢者のエンパワメントを促進する看護の方法を学ぶことができる。 <p>【実務経験】近藤幸子：保健師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。 その他講師(非常勤)：看護師として5年以上の実務経験を有し、担当分野の看護実践に精通している看護師ならびに認定看護師等。看護実践エピソードを教材として授業を行う。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	1. 地域における看護 活動生活支援のため の援助	【1～5 近藤幸子】	他職種理解
2		1) 慢性疾患を持ちながら地域で生活している人への看護	地域における看護職の役割
3	2. 看護の実際 〃	2) 健康なライフスタイルへの支援	・意思決定支援 ・がん化学療法を受ける患者と家族への支援
4		①外来で生活に即した保健指導	
5		②行動科学の理論を用いた個別の患者教育	
6		③小集団への外来利用者への教育	
7		3) 人生会議、エンドオブライフケア	
8	〃	がん看護認定看護師による講義	・がん性疼痛緩和 ・意思決定支援 ・QOL支援
9		化学療法を受ける患者家族への在宅支援 (外部講師)	
10	〃	慢性心不全のある高齢患者とその家族の看護	・左心不全・右心不全 急性憎悪、日常生活援助と健康管理 社会資源
11		(外部講師)	
12	〃	認知症のある患者とその家族への看護	・認知症の病態・種類、認知機能の評価方法 ・認知症の症状理解と日常生活援助、 認知症患者の家族への支援、認知症予防と治療
13		(外部講師)	
14	〃	難病患者とその家族への看護	・難病患者の理解と日常生活援助 心のケア、QOL、意思決定支援 ・難病患者の家族への支援と社会資源
15		(外部講師)	
14	〃	人工呼吸器を装着している患者とその家族	・人工呼吸器装着患者の理解とケア コミュニケーション、家族への支援 心のケアとQOL ・意思決定支援、緊急時の対応
15		への看護 (外部講師)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・堀内ふき他 編:ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ・堀内ふき他 編:ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・佐伯由香他 編:ナーシング・グラフィカ 呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版		1) 内容1)については科目終了時の最終レポート評価:100% 2) 内容2)については課題レポートの提出、出席状況を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 老年看護方法論Ⅲ (看護過程)	学科/学年 看護学科/3年次	年度/時期 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10回	1単位(20時間)	必須	山下 美紀 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

老年期の発達課題や特徴、心身機能を理解し、急性期・回復期・慢性期・終末期の健康レベルを踏まえ、健康障害によって生じる反応をアセスメントし、看護過程の展開ができる。またその家族についても考えることができる。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 対象と家族を身体的、心理的、社会的側面から理解できる。
2. 対象を支えるその家族について理解できる。
3. 患者や家族を支えるチーム医療について理解できる。
4. 患者や家族を支える社会資源について理解できる。

【実務経験】山下美紀:看護師として5年以上の実務経験。

アセスメントから計画立案まで一貫した思考ができるよう演習を工夫する。

【準備学習】

老年期の特徴、事例をもとに調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	老年期の特徴について	老年期の加齢に伴う変化のメカニズムを人体の機能・構造から理解し、アセスメントの方法を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を捉える ・複数の疾患を持つ高齢者の特徴理解 ・事例を挙げて看護展開する
2	老年期の看護過程について 事例紹介		
3	老年期の看護過程展開	クラスタリング アセスメント 関連図 看護計画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達課題 ・残存機能を活かした計画立案 ・老年期の特徴を活かし、目標志向型の看護過程を展開する
4	〃		
5	〃		
6			
7			
8			<ul style="list-style-type: none"> ・これまで生きてきた長い時間を受け止め、肯定し、喪失体験やできないことばかりに目を向けるのではなく、今できている事、好きな事得意なことなどを、本人の強みとしてとらえその人らしさ、価値観を大切にすることを重視する。
9	発表	発表 ディスカッション	
10			

[使用テキスト]

堀内ふき 編:ナーシンググラフィカ
老年看護学①高齢者の健康と障害
堀内ふき 編:ナーシンググラフィカ
老年看護学②高齢者看護の実践

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験100%
学習態度・授業参加状況・レポート提出状況を加味する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護方法論Ⅲ	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	徳竹 律子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

疾患がある小児とその家族を対象に、根拠に基づいた看護過程展開の方法を、主にペーパーシミュレーションによる演習を通じて展開方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 小児の主な疾患事例の対象と家族に必要な情報を系統的に収集できる。
2. 収集した情報に対してアセスメントができる。
3. 対象の状態を看護診断し、目標設定できる。
4. 看護計画が立案できる。

【準備学習】

小児期の特徴、疾患に罹患している小児や保護者の思いを想起し、事例をもとに調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児の主な疾患事例を用いた看護過程の展開	1. ガイダンス 1) 事例1: 幼児期の子どもの看護(気管支喘息) 2) 事例2: 学童期の子どもの看護(ネフローゼ症候群)	ピアジェの認知発達理論を学習し健康障害の影響を学ぶ。
2	"	事例1: 幼児期の子どもの看護(気管支喘息) 実習記録に沿って情報を整理する。	【演習1】 領域1.4について情報を分析する。
3	"	事例1: 問題を明確化し、看護計画を作成する。 ディストラクション/プレパレーション計画	【演習2】 パワーポイントで発表資料を作成する。
4	"	事例2: 学童期の子どもの看護(ネフローゼ症候群) 実習記録に沿って情報を整理する。	【演習3】 領域1.2.3.4.6.7.8について情報整理。
5	"	事例2: 学童期の健康管理/学習活動/自尊心 第4回の情報に沿ってアセスメントする	【演習4】 グループ毎に担当箇所をアセスメント。
6	"	事例2: 関連図と看護計画 学童期の健康管理を作成する。	【演習5】
7	"	発表① 事例1: 幼児期の子供の看護(気管支喘息) ・ジェット吸入を嫌がる幼児に対する援助 ・幼児期の感染予防行動に対する工夫 ・遊びと看護とコミュニケーション	各グループ毎に学習成果を発表する。
8	"	発表② 事例2: 学童期の子供の看護(ネフローゼ症候群) ・具体的操作位～形式的操作位相における健康知覚/健康管理への支援 ・入院生活における学習活動/気分転換支援とコミュニケーション	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

中野 綾美 編: ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 中野 綾美 編: ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 中村 友彦 編: ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護	1) 科目終了時の最終試験(筆記試験)の評価: 90% 2) プレパレーション評価: 10% 学習態度 授業参加状況 (遅刻・早退を含む)
--	---

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護演習Ⅶ(小児)	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	徳竹 律子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 小児領域に必要な看護技術について、シミュレーション教材等を使用し、主体的に学び技術の習得を目指す。 リフレクション(Reflection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考え深める内容とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。 3. 自己の看護観を言語化できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。</p> <p>【実務経験】森:看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】 リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児看護学領域技術演習オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	モデル人形を使用しての観察・技術演習 子どもの検査・処置 子どものフィジカルイグザミネーション 子どもの検査・処置 小児看護技術 ・プレパレーション ・ディストラクション ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントが出来る。
2		2) 模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出	
3	小児看護学領域 技術演習	3) 援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	
4		4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正	
5			
6	小児看護学実習 振り返り演習	6) 演習 グループワーク・個人ワーク	
7		7) 小児看護学実習振り返り発表会 〃	
8			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
実習で使用したテキストなど		1) 授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価: 100% ※看護演習Ⅶ(小児) 小児看護学実習振り返り発表	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態			
母性看護方法論Ⅱ (産褥・育児)	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習			
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者			
15回	1単位(30時間)	必須	高橋 美佐子(非常勤) (実務経験有)			
<p>[授業の目的・ねらい] 本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、産褥および育児期にある女性の心身の変化を捉えてアセスメントし、基礎的看護実践能力を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 産褥期・育児期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。 2. 産褥期・育児期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。 3. 産褥期・育児期にある女性および新生児の看護過程展開につながるアセスメント項目について説明できる。</p> <p>【実務経験】高橋美佐子:助産師およびとして5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容をテキストによる予習。また、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>						
[授業の内容]						
回	単 元	内 容	学習のポイント			
1 2	新生児の看護	1) 新生児の生理学的適応 2) 早期新生児の看護ケア	中性温度環境、生理的黄疸			
3		産褥期の身体的変化と適応		全身の変化、生殖器の変化		
4						
5					・子宮収縮状態の観察	子宮底の高さ、硬さ 排泄、活動と休息 栄養、家族計画 母親役割の獲得
6					産褥期のフィジカルアセスメントと看護ケア	
7					産褥期の心理社会的変化	
8 9		帝王切開後の産褥の看護ケア				
10 11 12		母乳育児と看護		1) 乳汁分泌のメカニズム 2) 母乳育児支援	乳汁分泌を促すホルモン ラッチ・オン	
13 14 15				産後の生活支援		産褥期の生活
	1) 退院後の生活 身体の回復と児の生活に合わせた生活 新しい生活を受け入れる環境 2) 家族と他職種との協働と連携について 3) 母子を支える制度等		退院支援 母子保健法			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)				
横尾京子他:ナーシング・グラフィカ母性看護学①, メディカ出版, 2016.		1)最終試験評価:100% (態度・出席率含む)				

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
母性看護方法論Ⅲ (看護過程)	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	高橋 美佐子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、褥婦および育児期にある女性の心身の変化を捉えてアセスメントし、基礎的看護実践能力を習得する。また、紙上事例演習では、授業方法として演習も取り入れるので、臨場感を持って真摯に学ぶことを期待する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 産褥期・育児期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。 2. 産褥期・育児期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。 3. 産褥期・育児期にある女性をゴードン適応看護モデルを用いた紙上事例による展開ができる。</p> <p>【実務経験】松本:助産師および保健師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容をテキストによる予習。また、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	事例による看護過程の展開	母性看護における看護過程	母性とは、母性看護とは 女性のライフサイクル、マタニティサイクル
2		母性看護の特徴 母性看護の対象 マタニティサイクルにおける看護の特徴 ウェルネス看護診断	
3		妊婦の事例展開	
4		切迫早産妊婦の看護過程 事例提示 アセスメント(1次～2次アセスメント、関連図) 問題の明確化(看護診断と看護問題) 看護計画(看護目標、計画立案)	
5		産婦の事例展開	
6		正常褥婦の看護過程 事例提示 アセスメント(1次～2次アセスメント、関連図) 問題の明確化(看護診断と看護問題) 看護計画(看護目標、計画立案)	
7		グループ発表および意見交換	
8			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
横尾京子他:ナースン・グラフィカ母性看護学①, メディカ出版, 2016.		1)科目終了時の最終試験(筆記試験)の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護演習Ⅷ(母性)	看護学科/3年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	朝倉 禎子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 母性領域に必要な看護技術について、シミュレーション教材等を使用し、主体的に学び技術の習得を目指す。リフレクション(Reflection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考えを深める内容とする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。 3. 自己の看護観を言語化できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。</p> <p>【実務経験】朝倉禎子:助産師・看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】 リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	母性看護学領域技術演習 オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	リフレクション レポート作成
2	母性看護学領域	2) 看護技術	
3	技術演習	レオポルド触診法	
4	〃	腹帯の巻き方 産褥子宮モデル 児頭の回旋と分娩の進行 新生児の沐浴(沐浴、おむつ交換、抱き方)	
5	〃	3) 沐浴技術試験	
6	母性看護学実習	5) 深めたい内容の明確化	
7	振り返り演習	6) 演習 グループワーク・個人ワーク	
8		7) 母性看護学実習振り返り発表会 〃	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
実習で使用したテキストなど		1) 授業態度、参加状況を含む評価表に基づく評価: 100% ※看護演習Ⅷ(母性) 母性看護学実習振り返り発表	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
精神看護方法論Ⅰ (症状別看護)	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	非常勤講師 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

精神の健康障害を持つ対象として捉え、患者自身の抱える精神症状や状態の理解と、検査および治療における看護について学ぶ。精神看護の基本的な考え方や援助方法を理解し、対象の立場に身を置き相手の感じ方や見方・考え方に理解を示すこと(共感的理解)で、対象のみではなく家族をアセスメントできる視点を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 当事者にとって「精神を病む」体験とはどのようなものか説明できる。
2. 精神看護の「症状・状態のとらえ方」について説明できる。
3. 精神障害者の基本的な症状(思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶など)の、さまざまな精神症状について説明できる。
4. 精神科における診断および治療について説明ができる。

【実務経験】看護師として5年以上の実務経験。

看護実践経験を教材とし、学生が学びやすいよう授業方法を工夫する。

【準備学習】

前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いて予習して授業に臨む。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	精神症状と診断・分類	1. 精神症状について	
2		2. 精神疾患の診断と分類	
3	主な精神疾患と看護	3. 精神作用物質による精神障害	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント
4		1) 統合失調症	
5		2) 神経症性障害	* 気質性精神障害には、どのようなものがあるのか
6		3) 心的外傷後ストレス障害(PTSD)	
7		4) 心的外傷後ストレス障害(PTSD)	
7		5) 人格(パーソナリティ)障害	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント
8	医学的検査と心理検査	4. 医学的検査と心理検査	
		1) 臨床検査における看護の役割 2) 心理検査の種類とその特徴について	医学的検査と心理検査の種類を整理しておこう
9	精神科における治療 に対する看護	5. 精神医療における治療の考え方	
10		6. 精神科治療に関わる療法の特徴	
		1) 薬物療法・電気けいれん療法(ECT)	向精神薬の種類を整理しておこう
		2) 精神療法 3) 社会療法・環境療法	行動制限、無断離院、SST
11	嗜癖・依存・反社会的行動	7. 嗜癖と依存と反社会的行動との関係と 治療および看護の特徴	
12		1) アルコール依存症 2) 薬物依存 3) 逸脱行動	精神依存と身体依存 家族への援助
		4) 精神作用物質による精神障害	病態・症状・治療と患者・家族への看護のポイント
13	プロセスレコード	9. プロセスレコード	
14		1) 対象者との関係を客観視するための プロセスレコード 2) 対象の理解、ニーズの判断、 必要とされる援助の実施と評価	患者-看護師関係をアセスメント
15	まとめ	まとめ 上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本
メディカ出版
・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践
メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護研究 I (基礎)	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	榊原 智子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>研究とは、新しい知識を発見し、一般化していく営みであり、看護職者が専門職として自律するために欠かせない領域である。本科目は「看護の統合分野」として位置づけ、「看護研究」とは何か、看護研究の種類、あるいは研究論文を臨床の場で活用するために、最近の研究の動向や研究方法の特徴・進め方に関する基礎的知識を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における研究の意義と目的を理解し説明ができる。 2. 研究過程を理解し、研究目的に適したデザインを説明できる。 3. 文献活用の必要性和文献検索の方法を理解して文献検索ができる。 4. 事例研究の意義と研究計画書の作成方法を説明できる。 5. 研究における倫理上の配慮と責務を認識して説明ができる。 <p>【実務経験】榊原智子: 看護師として5年以上の実務経験。 研究の基礎的知識の習得と興味関心がもてるよう、学生の能動的学習の促進を図る。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習と次回の授業内容についてテキストを用いた予習、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護研究とは	1) 看護研究の目的、意義 2) 研究デザイン	研究デザイン
2	ケーススタディ①	ケーススタディの目的	実践から生まれる研究疑問
3	ケーススタディ②	ケーススタディのプロセス	
4	中範囲理論①	主要な中範囲理論 グループワーク	看護のメタパラダイム
5	中範囲理論②	まとめ・発表	
6	文献検索	文献検討の意義・検索方法	医学中央雑誌
7		論文検索の方法・文献の種類	CiNii・Pub Med
8	クリティーク①	クリティークとは	文献レビュー
9	クリティーク②	クリティークするための能力	測定ツールの信頼性と妥当性
10	看護研究の倫理的配慮	研究における倫理的配慮	研究者としての倫理
11	看護研究のお作法	引用の仕方 エビデンスの使い方	指導を受けるコツ
12	4年生の看護研究聴講 〃	研究の構成	発表者としての態度
13		発表方法	質疑応答の仕方
14	口頭発表・まとめ	1) 口頭発表の原稿作成ポイント 2) スライド作成ポイント	研究計画の書き方
16	まとめ	クリティークしながら文献を読む	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
川村 佐和子編: ナーシンググラフィカ基礎看護学④ 看護研究		1) 科目終了試験 80% 2) グループ学習の参加度と発表 20%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
成人・老年看護学Ⅱ実習 (急性期・回復期)	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 時 間 数	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	榑原 智子 他 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>成人・老年看護学Ⅱ実習では、成人・老年領域の知識・技術を統合し、急性期から回復期にある対象の健康生活をアセスメントし、対象の健康レベルに応じた看護援助を展開する。急性期から回復期、周手術期の看護も含み、看護実践を通じて成人期・老年期にある患者・家族における看護専門職の役割について学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象のもつ問題を把握することができる。 2. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護過程を展開できる。 3. 急性期から回復期にある対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 <p>【実務経験】榑原智子他：看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p>実習病院において、治療をうける成人・老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。 その間、受け持ち患者の健康レベル(急性期、回復期)とその症状に応じて看護を行う。 (詳細については、実習手引き参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場において、急性期から回復期にある対象を総合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程展開する基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・疾病の成り立ち①～④、成人看護学概論 成人看護学方法論①～⑥で使用したテキスト I・II ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (評価においては評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
成人・老年看護学Ⅲ実習	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必 須	榊原 智子 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>成人・老年看護学Ⅲ実習では、成人老年看護学領域の知識・技術を統合し、対象の特徴を理解し、健康生活をアセスメントし、対象のQOL・健康レベルに応じた看護援助を展開する。また化学療法、放射線療法、臨死期にある看護も含みチーム医療、他職種との連携協働し、社会資源の活用などを通して成人・老年期にある患者・家族の看護について学習する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象のもつ問題を把握することができる。 2.対象の健康レベルに応じた看護過程を展開できる。 3.対象の健康レベルに応じた看護ケアを実践し、評価することができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 <p>【実務経験】榊原智子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p style="text-align: center;">＜実習展開＞</p> <p>実習病院において、治療をうける成人・老年期患者を受け持ち、以下の目標にそって実習を行なう。 その間、受け持ち患者の健康レベルとその症状に応じて看護を行う。</p> <p style="text-align: center;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場において、成人・老年期にある対象を総合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程を展開する基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・疾病の成り立ち①～④、成人看護学概論 成人看護学方法論①～⑥で使用したテキスト I・II ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
成人・老年看護学Ⅳ実習 <small>(継続看護・リハビリテーション)</small>	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	山下 美紀 他(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の発達段階と加齢の現象および健康障害による問題を把握し、統合的に理解する。 2. 対象とその家族に応じ、臨床現場の実際に即した看護が展開できる能力を養う。 <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象の持つ問題を把握することができる。 2. リハビリテーションを受ける対象者のセルフケア能力をふまえ、看護計画を立案し残存機能を活かした日常生活援助ができる。 3. 対象者が家族とともに地域社会で健康的な生活を安心して営めるよう継続した看護援助ができる。 4. 看護に携わる専門職としての使命と責任を自覚して自己の老年観を見出すことができる。 <p>【実務経験】山下美紀他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容]</p> <p>実習病院において、検査・治療・処置などを受ける老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。</p> <p style="text-align: center;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージにおける成人・老年期の発達課題を考えることができる。 2. 成人・老年期の特性を理解し、その人の社会的役割や生きがい等を知ることができる。 3. リハビリテーションの目的・方法を理解し日常生活に応用ができる援助を考えることができる。 4. 二次障害の予防や機能を最大限に維持し、ADLの獲得、QOLの向上、社会生活の介入について援助することができる。 5. 地域社会で健康的な生活を営めるよう継続した看護援助ができる。 6. 社会資源の活用法を学ぶことができる。 7. 退院支援・退院調整における看護師の役割について説明できる。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
老年看護学概論老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱで使用したテキスト及び演習で配付した資料など ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護学実習	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (60 時間)	必須	徳竹 律子他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 小児の成長発達を理解し、健全な育成をめざしてあらゆる健康段階にある小児および家族に対して適切な看護が実践できる能力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.健康な小児の身体的、心理・社会的発達の特徴を理解し、発達段階に応じた基本的生活の自立と保育の基本が把握できる。 2.健康障害がある小児の発達段階、健康レベル、小児をとりまく家族の状況を理解し看護を展開できる。 3.健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助を実施する。 4.保健医療福祉チームにおける看護の役割と連携方法を理解し、チームの一員としての態度を身につける。 <p>【実務経験】徳竹律子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p>			
<p>[授業の内容]</p> <p style="text-align: center;">＜実習展開＞ 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習(1週間) <ol style="list-style-type: none"> 1)保育所での実習で、健康な小児(乳幼児)の成長発達を把握する。 2)発達段階に応じた基本的生活の自立と保育の基本を把握する。 2. 病院の病棟実習(1週間) <ol style="list-style-type: none"> 1)健康障害がある小児の発達段階、健康レベル、小児を取り巻く家族の状況を理解し、看護を展開する。 2)健康障害がある小児の健康レベル、発達段階に応じた援助を実施する。 3. 病院の外来実習、病棟及び病棟の未熟児室をローテート <ol style="list-style-type: none"> 1)保健医療福祉チームにおける看護の役割と連携方法を理解し、チームの一員としての態度を身につける。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良間美保:系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 ・NANDA-I看護診断 ・配布した資料等 		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
母性看護学実習	看護学科/3年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (60 時間)	必須	朝倉 禎子 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性の特徴を身体的・精神的・社会的に認識し、看護理論とフィジカルアセスメント結果を用いて対象(妊婦、産婦、褥婦、新生児)の健康問題・課題について看護判断し看護を実践できる能力を養う。 保健医療福祉との連携・協働を前提とした看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。 <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護対象者を経過(妊娠、分娩、産褥期)に応じて理解し、援助(看護過程の展開)ができる。 臨地実習を通して自己の母性や父性について考え、生命倫理について認識できる。 母子相互作用を理解し、褥婦の健康・生活の維持と母子関係成立への援助ができる。 保健医療福祉との連携・協働を前提とした看護チームの一員として報告・連絡・相談ができる。 <p>【実務経験】松本美称:助産師・看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容]</p> <p style="text-align: center;"><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 周産期にある母子を受け持ち、看護過程を展開する。 実習部署は、産科病棟をはじめ、産婦人科外来、分娩室、新生児室にて実習する。 分娩があれば産婦の理解を得て、分娩第1期～分娩後2時間までの経過を見学実習する。 個別・集団指導の見学、及び必要に応じて企画・実施する。 実習前に基本技術、基本知識のプレテスト、終了時に同様のポストテストを行い、評価に反映させる。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
疾病治療学Ⅲ(周産期疾患)、母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲで使用したテキスト及び演習で配付した資料など		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

令和7年度
授業進度計画

令和7年4月1日発行

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校

令和7年度

授業進度計画

(シラバス)

4年次

学校法人 穴吹学園 穴吹医療大学校

看護学科

目 次

教育課程表	1
カリキュラム構造図	3
4年次	
倫理学Ⅱ	4
看護と法律	5
地域・在宅看護方法論Ⅱ(展開)	6
看護演習Ⅲ(在宅)	7
精神看護方法論Ⅱ(生活)	8
精神看護方法論Ⅲ(看護過程)	9
看護演習Ⅸ(精神)	10
看護管理論Ⅰ	11
看護管理論Ⅱ	12
災害看護論	13
国際看護論	14
看護研究Ⅱ(実践)	15
看護の展望	16
救急蘇生法Ⅲ	17
看護演習Ⅹ	18
看護演習Ⅺ	19
総合看護セミナーⅠ	20
総合看護セミナーⅡ	21
総合看護セミナーⅢ	22
臨地実習	
生活援助実習	23
精神看護学実習	24
地域・在宅看護論実習	25
看護の統合と実践実習	26

別表1-1 看護学科/4年制

(令和4年度入学生)

(2/2)

教育内容		授業科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
		科目名						
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護方法論Ⅰ(呼吸・循環)	1	30		30		
		成人看護方法論Ⅱ(アレルギー・血液)	1	20		20		
		成人看護方法論Ⅲ(脳・代謝)	1	30		30		
		成人看護方法論Ⅳ(消化器・生殖・胃がんOP看護過程)	1	30		30		
		看護演習Ⅳ(成老Ⅰ:技術・リフレク)	1	15		15		
		看護演習Ⅴ(救急蘇生法)	1	15			15	
		小計	7	170	30	125	15	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護方法論Ⅰ(運動・腎)	1	15		15		
		老年看護方法論Ⅱ(生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	1	30			30	
		老年看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	20			20	
		看護演習Ⅵ(成老:技術・リフレク)	1	15			15	
		小計	5	110	30	15	65	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
		小児看護方法論Ⅰ(発達段階別)	1	30		30		
		小児看護方法論Ⅱ(症状別看護)	1	30		30		
		小児看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15			15	
		看護演習Ⅶ(小児:技術・リフレク)	1	15			15	
		小計	5	120	30	60	30	
母性看護学	母性看護学概論	1	30		30			
	母性看護方法論Ⅰ(妊娠・分娩・新生児)	1	30		30			
	母性看護方法論Ⅱ(産褥・育児)	1	30			30		
	母性看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15			15		
	看護演習Ⅷ(母性:技術・沐浴演習・リフレク)	1	15			15		
	小計	5	120		60	60		
精神看護学	精神看護学概論	1	30		30			
	精神看護方法論Ⅰ(症状別看護)	1	30			30		
	精神看護方法論Ⅱ(生活)	1	30				30	
	精神看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15				15	
	看護演習Ⅸ(精神:技術・リフレ)	1	15				15	
	小計	5	120		30	30	60	
看護の統合と実践	看護管理論Ⅰ(医療安全)	1	15					15
	看護管理論Ⅱ(看護マネジメント)	1	15					15
	災害看護論(トリアージ含む)	1	30					30
	国際看護論	1	15					15
	看護研究Ⅰ(基礎)	1	30			30		
	看護研究Ⅱ(実践・研究発表含む)	1	30					30
	看護の展望(学会参加・看護観発表会含む)	1	30					30
	救急蘇生法Ⅰ(日赤救急法含む)	1	15		15			
	救急蘇生法Ⅱ(BLS研修含む)	1	30					30
	看護演習Ⅹ(生活:技術・リフレ)	1	20					20
	看護演習Ⅺ(統合:技術・リフレ)	1	30					30
	総合看護セミナーⅠ(総合看護過程Ⅰ)	1	30					30
	総合看護セミナーⅡ(総合看護過程Ⅱ)	1	30					30
総合看護セミナーⅢ(卒業前演習)	1	20					20	
	小計	14	340		15	30	295	
臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習(対象理解)	1	45	45				
	基礎看護学Ⅱ実習(日常生活援助)	2	90		90			
	地域看護学実習(居場所・産業・行政)	1	45				45	
	地域・在宅看護論実習	2	90					90
	成人・老年看護学Ⅰ実習(看護過程展開)	2	90		90			
	成人・老年看護学Ⅱ実習(急性期・回復期)	2	90			90		
	成人・老年看護学Ⅲ実習(慢性期・終末期)	2	90			90		
	成人・老年看護学Ⅳ実習(リハビリテーション・継続看護等)	2	90			90		
	小児看護学実習	2	60				60	
	母性看護学実習	2	60				60	
	精神看護学実習	2	90					90
	生活援助実習(施設等)	2	90					90
	看護の統合と実践実習	2	90					90
	臨地実習 計	24	1020	45	180	435	360	
総合計			125	3400	860	905	830	805

別表1-1 看護学科/4年制

(令和4年度入学生)

(2/2)

教育内容		授業科目	単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
		科目名						
専門分野	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			
		成人看護方法論Ⅰ(呼吸・循環)	1	30		30		
		成人看護方法論Ⅱ(アレルギー・血液)	1	20		20		
		成人看護方法論Ⅲ(脳・代謝)	1	30		30		
		成人看護方法論Ⅳ(消化器・生殖・胃がんOP看護過程)	1	30		30		
		看護演習Ⅳ(成老Ⅰ:技術・リフレク)	1	15		15		
		看護演習Ⅴ(救急蘇生法)	1	15			15	
		看護演習Ⅵ(成老Ⅱ・Ⅲ:技術・リフレク)	1	15			15	
		小計	8	185	30	125	15	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			
		老年看護方法論Ⅰ(運動・腎)	1	15		15		
		老年看護方法論Ⅱ(生活支援・意思決定支援・認知症・がん・難病)	1	30			30	
		老年看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	20			20	
		小計	4	95	30	15	50	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30			
		小児看護方法論Ⅰ(発達段階別)	1	30		30		
		小児看護方法論Ⅱ(症状別看護)	1	30		30		
		小児看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15			15	
		看護演習Ⅶ(小児:技術・リフレク)	1	15			15	
		小計	5	120	30	60	30	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		
		母性看護方法論Ⅰ(妊娠・分娩・新生児)	1	30		30		
		母性看護方法論Ⅱ(産褥・育児)	1	30			30	
		母性看護方法論Ⅲ(看護過程)	1	15			15	
		看護演習Ⅷ(母性:技術・沐浴演習・リフレク)	1	15			15	
		小計	5	120		60	60	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		
		精神看護方法論Ⅰ(症状別看護)	1	30			30	
		精神看護方法論Ⅱ(生活)	1	30				30
精神看護方法論Ⅲ(看護過程)		1	15				15	
看護演習Ⅸ(精神:技術・リフレ)		1	15				15	
小計		5	120		30	30	60	
看護の統合と実践	看護管理論Ⅰ(医療安全)	1	15				15	
	看護管理論Ⅱ(看護マネジメント)	1	15				15	
	災害看護論(トリアージ含む)	1	30				30	
	国際看護論	1	15				15	
	看護研究Ⅰ(基礎)	1	30			30		
	看護研究Ⅱ(実践・研究発表含む)	1	30				30	
	看護の展望(学会参加・看護観発表会含む)	1	30				30	
	救急蘇生法Ⅰ(日赤救急法含む)	1	15		15			
	救急蘇生法Ⅱ(BLS研修含む)	1	30				30	
	看護演習Ⅹ(生活:技術・リフレ)	1	20				20	
	看護演習Ⅺ(統合:技術・リフレ)	1	30				30	
	総合看護セミナーⅠ(総合看護過程Ⅰ)	1	30				30	
	総合看護セミナーⅡ(総合看護過程Ⅱ)	1	30				30	
	総合看護セミナーⅢ(卒業前演習)	1	20				20	
小計	14	340		15	30	295		
臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習(対象理解)	1	45	45				
	基礎看護学Ⅱ実習(日常生活援助)	2	90		90			
	地域看護学実習(居場所・産業・行政)	1	45			45		
	地域・在宅看護論実習	2	90				90	
	成人・老年看護学Ⅰ実習(看護過程展開)	2	90		90			
	成人・老年看護学Ⅱ実習(急性期・回復期)	2	90			90		
	成人・老年看護学Ⅲ実習(慢性期・終末期)	2	90			90		
	成人・老年看護学Ⅳ実習(リハビリテーション・継続看護等)	2	90			90		
	小児看護学実習	2	60			60		
	母性看護学実習	2	60			60		
	精神看護学実習	2	90				90	
	生活援助実習(施設等)	2	90				90	
	看護の統合と実践実習	2	90				90	
	臨地実習 計	24	1020	45	180	435	360	
	総合計			125	3400	860	905	815

カリキュラム構造図

教 育 理 念

教 育 目 標

統合分野	在宅看護論	在宅看護論概説、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、リフレクションⅤ	
	看護の統合と実践	看護管理論、地域看護学、国際看護論、看護研究Ⅰ・Ⅱ、看護の展望 救急蘇生法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、災害看護論、看護技術演習Ⅰ～Ⅳ、 総合看護セミナーⅠ・Ⅱ、	
	臨地実習	地域看護学実習、在宅看護論実習、看護の統合と実践実習	
専門分野Ⅱ	精神看護学	リ精神看護学Ⅳ 精神看護学Ⅱ 精神看護学Ⅱ 精神看護学Ⅰ 小児看護学Ⅲ	
	小児看護学	リ小児看護学Ⅲ 小児看護学Ⅲ 小児看護学Ⅱ 小児看護学Ⅰ 成人看護学	
	成人看護学	リ成人看護学Ⅱ 成人看護学Ⅴ 成人看護学Ⅳ 成人看護学Ⅲ 成人看護学Ⅱ 成人看護学Ⅰ	
	老年看護学	リ老年看護学Ⅱ 老年看護学Ⅲ 老年看護学Ⅱ 老年看護学Ⅰ 母性看護学	
	母性看護学	リ母性看護学Ⅲ 母性看護学Ⅱ 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅰ	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	臨地実習 基礎看護学実習Ⅱ 看護過程 臨地実習 基礎看護学実習Ⅰ 対象理解 リフレクションⅠ 実践した看護を振り返り探求する 臨床援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 与薬、検査・治療、健康レベル、経過別・症状別、看護過程 基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護技術(環境・活動・食事・排泄・清潔) 基礎看護学技術論Ⅰ・Ⅱ 看護技術(共通技術・安全・感染) 基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ 概念、機能と役割、歴史、倫理、医療の安全、看護論、国際看護	
	専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	看護と法律、公衆衛生学、社会福祉・社会保障論、保健指導論 看護疫学・保健統計
		疾病の成り立ちと回復の促進	健康科学概論、病理学、感染防御学、臨床薬理学 疾病治療学Ⅰ～Ⅴ、リハビリテーション論
		人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ～Ⅲ、人体の機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床生化学、臨床栄養学
	基礎分野	人間の生活・社会の理解	倫理学、法学概論、家族社会学、英語コミュニケーション コミュニケーショントレーニングⅠ～Ⅲ、人間理解の基礎、手話講座
		科学的思考の基盤	教育心理学、教育原理、教育方法論、論理的思考の基礎、 看護物理学、情報科学概論、コンピュータ情報処理演習、医療社会経済学

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
倫理学Ⅱ	看護学科/ 4年次	令和7年度/	○講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (16 時間)	必須	入江祐加

[授業の目的・ねらい]

1. 本科目は、人間そのものに対する知的好奇心と知的探究心を高め、学ぶ意義を実感することを目的とする。また、広い意味で「人間」を学ぶことを通じて、人として生きていく上でまた看護者として働く上で大切な幅広い教養と問題発見・解決力などの汎用的能力を身につけることを目指す。
2. 西洋の思想をひと通り理解し、哲学を学ぶうえでの最低限の知識を身につけたうえで、看護者として人に真剣に向き合い、新しい問題に直面した際にも、正しく思考し、適切な判断を下すことができるようになる。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 過去の哲学者の思考を追体験し、新しい問題にも対応することができる。
2. 講義で紹介するキーワードを自身の言葉で説明でき、看護者が習得すべき倫理観と関係づけて自分の頭で考えることができる。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	倫理とは何か?	講師の自己紹介、およびそれに関連してヘーゲル『法の哲学』におけるミネルヴァのフクロウについて議論	
2	良いことと悪いことはだれが決める?	絵本『空をつくる』について意見交換	
3	考えることについて考える	エルサレムのアイヒマンとハンナアーレントについて解説	
4	哲学カフェ「自由」	自由についてディスカッション	
5	考えることについて考える	ソクラテスとソフィストの違いについて解説	
6	哲学カフェ「真」	真についてディスカッション	
7	あるべきことはあるか?	倫理の根拠となるものについてディスカッション、および「審級」という考え方について解説	
8	8回のまとめ	絵本『ピングー』について意見交換	

[使用テキスト]

プリントを配布する

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

授業の態度およびレポートによって評価する。

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護と法律	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	奈良 育代 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

医療・看護に関係する法と制度について学ぶ。特に、保健師助産師看護師法の理解をはじめ、さらに推進されていく多職種連携の中で看護を実践していくにあたって理解しておきたい法令、人々の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健医療福祉サービスを評価し調整するために必要な、保健医療福祉の法的基盤を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護職の身分、活動を保健師助産師看護師法に基づき説明できる。
2. 保健医療福祉の関係機関や関係職種の機能や役割を説明できる。
3. 生活者の健康を守る医事、薬事、保健衛生、生活衛生、社会福祉関連法規の目的、理念について説明できる。

【実務経験】奈良 育代: 看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護管理者・看護師の経験を教材とし学生が学びやすい工夫をする。

【準備学習】授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	法規の概念	1)人間の生活と法律 2)法律の基礎知識 3)生活者の健康と法律	法規の分類
3 4	看護職員に関する法律	1)保健師助産師看護師法	保健師・助産師・看護師の法的役割 名称独占、業務独占 守秘義務
5		2)看護師等の人材確保の 促進に関する法律	
6 7	医療提供に関連する法律	1)医療法	
8 9	医療職・福祉職に関する 法律	医師法・歯科医師法・ 薬剤師・歯科衛生士・ 理学療法士・作業療法士・ 言語聴覚士・救命救急士 臨床検査技師・栄養士 介護福祉士・社会福祉士	関係職種の役割を法的根拠に基づき 理解 理解
10 11	疾病予防・健康増進に 関連する法律	1)保健衛生法規の概要 2)保健衛生法規の概要	
11 12		3)社会福祉関連法規の概要 4)労働関連法規の概要	} ・各法令の目的、理念の理解 ・関係機関や関係職種の理解
13 14		1)国の政策と看護の動向 2)国の政策と看護の動向	
15	まとめ 試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

今西 春彦他: ナーシンググラフィカ
健康支援と社会保障④ 医療関係法規

[参考文献]

- ・門脇豊子編: 看護法令要覧、日本看護協会出版会
- ・看護六法

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価 100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
地域・在宅看護方法論Ⅲ(展開・演習)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	松原 文子(非常勤)／林 晶子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>疾病や障害をもちながら在宅で療養する在宅療養者と家族を生活者と捉え、看護における生活支援の実際を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1. 在宅看護を必要とする療養者と家族を支援する社会資源の活用や関連職種との連携について理解できる。</p> <p>2. 訪問看護の事例演習をとおして、在宅療養者・家族の健康や生活状態に応じた生活支援のための具体的援助方法について理解できる。</p> <p>【実務経験】松原文子・林晶子:保健師・看護師として5年以上の実務経験 地域や病院での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う</p>			
[授業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	在宅看護における看護過程	1. 在宅療養者・家族を一単位と捉える	在宅看護の場を知る 在宅看護の仕組みを知る 在宅看護の方法を知る
2		2. 在宅看護を学ぶ3つの視点	
3	社会資源の活用	1. 社会資源とは何か 【3-4回 松原文子】	・社会資源の種類 ・介護保険制度、障害者自立支援法 ・訪問看護制度 ・居宅介護支援センター 地域包括支援センター
4		1) 社会資源とは 2) 制度とサービス 2. 訪問看護ステーションの管理・運営 3. サービス調整・支援機関 4. 通所施設、短期入所施設	
5	家族をみる視点	1. ICFモデル 2. セルフケア理論 3. ウェルネス志向	・ICFモデル 生活機能、心身機能、活動、参加
6	在宅療養者と家族への在宅看護の実際①	1. 長期臥床状態にある療養者と家族への看護(脳血管疾患後遺症)	・残存機能の維持・活用 ・合併症の予防と対策、褥瘡ケア ・社会資源の活用
7		1) アセスメントの視点	
8		2) 療養者・家族への援助のポイント 3) 社会資源の活用	
9	在宅療養者と家族への看護の実際	1. 実習事例による看護過程の展開 各実習グループでまとめる	・アセスメントの視点 ・療養者・家族の理解と援助 ・社会資源の活用、関連職種との連携
11	〃	2. 療養生活から在宅看取りまでの看護の実際	
12	〃	【訪問看護認定看護師 11/12回】	
13	演習内容の検討・発表	事例演習内容のグループ内検討	
14		事例演習内容のグループ間検討	
15	まとめ	まとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・臺 有桂他編:在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・臺 有桂他編:在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 [参考文献] ・単元に関係する看護学のテキスト		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮 3)訪問看護認定看護師の講義受講後のレポート提出	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 看護演習Ⅲ(在宅) (在宅・統合)	学科/学年 看護学科/4年次	年度 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (16時間)	必須	林 晶子他 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護の対象は人間であり、看護の基本理念は「生命の尊重」である。本科目では、在宅看護論実習で体験した事例を素材にして、日々の臨地実習の中から看護の意味と価値を見出し、次の看護につなげていくためにはどうしたらいいのか。このような問題と向き合うために、自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。更に社会で働くチームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師として、看護を統括的に展開・実践できるよう基礎となる理論と実践を関連付けて学びを深める。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 看護リフレクションとは何かについて説明できる。
2. 臨地実習での事例を基に、研究的なリフレクションでの学びを説明することができる。
3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がりを説明できる。
4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。

【実務経験】林晶子:看護師として5年以上の実務経験

学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する

【準備学習】

リフレクション内容をふまえて、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護とリフレクション	1)臨地実習における看護実践と看護経験 2)看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析 →総合→行動計画
2	在宅看護論実習 看護の統合と実践実習	1)リフレクションフレームワーク 2)事例の紹介	看護の基本姿勢の理解 ・人間関係論 ・セルフケア理論 ・家族理論
3	看護リフレクションの実際	1)事例の分析・解釈 2)看護理論の適用	人間の心理行動の理解 ・コーピング理論
4	〃	1)援助の意味、援助の価値 2)行ったケアの評価	・不安、悲嘆、対象喪失 看護援助、患者教育への活用
5	〃	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げ まとめる	・エンパワーメント理論 ・自己効力感 ・ソーシャルサポート
6	学びの共有	1)成果発表会のための準備	・複数事例を受け持ち情報の整理 ・チームメンバー・リーダーシップ
7	プレゼンテーション準備	1)スライドの最終チェック 2)発表原稿作成	・看護実践しながらの時間管理 ・他職種間の情報共有・調整 ・病院組織内の報告・連絡・相談の実際
8	事例発表	1)発表 2)まとめ	・チームとしての看護の役割 ・認定看護師としての院内における役割 文献の活用 振り返り、十分に思考する パワーポイントの仕上げ

[使用テキスト]

- ・臺有桂他編:在宅看護論①
地域療養を支えるケア メディカ出版
- ・臺有桂他編:在宅看護論②
在宅療養を支える技術 メディカ出版

[参考文献]

- ・単元に関係する看護学のテキスト

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)事例発表と参加状況:100%
- ・看護の統合と実践実習50%
- ・在宅看護論実習50%

それぞれ発表と取り組み状況を評価表に基づき評価する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 精神看護方法論Ⅱ (生活)	学科/学年 看護学科/4年次	年度 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	藤野 裕介 宇都宮 武 (非常勤)(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

精神(心)に障害を持つことにより、引き起こされる日常生活行動について、その意味について考えることができ、対象を全人的に把握するために必要な系統的情報について学ぶ。精神保健福祉医療に関する法律の理解と共に、精神看護における援助の実際について学ぶことができる。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 精神科看護における対象を「生活者」として捉えることができる。
2. 精神科看護における「治療的役割」と「日常生活行動の援助」、「服薬管理」について説明することができる。
3. 入院という「生活の場」での治療的かかわりについて説明できる。
4. 精神科におけるレクリエーションの意義、目的、役割について説明することができる。
5. 精神保健福祉に関する法律について説明できる。

【実務経験】藤野裕介他:看護師として5年以上の実務経験

病院における看護実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業の予習をテキストを用いて行う

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	精神科における 世界の潮流	1. 世界の精神科医療の現状【1回～2回:宇都宮】 1) 世界における精神看護の現状 2) 日本の精神医療の現状	*日本と他国との精神科医療の現状を 理解する
2	精神保健福祉 をめぐる法律	2. 精神保健医療にかかわる法制度について 1) 法制度の変遷と基本的な考え方 2) 精神保健福祉法 他	*人権擁護、医療受ける、生活を支える 個人情報の保護 *精神保健福祉法
3	精神科看護における 治療的かかわり	3. 精神科看護における援助の実際について【3回～5回:藤野】 1) 「治療的関わり」:コミュニケーション ①ケアを提供する上での人間関係のポイント ②ケアを通じて自分を知り、対象を理解する 2) 日常生活行動の援助 3) 服薬治療における援助 4) 疾患の特徴と援助	*コミュニケーション *看護師自身のストレス *セルフケアレベル *対人関係の把握 *抗精神薬の有害反応に対する援助 *薬の服薬方法や副作用も含む
4			
5			
6	リハビリテーション *作業療法士の先生による授業	4. 精神科リハビリテーションの考え方【6～7回:作業療法士】 1) 精神科におけるリハビリテーションの 意義・目的・役割・他職種との連携 (看護職に期待すること) 2) レクリエーションの実施方法 3) レクリエーションの実際	*レクリエーション *コラージュ療法
7	〃		
8	精神科看護における	5. 「生活の場」としての治療環境【8回～11回:宇都宮】	*実習を振り返り進めていく
9	援助の方法について	1) 入院治療の意味を理解する 2) 入院の仕方と入院治療の目的 3) 治療的環境をつくる 4) 家族への援助 5) 他職種との連携	*入院治療の目的 *家族背景・生活体験・成育歴 *保護室、閉鎖病棟、開放病棟 *精神科病棟でのミーティング *安定した生活を継続する
10			
11			
12	地域包括ケア	6. 精神看護における地域包括ケア【12回～14回:藤野】 1) 地域包括ケアの現状と課題 2) 地域で生活するための原則 3) 社会資源の活用	*就労継続支援・移行支援等 *訪問看護 *グループホーム *ショートステイ
13			
14	まとめ	7. まとめ	
15	〃	精神看護、精神保健に関する法制度	国家試験問題

[使用テキスト]

- ・出口禎子他編:精神看護学①
情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
- ・出口禎子他編:精神看護学②
精神障害と看護の実際 メディカ出版
- ・他、資料を適宜配布

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%
- 2) 授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 精神看護方法論Ⅲ (看護過程)	学科/学年 看護学科/4年次	年度 令和7年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	奈良 育代/徳竹 律子

[授業の目的・ねらい]
精神に障害を持つ対象とその家族を対象に、根拠に基づいた看護過程の展開の方法を、主にペーパーシミュレーションによる演習を通じて展開方法を学ぶ。
退院後の生活を視野に入れた関わりを退院支援の視点で学ぶ。

- [授業修了時の達成課題(行動目標)]
1. 主な精神疾患事例の対象とその家族に必要な情報を系統的に収集できる。
 2. 収集した情報に対してアセスメントができる。
 3. 対象の状態を看護診断して目標設定でき、看護計画が立案できる。
 4. 退院後の生活を見据えた看護について考察することができる。

【準備学習】
既習学習の想起、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護援助するための技術	1) 看護過程の展開(1-5回) 事例を通じて看護過程の展開 (患者-看護関係を理解) 事例: 統合失調症	
2	"		
3	"		
4	"		
5	"		
6	"	2) 上記事例より 精神保健福祉制度の現状と課題を踏まえて 対象が望む地域生活を送るための支援について 考えることができる	事例を基に退院支援について考える
7	"		
8	"	3) プロセスレコードについて 自分のコミュニケーションについて振り返りができる 精神看護における相互作用についての影響を考察 できる	臨地実習での患者との関り方を考える

[使用テキスト]	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 <p>[参考図書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NANDAインターナショナル、NANDA- I 看護診断 定義と分類、医学書院 	1) 事例発表と参加状況: 100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態																												
看護演習IX (精神)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習																												
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																												
8回	1単位(16時間)	必須	佐藤 洋子/塩山 秀子 他																												
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>精神看護学の対象は、乳幼児期～高齢期に至るすべての人が対象である。本科目では臨地実習で体験した事例分析をとおして、“こころの健康”と心に障害を持つ人と家族のQOL、精神障害者の危機介入に視点をあて、基礎となる理論と実践を関連づけ学びを深める。地域看護学の対象は、地域で生活しているすべての個人・家族、集団とそれらの人々が生活している地域である。臨地実習で体験した事例分析をとおして、地域の潜在している健康問題と住民のエンパワメント、保健医療サービスの公平性と施策化に視点をあて、基礎となる理論と実践を関連づけ学びを深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における心の健康状態を社会の変化と関連付けて、データを示しながら説明できる。 2. 精神障害者と家族のQOLの維持・向上のために活用できる制度やサービスを法的根拠に基づき説明できる。 3. 精神障害者の危機において必要な看護を根拠に基づき説明できる。 4. わが国の人々の健康状態と保健行動の特徴をデータを示して説明できる。 5. 個々の活動事例から地域の潜在している健康問題を住民と共有し住民の主体的な活動する方法について説明できる。 6. 住民の主体的活動の支援や住民に必要な資源・サービス・制度等創る(施策化)のために必要な活動を説明できる。 <p>[準備学習] リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する</p> <p style="text-align: center;">[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 25%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="4">精神看護学実習 看護リフレクションの実際</td> <td>1)リフレクションフレームワーク</td> <td rowspan="4">リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事例紹介</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1)事例の分析・解釈、看護理論の適用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2)看護援助の意味、援助の価値 3)行ったケアの評価</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学びの共有</td> <td>1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる</td> <td>文献の活用 理論の活用 ・対人関係理論 ・アンドゴラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="2">プレゼンテーション準備</td> <td>1)成果発表会のための準備</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2)スライドの最終チェック</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>事例発表</td> <td>1)発表・まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	精神看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画	2	事例紹介	3	1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	4	2)看護援助の意味、援助の価値 3)行ったケアの評価	5	学びの共有	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	文献の活用 理論の活用 ・対人関係理論 ・アンドゴラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング	6	プレゼンテーション準備	1)成果発表会のための準備		7	2)スライドの最終チェック	8	事例発表	1)発表・まとめ	
回	単 元	内 容	学習のポイント																												
1	精神看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画																												
2		事例紹介																													
3		1)事例の分析・解釈、看護理論の適用																													
4		2)看護援助の意味、援助の価値 3)行ったケアの評価																													
5	学びの共有	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	文献の活用 理論の活用 ・対人関係理論 ・アンドゴラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング																												
6	プレゼンテーション準備	1)成果発表会のための準備																													
7		2)スライドの最終チェック																													
8	事例発表	1)発表・まとめ																													
試験	上記終了後 期末試験																														
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																													
適宜紹介する		1)事例発表と参加状況:100%																													

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護管理論Ⅰ (医療安全)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	細川 克美他(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護管理の担い手は看護職自身であり、看護サービスの提供はマイクロ・マクロの視点から複眼的に捉える必要がある。つまり、ベッドサイドあるいは担当地区の業務管理からはじまり制度・政策にまでかかわる。そこで、本科目では<看護マネジメント>として、保健医療福祉における看護の役割と責務を理解し、さまざまな場面で求められる看護マネジメント、変化する社会のニーズに対応できる質の高い看護の提供に向けてのシステム作りを学修する。また<リスクマネジメント>では看護事故防止と情報管理の側面からヒューマンエラーの防止に留まらず組織としてのシステム化からエラーレジスタント・エラートレラントについて看護サービスの質保証との関連から展開する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に求められるマネジメント機能を説明できる。 2. 看護提供のシステムを理解するとともに、新たなシステム作りの必要性を説明できる。 3. 医療現場のリスクマネジメントの基本的な考え方を説明できる。 4. 看護事故防止のために必要な具体的対策について提案できる。 5. 看護倫理、医療倫理、被援助者の権利について自己の見解を述べるができる。 <p>【実務経験】細川克美:看護師として5年以上の実務経験 病院における看護管理実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護とマネジメント	1)人々の生活と看護の役割 【外部講師:細川先生】 2)看護職の活動の変遷	・看護と看護職 ・日本の社会制度における看護職
2	医療安全	1)医療安全の意味 【外部講師:酒井副看護部長】	プライマリーナーシング、モジュール型 パートナーシップ、セル看護提供方式
3		2)法的規定と医療安全 3)医療事故と安全対策 4)医療事故後の対応	
4	看護をとりまく諸制度 ” ”	1)看護組織の活動と倫理 【外部講師:細川先生】	・看護職の倫理綱領
5		2)医療・看護の質改善 3)組織変革とは	
6	マネジメントに必要な知識と技術	1)専門職とは 【外部講師:細川先生】 2)看護職の生涯学習	・ゼネラリストとスペシャリスト ・看護実践の質の向上 認定看護師、専門看護師、特定行為
7	看護サービス管理 における今日的課題	1)看護マネジメントに関係する主な法律 2)看護の関連機関と団体 【外部講師:細川先生】	・保健師助産師看護師法 ・国際看護師協会・日本看護協会
8	まとめ	まとめ 【学内教員】	・看護管理確認テスト
	試験	上記終了後 期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
吉田 千文他編:看護の統合と実践① 看護管理		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)認定看護師講義後 レポート提出	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護管理論Ⅱ (看護マネジメント)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (15 時間)	必須	阿部 慈他(非常勤) (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護管理の担い手は看護職自身であり、看護サービスの提供はマイクロ・マクロの視点から複眼的に捉える必要がある。つまり、ベッドサイドあるいは担当地区の業務管理からはじまり制度・政策にまでかかわる。そこで、本科目では<看護マネジメント>として、保健医療福祉における看護の役割と責務を理解し、さまざまな場面で求められる看護マネジメント、変化する社会のニーズに対応できる質の高い看護の提供に向けてのシステム作りを学修する。また<リスクマネジメント>では看護事故防止と情報管理の側面からヒューマンエラーの防止に留まらず組織としてのシステム化からエラーレジスタント・エラートラントについて看護サービスの質保証との関連から展開する。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 看護に求められるマネジメント機能を説明できる。
2. 看護提供のシステムを理解するとともに、新たなシステム作りの必要性を説明できる。
3. 医療現場のリスクマネジメントの基本的な考え方を説明できる。
4. 看護事故防止のために必要な具体的対策について提案できる。
5. 看護倫理、医療倫理、被援助者の権利について自己の見解を述べることができる。

【実務経験】阿部 慈:看護師として5年以上の実務経験

病院における看護管理実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	〃	1)看護管理の基本 何のために管理をするのか	
2	ケアのマネジメント	1)チーム医療・福祉 【学内教員】	・チーム医療
3	〃	2)他職種理解と連携	・他職種の理解
4	〃	3)協働するための視点とスキル	・チームメンバーとの情報共有と協力
5	〃	4)チームの一員のために求められる行動	
6	看護サービスの	1)マネジメントプロセス 【外部講師:阿部看護部長】	・看護マネジメント
7	マネジメント	2)看護管理システム	・看護マネジメントシステム
		1)組織とその構造・機能	・看護提供システム
		2)分業と協働の仕組み	機能別看護方式、受け持ち看護方式 チームナーシング、固定チームナーシング
8	まとめ	まとめ 【学内教員】	・看護管理確認テスト
	試験	上記終了後 期末試験	

[使用テキスト]

吉田 千文他編:看護の統合と実践① 看護管理

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 2)認定看護師講義後 レポート提出

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
災害看護論 (トリアージ含む)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	奈良 育代 他
<p>[授業の目的・ねらい] 災害に対する知識を深め、災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接にかかわっていることについて学ぶ。 災害等の健康危機の発生時～復旧・復興期に必要な看護活動および平穏期における災害に備えるための看護活動を演習、 地域コミュニティにおける防災訓練に参加する等、体験的に学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1.災害の定義と災害看護の目的を説明できる。 2.災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について説明できる。 3.災害プロセスに応じた看護支援活動について災害体験を通じて説明できる。</p> <p>【準備学習】 授業の復習とシラバスをふまえてテキストにて予習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	災害看護の概要	1)災害看護とは 2)近年の災害(震災)時の看護活動の実際について	
2	災害・災害看護の定義 と目的	1)災害の定義 2)災害の分類と特性	災害の種類と疾病構造
3	〃	3)災害看護の目的 【非常勤講師】 4)自然災害サイクルと災害医療・看護	災害サイクル
4	災害看護制度と システム	1)災害に対する法体系 【非常勤講師】 2)災害支援の制度とシステム	
5	〃	3)災害支援に関する社会資源 4)災害発生時のネットワーク	
6	災害時の支援体制	1)災害ボランティア活動 【非常勤講師】 2)国内外における災害関係機関の支援体制	
7	災害予防対策期の 看護活動	1)個人の備え・集団での備え 【7回:松原先生】 2)避難のための支援必要者・実態把握	地域で災害予防期に行われている 避難訓練に参加する
8	災害応急対策期と 看護活動	1)初動体制 2)救護班・避難所での活動	
9	災害復旧・復興対策期の 看護活動	1)避難所・仮設住宅・在宅支援者への活動 2)PTSDへの対応 【非常勤講師】	
11	災害時に必要な技術	1)トリアージ 【非常勤講師】	病院等で行われている災害発生時の 訓練の実際を体験する DMAT
12	〃	2)応急処置 3)搬送	
13	病院における災害看護	1)病院内での災害看護活動	
14	災害看護に関連する 理論	1)危機理論 【非常勤講師】	
15	まとめ	災害看護に関する問題をもとに知識確認等おこなう	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
酒井 明子他編:看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 必要時資料を配布する		学内外の授業出席ならびに授業への主体的参加と科目終了時の筆記試験をトータルして評価する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
国際看護論	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (16時間)	必須	徳竹律子他

[授業の目的・ねらい]

国際看護には他国における看護実践と、自国において人種、文化、価値観などを異にする在日外国人を対象とした看護実践がある。本科目では国際交流、国際協力における看護職の役割を、異文化の対象について、基本的知識・技術を学ぶ。また、在日外国人との交流を通して他国の文化・保健医療の現状を理解し、今後さらに増加が見込まれている在日外国人への看護と基本姿勢を養う。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. 国際看護活動の支援を必要とする対象と推進する人や機関について説明できる。
2. 国際看護活動の実際の場面で活躍する人の話を聞き、国際社会における日本の役割が説明できる
3. 在日外国人との交流を通して、異文化を対象とした看護の必要性と保健医療の課題について説明できる。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	国際看護とは	1)看護職になぜ国際的な視点が求められるか 2)国際看護の必要性 3)国際社会の現状について	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の活動と歴史 ・WHOの役割 ・異文化看護
2	国内の在日外国人への看護活動	1)「国際看護」と「在日外国人」 2)在日外国人とは 3)在日外国人への看護活動	
3	異文化の対象理解	1)在日外国人が日本で働くということ 2)日本での生活の課題について	
4	在日外国人の理解	1)他国の文化の理解 2)保健医療の現状の理解 3)異なる言語を話す対象の理解 3)日本語学科の学生との交流 4)海外における文化の違いや保健医療福祉について対話する	2コマ 予習(グループ学習) ・国際交流授業に向けて、海外留学生の国の文化や医療福祉制度について予習する ・他国の保健看護の現状を知り在日外国人に対する看護の役割や課題についてグループ学習を行う。
5	国民衛生の動向を読み解く	衛生行政活動の概況 保健医療分野における国際協力 世界保健機構(WHO)	
6	国際看護活動の実際	保健看護分野で活動した経験のある看護職の方より活動内容についての講義	
7	JICAで活躍されている看護職の方の特別講演	特別講演 【うどんハウスNGO 楠川富子先生】 海外における健康観、病気対処行動 活動内容や看護観など	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成 特別講義後の学びのレポート
8	まとめ		
	試験	上記、終了後 期末試験	

[使用テキスト]

[参考図書]

- ・知って考えて実践する国際看護:医学書院
- ・今がわかる時代がわかる世界地図:成美堂
- ・他 適宜資料配布

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 最終試験受験資格:課題レポートを提出している者
事前課題を提出している者

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護研究Ⅱ(実践)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	榊原 智子 他 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

看護研究Ⅰで学んだことを自らの臨床実習経験事例について、「事例研究の手法」を用いてまとめる。これまでに習得した知識・技術・態度を統合して看護研究に取り組み、卒後の研究活動への基礎づくりとするとともに、看護研究は卒後も継続するものである意識を深める。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 事例研究の手法を理解して、倫理的配慮がされた研究計画を立案できる。
2. 研究目的に適したキーワードを使って文献検索ができる。
3. 研究計画書に沿って収集したデータを適切に分析して論理的に考察し論文としてまとめることができる。
4. 研究成果を発表できる。
5. 研究論文をクリティカルに評価できる。

【実務経験】榊原 智子:看護師として5年以上の実務経験

学生の既修得学習内容である研究の基礎的知識をふまえて症例研究が能動的に進められるよう支援する

【準備学習】

看護実践内容をふまえて、症例研究のための調べ学習や文献検討に臨む。主体的に論文を作成し指導を受ける。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	研究方法の検討 オリエンテーション	全体オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究Ⅰの内容の復習 看護研究とは何か 文献レビューは何のためにするのか ・看護研究の進め方について理解ができる ・抄録集作成委員、発表会委員の選出
2	領域ごとの 教員による指導	研究課題 概念枠組み 文献検討 倫理的配慮 研究方法 <ul style="list-style-type: none"> ・事例研究 1事例を深めていく ※質的・量的研究 ・領域 成人・老年看護学実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 母性看護学実習 小児看護学実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究方法 事例研究 事例研究について理解を深める 先行文献は3つ以上確認する ・事例研究を通じて研究とは何かを理解できる A4レポート用紙20枚程度にまとめる ・原則として個人で目的を明確にして「中範囲理論」を使って分析する
	研究の取り組み	研究の枠組み 論文作成 抄録集作成 発表会の企画	
11	研究成果の発表 発表会の運営	研究成果発表会	
	自己評価・他者評価	相互評価	
15	まとめ	研究論文集の作成(製本)	

[使用テキスト]

川村佐和子他編:基礎看護学① 看護研究 メディカ出版
 松本孚・森田夏実:わかりやすいケーススタディの進め方-研究テーマの設定からレポート作成のポイントまで-, 照林社, 2013年

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)最終事例研究論文
- 2)出席状況:遅刻・早退を含む

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護の展望	看護学科/4年次	令和7年度	講義 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	山下美紀・南原由理子 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護学会誌や看護職能集団の活動誌、看護に関連するボランティア団体の活動誌、看護系雑誌等を経年的に熟読したり、実際に活動に参加することにより、最新の研究及び社会の看護への期待を把握し、看護を展望するとともに看護の可能性を考察する。またこれまで受け持った患者の看護実践を振り返り、その患者や家族が本来の生活の場である地域(コミュニティ)で生き生きと暮らすための看護について考察する。そのことを通して自己の看護観を明らかにする。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読することで、最新の研究及び社会が期待する看護の役割を把握する。
2. 看護学会等に参加することで、今後の看護を展望できる。
3. 学外のボランティアに自主的に参加し、住民他多くの他職種の人々とのかかわりを通じて看護に期待されていることを実感し看護の可能性を考察する。
4. 自己理解・他者理解を深め、自己の看護観をまとめて発表することで卒業後の看護実践を自覚する。

【実務経験】山下・南原:看護師として5年以上の実務経験

わが国の動向、看護への期待、研究報告等を活用し、看護を展望するとともに看護の可能性を考察できるよう支援する

【準備学習】事前課題等に取り組み授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	授業のガイダンス	1) 本単元の進め方 2) 学会や学外活動の紹介 3) 各自で学習計画作成	学習内容選択の視点 ・これまでの学習で関心が深まった看護分野 ・現在問題・課題となっている看護 例1. 災害看護 例2. 救急看護 例3. 国際看護 例4. 在宅看護 例5. 認定看護師・専門看護師
2	計画に沿った学習展開 学内学術発表会	1. 学内学術発表会 1) 学内学術発表会に参加 2) 他学科との学びの共有・意見交換 3) レポートの作成と提出	【学内学術集会】 ・卒業前 学内学術集会に参加 ・他職種理解 ・他学科との交流 【参加可能な学会例】 ・香川県内で開催される学会 ・近県で開催される日本看護協会主催の学会 ・近県で開催される災害等看護学会 【看護観発表およびレポートのポイント】 ・学習内容を選択した動機 ・学習経過 ・学び 社会が求めている看護と課題 看護の展望 学生個々の課題と自己研鑽の方向性等 ・自分の看護への思いを自分の言葉で伝えられる どんな看護をしたいか今後の目標
3	〃		
4	計画に沿った学習展開 看護系学会参加	2. 看護系学会の参加 1) 学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読 2) 学会参加(対面またはオンライン) 3) レポートの作成と提出	
5	〃		
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	計画に沿った学習展開 看護観作成	3. 看護観 1) 看護観とは 2) 自身の看護観を明確にする 3) 看護観の作成・明確化 ・なぜ看護師になりたいと思ったのか ・心に残っている看護場面、体験内容 ・なぜそれが心に残っているか考えたこと	
11	〃		
12	〃		
13	〃	4) 教員とのディスカッション	
14	〃	5) 看護観発表 6) 看護観を明確する 個々の課題の明確にする 今後の目標	
15	まとめ	看護の可能性を考察	就職先へ看護観送付 看護師国家試験願書作成 厚生労働省HP・看護協会HP

[使用テキスト]

必要時資料配布

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1) 学外研修・学会参加報告書及び最終レポートの評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
救急蘇生法Ⅲ	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	吉川 圭 (非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>近年,病院施設において病院施設内急変における対応能力の向上が強く求められるようになってきている. 2010 年の「心臓血管蘇生に関する国際ガイドライン2010」では,早期の心肺蘇生開始と早期除細動、つまり一次救命処置の重要性が強調されており,病院施設内においては,心停止から3分以内の電氣的除細動実施を推奨している. 早期に一次救命処置を適切に実施できる医療者として,病院施設内急変の第1発見者になる可能性が最も高い看護師による自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator: AED)を用いた除細動の実施は,救命率の向上に貢献できると考えられる.</p> <p>看護基礎教育においても心肺蘇生法は基本的な看護技術の一つであり,この技術を確実に習得することは有意義である. そこで一次救命処置 (Basic Life Support: BLS) についての知識や技術を深め, BLSの資格を得ることをめざす.</p> <p>[授業修了時の達成課題 (行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急変患者に対しての蘇生技術の理解ができる。 2. 急変患者に対しての蘇生技術の実施ができる。 3. 日本循環器学会によるBLS資格取得をめざす。 <p>【実務経験】吉川圭: 医師ならびに日本循環器学会におけるコースディレクターとして豊富な経験を有する。 科学的根拠もとづく正確な技術習得が図れるよう授業展開する。</p> <p>【準備学習】 救急蘇生に関する既習学習内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	BLSとは	1)授業の進め方 ・ACSへの対応 ・成人を対象とするBLS ・小児を対象とするBLS	講義と実技演習を組み合わせ, 講義を内容の小テスト, 実技試験を取り入れ実施する
3 4 5	脳血管障害 循環器障害	1)脳血管障害患者への対応 1)電気ショックとCPRの優先順位 2)病院内Medical Emergency Team	各代表的疾患においては, 事前学習を行い講義内容と関連させる
6 7	頸椎損傷	1)頸損疑いの気道確保 ・頸椎の非動化	成人の定義 思春期以降の年齢層を成人として対応する (年齢としては15歳超をとす)
8 9	溺水	1)溺水 ・偶発性低体温症 ・発見時の対応手順 ・通報とCPR開始の優先順位 ・呼吸の確認 ・回復体位 ・呼吸の確認 ・回復体位	小児の定義 1 歳から思春期以前 (年齢として15 歳程度, 中学生までとする) 乳児は1 歳未満とする
10 11 12	まとめ BLS演習 BLSプロバイダー研修	一次救命処置 事前演習 1)胸骨圧迫なしの人工呼吸 2)心停止の確認 3)CPRの開始手順 4)人工呼吸 ・胸骨圧迫の位置・方法・評価・中断時期 5)C・V比 6)AEDプロトコール	
15	〃	6)AEDプロトコール	
	試験	上記、終了後 期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
1) これまでに使用したテキスト及び資料 2) BLSヘルスケアプロバイダーマニュアル. シナジー出版		1) 科目終了時の最終試験の評価: 100% 2) BLS資格取得ができること	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態																																								
看護演習X (生活)	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習																																								
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																								
10回	1単位 (20時間)	必須	山下美紀他 (実務経験有)																																								
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護の対象は人間であり、看護の基本理念は「生命の尊重」である。本科目では、臨地実習で体験した事例を素材にして、日々の臨地実習の中から看護の意味と価値を見出し、次の看護につなげていくためにはどうしたらいいのか。このような問題と向き合うために、自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。そこで、本科目では、臨地実習の実践を振り返る探求的な方法の一つとして「看護リフレクション」の概念を用いて学習を展開する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護リフレクションとは何かについて説明できる。 2. 臨地実習での事例を基に、研究的なリフレクションでの学びを実施・説明することができる。 3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がりを説明できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。 <p>[実務経験] 山下美紀: 看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>[準備学習] リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 25%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護とリフレクション</td> <td>1) 臨地実習における看護実践と看護経験 2) 看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か</td> <td>リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活援助実習 看護リフレクションの実際</td> <td>1) リフレクションフレームワーク 2) 高齢者の特徴 2) 事例の選定・紹介</td> <td>看護援助、老年看護教育 ・エリクソンの自我発達理論 ・エイジング ・ジェロゴジー</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>学びの共有</td> <td>1) 事例の分析・解釈、看護理論の適用</td> <td>・不安 危機理論</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>2) 援助の意味、援助の価値</td> <td>・ソーシャルサポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>3) 行ったケアの評価</td> <td>・対象喪失</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>1) 事例のリフレクションから学べたこと</td> <td>・死の受容過程</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>2) 思考を広げまとめ演習で実施する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>プレゼンテーション準備</td> <td>1) 各グループでの成果発表会のための準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>事例発表</td> <td>1) 発表・まとめ</td> <td>振り返り・十分に思考し自己評価を行う</td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	看護とリフレクション	1) 臨地実習における看護実践と看護経験 2) 看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画	2	生活援助実習 看護リフレクションの実際	1) リフレクションフレームワーク 2) 高齢者の特徴 2) 事例の選定・紹介	看護援助、老年看護教育 ・エリクソンの自我発達理論 ・エイジング ・ジェロゴジー	3	学びの共有	1) 事例の分析・解釈、看護理論の適用	・不安 危機理論	4	〃	2) 援助の意味、援助の価値	・ソーシャルサポート	5	〃	3) 行ったケアの評価	・対象喪失	6	〃	1) 事例のリフレクションから学べたこと	・死の受容過程	7	〃	2) 思考を広げまとめ演習で実施する		8	プレゼンテーション準備	1) 各グループでの成果発表会のための準備		10	事例発表	1) 発表・まとめ	振り返り・十分に思考し自己評価を行う
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																								
1	看護とリフレクション	1) 臨地実習における看護実践と看護経験 2) 看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画																																								
2	生活援助実習 看護リフレクションの実際	1) リフレクションフレームワーク 2) 高齢者の特徴 2) 事例の選定・紹介	看護援助、老年看護教育 ・エリクソンの自我発達理論 ・エイジング ・ジェロゴジー																																								
3	学びの共有	1) 事例の分析・解釈、看護理論の適用	・不安 危機理論																																								
4	〃	2) 援助の意味、援助の価値	・ソーシャルサポート																																								
5	〃	3) 行ったケアの評価	・対象喪失																																								
6	〃	1) 事例のリフレクションから学べたこと	・死の受容過程																																								
7	〃	2) 思考を広げまとめ演習で実施する																																									
8	プレゼンテーション準備	1) 各グループでの成果発表会のための準備																																									
10	事例発表	1) 発表・まとめ	振り返り・十分に思考し自己評価を行う																																								
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																									
実習時に使用したテキストなど		1) 授業態度、参加状況を含む教員・自己評価に基づく評価: 100%																																									

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護演習XI (統合)	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	南原由理子他 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護の対象は人間であり、看護の基本理念は「生命の尊重」である。本科目では、看護の統合と実践実習で体験した事例を素材にして、日々の臨地実習の中から看護の意味と価値を見出し、次の看護につなげていくためにはどうしたらいいのか。このような問題と向き合うために、自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。更に社会で働くチームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師として、看護を統括的に展開・実践できるよう基礎となる理論と実践を関連付けて学</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護リフレクションとは何かについて説明できる。 2. 臨地実習での事例を基に、研究的なリフレクションでの学びを説明することができる。 3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がりを説明できる。 4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。 <p>【実務経験】南原由理子:看護師として5年以上の実務経験 学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>【準備学習】 リフレクション内容をふまえて、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	演習オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示	
2	統合技術前技術演習	2) 模擬事例のニーズを明確化し援助内容の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する
3		3) 援助計画の立案	
4		目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	
5	看護の統合と実践実習	4) 計画に基づいた援助の実施と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮したフィジカルアセスメントが出来る。
6		実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正	
7		看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	
8	看護リフレクションの実際	1) リフレクションフレームワーク	記述・描写→感情→評価→分析 →総合→行動計画 看護の基本姿勢の理解
9		2) 事例の紹介	
10	"	1) 事例の分析・解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係論 ・セルフケア理論 ・家族理論 人間の心理行動の理解
11		2) 看護理論の適用	
12	"	1) 援助の意味、援助の価値	<ul style="list-style-type: none"> ・コーピング理論 ・不安、悲嘆、対象喪失 看護援助、患者教育への活用
13		2) 行ったケアの評価	
14	学びの共有	1) 事例のリフレクションから学べたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・エンパワメント理論 ・自己効力感 ・ソーシャルサポート
15		2) 思考を広げまとめる	
16	プレゼンテーション準備	1) 成果発表会のための準備	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を受け持ち情報の整理 ・チームメンバー・リーダーシップ ・看護実践しながらの時間管理 ・他職種間の情報共有・調整 ・病院組織内の報告・連絡・相談の実際 ・チームとしての看護の役割
17	事例発表	1) スライドの最終チェック 2) 発表原稿作成	
18	発表	1) 発表 2) まとめ	文献の活用 振り返り、十分に思考する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・臺有桂他編:在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・臺有桂他編:在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 [参考文献] ・単元に関係する看護学のテキスト		1) 授業態度や参加状況を含む評価表に基づく評価100% 授業は必ず全日程参加すること	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
総合看護セミナーⅠ (総合看護過程Ⅰ)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	山下美紀・南原由理子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験取得に向けて、学生全員で4年間の学びを復習し知識の定着を図る。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 既修得科目の内容について、各自で振り返り後、グループワークを通じて学びなおしたい項目を明確にできる。 2. グループワークを通じて、各項目、各科目における基本的知識・技術を確認できる。 3. 総合看護セミナーⅠの授業に向けて各領域における頻出項目・弱点項目が明確にできる</p> <p>【実務経験】看護師として5年以上の実務経験 学生が既習学習の知識を想起あるいは復習し、確かな知識の習得となるよう能動的な学習を支援する</p> <p>【準備学習】 課題等に取り組み授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	授業のガイダンス	1) 本単元の進め方のガイダンス 2) 看護師国家試験出題基準について	看護師国家試験出題基準
2	人体の構造と機能	以下、それぞれの単元ごとに進める	国家試験頻出疾患の復習 グループワーク 発表を通して情報共有 問題に取り組み知識の定着
3	疾病・回復成立促進	1) 看護師国家試験出題基準の確認 2) 各領域、各科目における基本的知識・技術の確認 3) 各領域における弱点項目・頻出項目の確認	
4	衛生統計・社会福祉	4) 出題基準2200項目の必要な知識と学びなおす項目	
5	基礎看護学	〃	
6	〃	〃	
7	成人看護学	〃	
8	〃	〃	
9	老年看護学	〃	
10	精神看護学	〃	
11	小児看護学	〃	
12	母性看護学	〃	
13	地域・在宅看護論	〃	
14	看護の統合と実践	〃	
15	まとめ	総合看護セミナーⅡに向けての準備	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・国試模擬試験・国家試験の問題集 ・スタディガイド ・国民衛生の動向 		1)科目終了時の最終試験の評価:50% 2)授業態度や参加状況、課題への取り組みを含む評価:50%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
総合看護セミナーⅡ (総合看護過程Ⅱ)	看護学科/4年次	令和7年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必須	吉田展子他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験取得に向けて、学生全員で4年間の学びを復習し知識の定着を図る。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合看護セミナーⅠでのグループワークを通じて必要な知識と学びなおしたい項目を明確にできる。 2. 各領域、各科目における基本的知識・技術を再確認できる。 3. 各領域の看護展開に必要な基本的看護技術のポイントが説明できる。 <p>【実務経験】吉田、森、南原他:看護師として5年以上の実務経験 学生が既習学習の知識を想起あるいは復習し、確かな知識の習得となるよう能動的な学習を支援する</p> <p>【準備学習】 課題等に取り組み授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	人体の構造と機能	1) 本単元の進め方のガイダンス 2) 総合看護セミナーⅠでの振り返り	
2	疾病・回復成立促進	3) 各領域、各科目における基本的知識・技術の確認 4) 各領域における弱点補強	
3	衛生統計・社会福祉		
4	基礎看護学		
5	〃		
6	成人看護学		
7	〃		
8	〃		
9	老年看護学		
10	〃		
11	精神看護学		
12	小児看護学		
13	母性看護学		
14	地域・在宅看護論		
15	看護の統合と実践		
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・国試模擬試験・国家試験の問題集 ・スタディガイド ・国民衛生の動向 		1)科目終了時の最終試験の評価100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
総合看護セミナーⅢ (卒業前演習)	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
15 回	1単位(20 時間)	必須	南原由理子/山下美紀 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここではその基盤となる観察技術や情報収集から対象の個別性を理解し、看護の方向性を見出し実施評価する。また4年間の集大成として知識・技術・態度を統合して看護のあり方を再確認することをねらいとする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 事例患者の健康状態やニーズから必要な看護援助について根拠をふまえて説明できる。 事例患者の健康状態やニーズをふまえて、必要な看護援助を安全・安楽・自立の視点、かつ時間制約の中で実施できる。 実施した援助についてリフレクションできる。 <p>【実務経験】南原、山下:看護師として5年以上の実務経験 学生の実習到達目標をふまえ、知識・技術・態度の統合が図れるよう支援する</p> <p>【準備学習】 事例対象を理解できるよう学習に取り組む。また、事例患者に必要な看護援助を時間制約の中でできるよう練習する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護の統合と実践 実習	1) 本単元の進め方のガイダンス	優先度の高い看護問題を抽出する 優先順位と時間配分を考慮する 業務計画の根拠を明確にする
2	演習	2) 演習オリエンテーション 模擬病院・模擬患者の提示	
3	"	3) 模擬病棟での複数受け持ち患者の事例展開	
4	"	4) 看護問題の抽出と目標・計画の立案	
5	"	5) 複数患者の1日の業務計画の立案	
6	"		
7	"		
8	"		
9	"		
10	技術演習	1) 卒業前技術試験	<ul style="list-style-type: none"> ・複合技術として評価する ・原理原則に基づいた技術の演習 ・グループ内でディスカッションを積極的にを行い技術を高める ・安全・安楽・自立・尊厳を考慮した技術
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
松下由美子他編:看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版		1) 各技術試験の評価100% * 技術試験に合格した者が単位認定とする 授業に臨む姿勢(準備・授業態度)も評価対象とする。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
生活援助実習	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	山下 美紀 他(実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の発達段階と加齢の現象および健康障害による問題を把握し、統合的に理解する。 2. 対象とその家族に応じ、臨床現場の実際に即した看護が展開できる能力を養う。 <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象の持つ問題を把握することができる。 2. 対象のセルフケア能力をふまえ、看護計画を立案し残存機能を活かした日常生活援助ができる。 3. 健康障害の複雑性・多様性を理解し、既往症や障害など、健康レベルに応じた援助ができる。 4. 看護に携わる専門職としての使命と責任を自覚して自己の老年観を見出すことができる。 <p>【実務経験】山下他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p>実習病院において、検査・治療・処置などを受ける老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。</p> <p style="padding-left: 40px;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージにおける老年期の発達課題を考えることができる。 2. 老年期の特性を理解し、その人の死生観、生きがい等を知ることができる。 3. 老人福祉の現状と問題を知り、系統的に理解することができる。 4. 老化に伴って起こる疾病・障害に応じた、基礎的看護技術や日常生活への援助技術(入浴・洗髪介助、更衣介助、食事介助、トイレ誘導、おむつ交換など)ができる。 5. 人間としての終末期にある状態を知ることができる。 6. 社会資源の活用法を学ぶことができる。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
老年看護学概論老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱで使用したテキスト及び演習で配付した資料など ・NANDA-I看護診断		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
精神看護学実習	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位(90 時間)	必須	佐藤 洋子・塩山 秀子
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>精神に障害をもつ対象を理解し、個別的なかかわりの中で病気としての行動や人間としての行動を理解し、対象を総合的に把握すると共に健康を回復するための看護ができる能力を養う。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に患者に関心に向け、精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に説明できる。 2. 精神医療の特徴と看護の役割を説明できる。 3. 患者とのコミュニケーションをとる中で徐々に関わりの発展を示し、対象の健康の回復に向けた看護が展開できる。 4. 患者の立場に立って思いや行動を理解することを通して、自己の感情や行動の傾向に気づき、自己の対人関係を発展することができる能力を養う。 <p>【実務経験】奈良・徳竹他: 看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p style="text-align: center;"><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神患者の慢性期患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. それぞれ1日、急性期病棟・デイケア・断酒会・院外活動の実習を行い、慢性期との違いを知る。 3. レクリエーションを実習グループで考え、企画・実施する。 4. 実習中において関わった患者とのやりとりをプロセスレコードとして記録する。 グループミーティングを行い、新たななかかわり方を学ぶ。 5. 自分自身の振り返りを行い、接し方について学ぶ。 			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ・精神科方法論Ⅰ～Ⅲで使用したテキスト及び演習で配付した資料・「用語集」・「プロセスレコードについて」など		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
地域・在宅看護論実習	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	2単位 (90 時間)	必須	林 晶子 他(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

在宅療養支援における在宅看護の機能・役割および特性を理解し、在宅看護活動のあり方や課題について学ぶ。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 地域の中で生活する療養者とその家族を総合的にとらえ、療養者とその家族が抱える問題をアセスメントし、問題解決能力を養う。
2. 地域の中で生活する療養者とその家族に対する生活支援の実験を経験することによって在宅看護の理解を深める。
3. 在宅療養者とその家族を支える必要な社会資源を理解でき、その活用方法および連携について説明することができる。
4. 在宅で生活している在宅療養者とその家族を支援する在宅看護を通じて、施設内看護の役割と機能について考察できる。

【実務経験】林他:看護師として5年以上の実務経験

これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する

【準備学習】

実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む

[授 業 の 内 容]

＜実習展開＞ 詳細は、「実習の手引き」を参照

1. 香川県内の訪問看護ステーション、デイケア、デイサービス等において、学生を配置する。
2. 実習期間中は適宜、学内でまとめを行う。実習終了後には、学びの発表を行う。
3. 初回訪問時は実習について説明をし、対象者の同意を得る。
4. 訪問看護実習は訪問看護師に同行し1名は継続(2～3回程度)して受け持ち看護の視点より生活支援のあり方を学ぶ。
5. 対象により関係機関・関係職種との連絡会等がある場合は、可能な範囲で参加する。
6. 可能な範囲で在宅療養者とその家族を支援している社会資源に参加する。

[使用テキスト]

・既習テキスト

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。

(詳細については、評価表参照)

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
看護の統合と実践実習	看護学科/4年次	令和7年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位 (90 時間)	必須	南原 由理子 他 (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] チームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解すると共に、看護を統括的に展開し、看護の実践能力を高めることをねらいとする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)] 1. 受け持ち患者さんの全体像を把握した上で複数の看護計画の実施ができる。 2. 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割を理解する。 3. 看護管理の実際を知る。 4. 診療の補助技術を安全性・効率性を考慮しながら見学及び一部実施ができる。</p> <p>【実務経験】南原他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容] <実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日勤業務の1日の流れを知る。 2) 受け持ち患者の援助の根拠を理解し、患者の疾患の理解や状態などをふまえて患者の全体像を記述する 3) 受け持ち看護師が立案した看護計画に沿って、複数の受け持ち患者に必要なその日の援助計画を立案することができる。 4) 受け持ち患者に必要な援助を、優先順位とタイムマネジメントを考慮して実施することができる 5) 医療チームの一員として報告・連絡・相談ができる。 6) 援助を時間内に行うなど時間管理の必要性を認識できる 7) 看護チームでの看護師の役割を理解できる 8) 医師への報告・連絡調整について理解できる。 9) チーム及びスタッフへの連絡調整が理解できる。 10) 看護部の役割が理解できる。 11) 安全管理、感染管理が理解できる。 12) 物品管理、部下の教育指導、勤務時間管理が理解できる。 13) 病院内外の部門との連絡調整について理解できる。 14) 診療の補助技術の見学と実施ができる。 			
[参考資料]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
		実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

令和7年度
授業進度計画

令和7年4月1日発行

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校
